

令和 6 年度
橋梁交 第 3 号

谷後橋補修設計業務委託

設計図面

令和 6 年 12 月

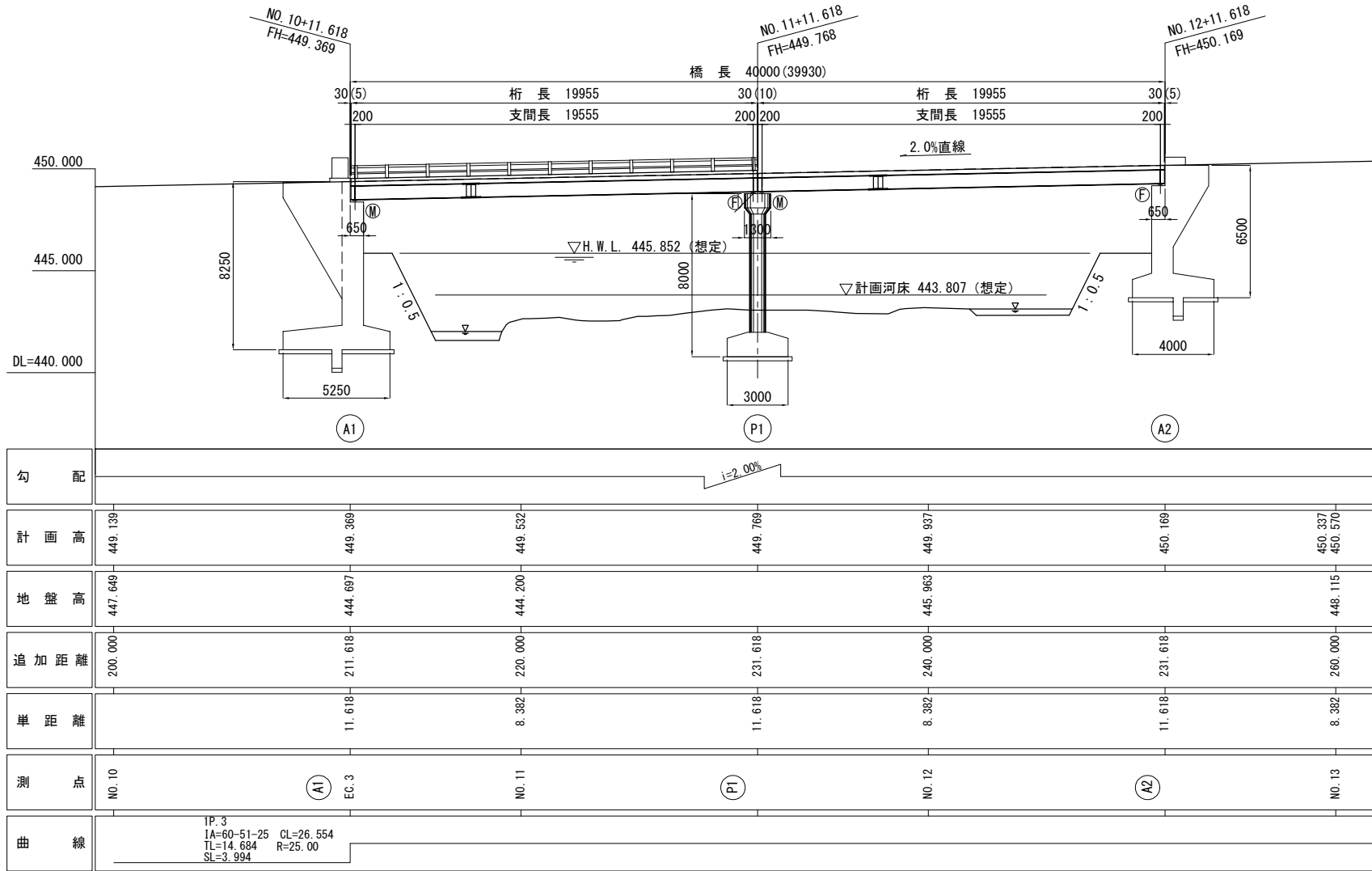
湯 沢 町
株式会社 構造技研新潟

【図 面 目 録】

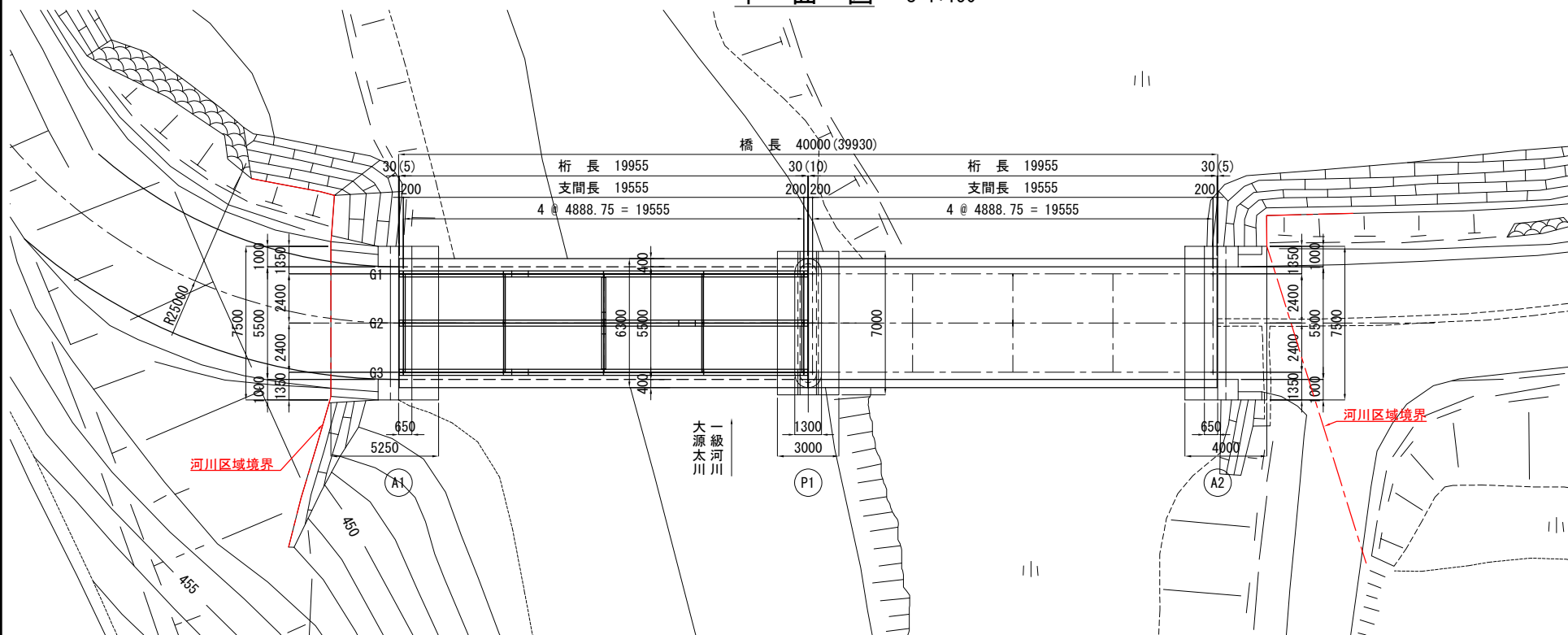
図 面 名 称	図面番号
谷後橋 橋梁一般図	1
谷後橋 補修一般図	2
谷後橋 塗装塗替図	3
谷後橋 主桁補修図	4～10
谷後橋 床版補修図	11～12
谷後橋 支承詳細図	13～14
谷後橋 支承取替図	15～16
谷後橋 橋座拡幅図	17～19
谷後橋 仮受け補強図	20
谷後橋 伸縮装置補修図	21
谷後橋 地覆打換図	22
谷後橋 取替え防護柵詳細図	23
谷後橋 取替え防護柵割付け図	24
谷後橋 舗装打換・橋面防水図	25
谷後橋 排水装置補修図	26～27
谷後橋 仮設足場図（参考図）	28
谷後橋 主桁・横桁構造図	29
谷後橋 既設支承詳細図	30
谷後橋 A1 橋台構造一般図	31
谷後橋 P1 橋脚構造一般図	32
谷後橋 A2 橋台構造一般図	33

谷後橋 橋梁一般図

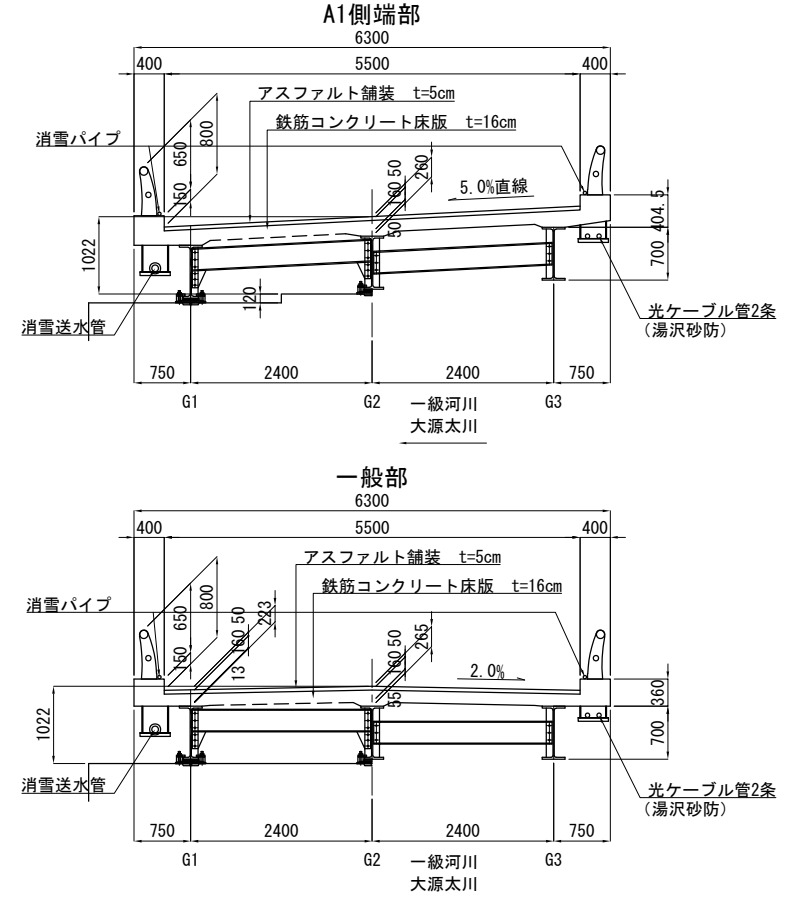
側 面 図 S=1:150



平面图 S=1:150



断面图 S=1:50



現橋諸元

橋 梁 名	谷後橋（ヤゴバシ）
路 線 名	二級町道 谷後線（緊急輸送道路：2次）
所 在 地	新潟県南魚沼群湯沢町大字土樽 地内
交 差 条 件	一般河川 大源太川（河川管理者：新潟県）
橋 長	40.000m（現地実測値：39.930m）
桁 長	19.955m × 2
支 間 長	19.555m × 2
主 桁 間 隔	2 × 2.40m（3主桁）
全 幅 員	6.300m
有 効 幅 員	5.500m
径 間 数	2径間
斜 角	90° 00' 00"
平 面 線 形	R=∞
上 部 工 形 式	単純鋼合成H桁橋
下 部 工 形 式	橋台：逆T式橋台（A1、A2）、橋脚：壁式橋脚（P1）
基 礎 工 形 式	直接基礎
竣 工 年	昭和49年11月（西暦1974年11月）
設 計 荷 重	二等橋：TL-14 雪荷重：100kg/m ²
適 用 基 準	道路橋示方書・同解説（昭和47年）
上 部 工 材 質	SM50YA（現行：SM490YA）、SS41（現行：SS400）
設 計 業 者	上部工：新日本製鐵（株） 下部工：（株）構造技研
施 工 業 者	上部工：トビー工業（株） 下部工：（株）森下組
添 架 物	光ケーブル管（湯沢砂防）：2条
	消雪送水管：1条
	消雪管：2条
塗 装 仕 様	不明

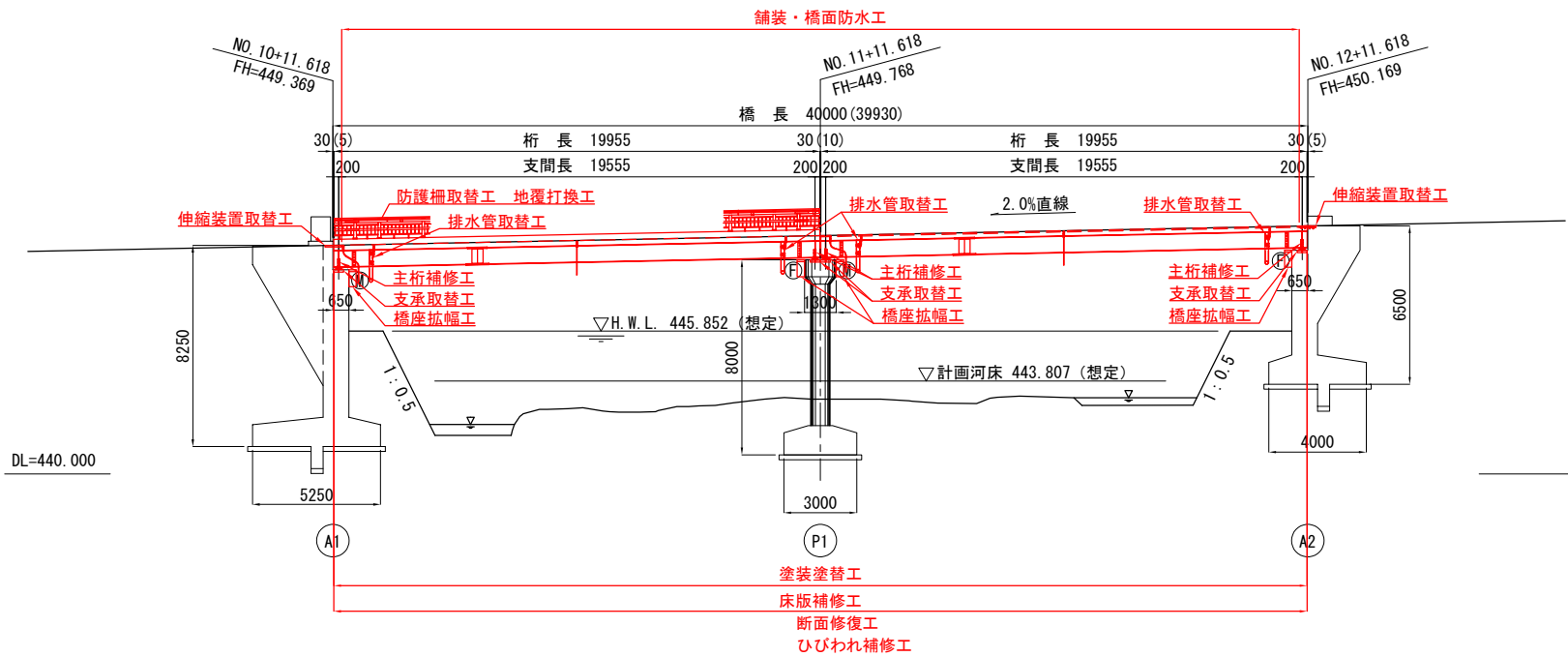
<注記>

1. 本図面は、既存資料（設計図面、工事図面等）を基に復元（CAD化）したものである。
2. 土中部及び河川断面、地形図は、既存資料よりトレスしたものである。
3. () 内寸法は、現地実測値を示す。
4. H.W.L.は、堤防天端高を計画高水位と想定したものである。また、計画河床は、H.W.L.と計画洪水流量 $Q=410\text{m}^3/\text{sec}$ の関係から逆算して設定したものである。

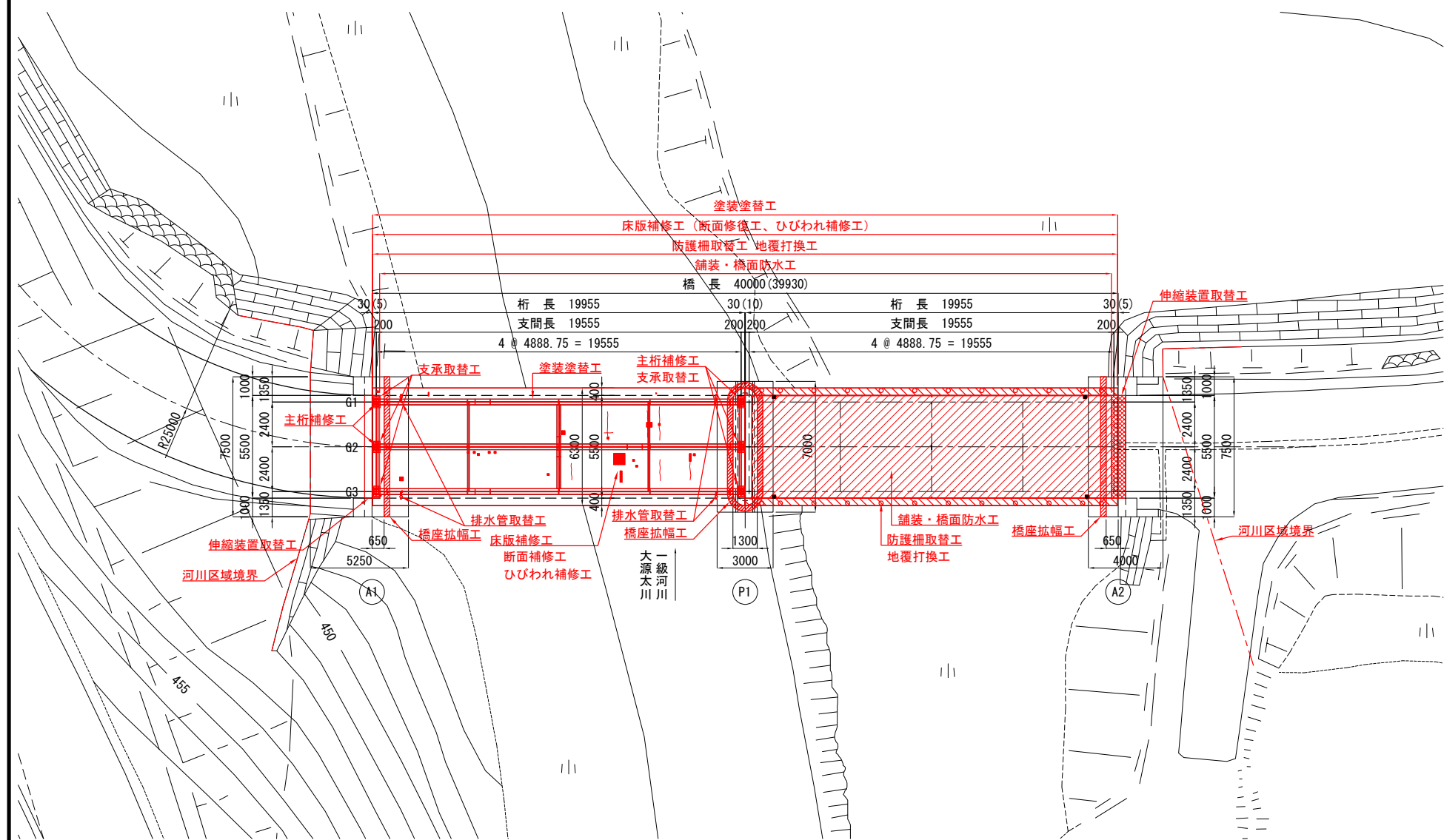
年度		工事番号		号
谷後線 南魚沼郡湯沢町大字土樽 地内				
工事				
谷後橋 橋梁一般図				
縮 尺	図 示	図面全 33 葉の 1		
測 量			令和 年 月	
設 計	株式会社 構造技研新潟		令和 6年12月	
湯 沢 町				

谷後橋 補修一般図

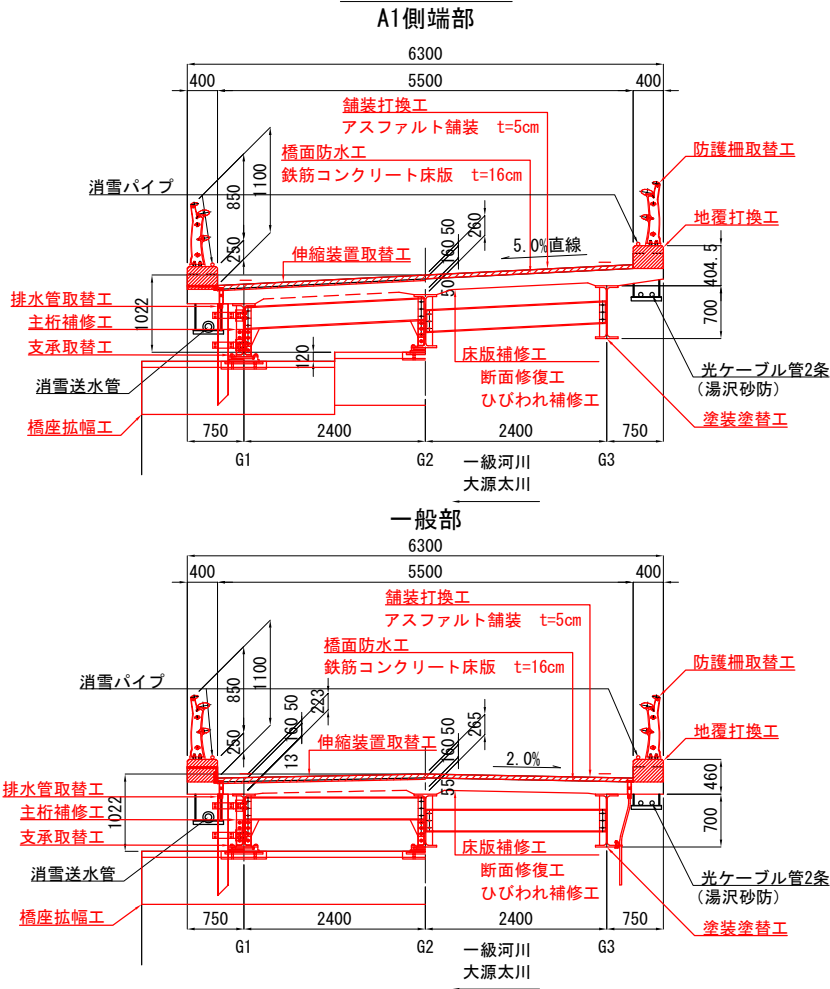
側面図 S=1:150



平面図 S=1:150



断面図 S=1:50



補修工種	施工箇所または対象区間
塗装塗替工	A1～A2径間 (全径間)
主桁補修工	A1～P1径間 (A1) : G1, G2支点 (P1) : G1, G2, G3支点 P1～A2径間 (P1) : G1, G2, G3支点 (A2) : G2, G3支点
床版補修工 (断面修復、ひび割れ補修)	A1～A2径間 (全径間)
支承取替工	A1～A2径間 (全径間全箇所)
橋座拡幅工	A1, P1, A2 (全箇所)
伸縮装置取替工	A1, A2
舗装打換工	A1～A2径間 (全径間)
橋面防水工	A1～A2径間 (全径間)
防護柵取替工	A1～A2径間 (全径間)
地覆打換工	A1～A2径間 (全径間)
排水装置補修工 (排水管取替え)	A1～A2径間 (全箇所)

※施工箇所または対象区間は設計段階のものであり、全て現地再実測 (再調査) の上決定する。

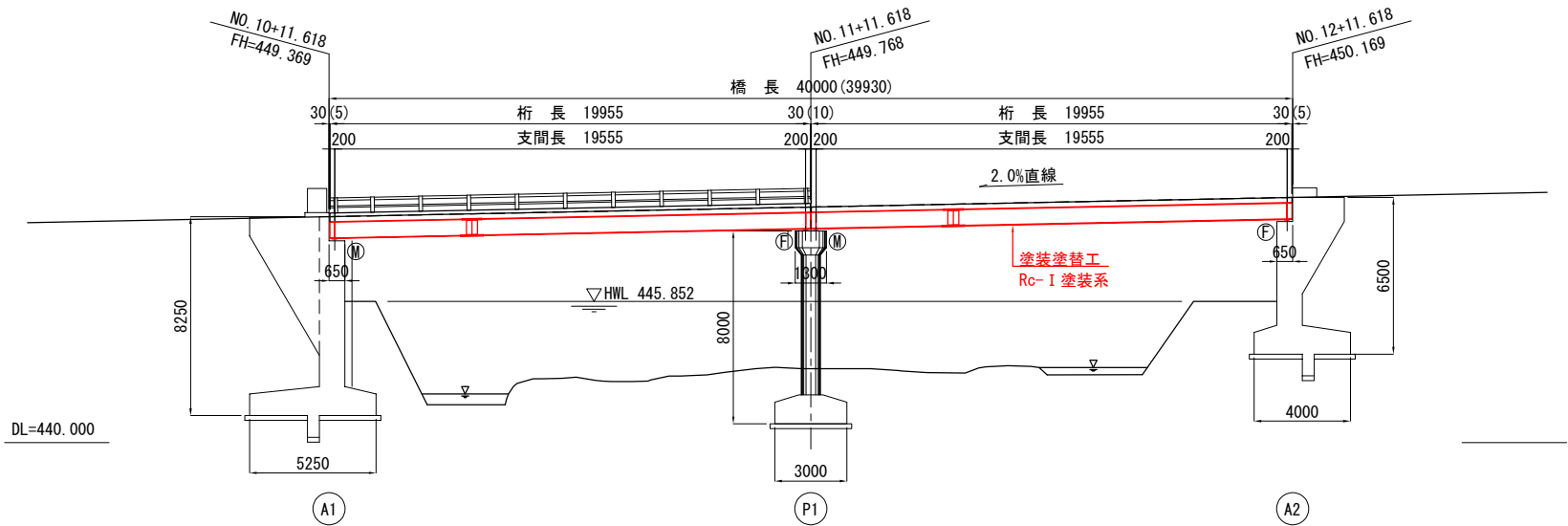
<注記>

- 本図面は、既存資料 (設計図面、工事図面等) を基に復元 (CAD化) したものである。
- 土中部及び河川断面、地形図は、既存資料よりトレスしたものである。
- () 内寸法は、現地実測値を示す。
- H.W.L. は、堤防天端高を計画高水位と想定したものである。また、計画河床は、H.W.L. と計画洪水流量 $Q=410\text{m}^3/\text{sec}$ の関係から逆算して想定したものである。

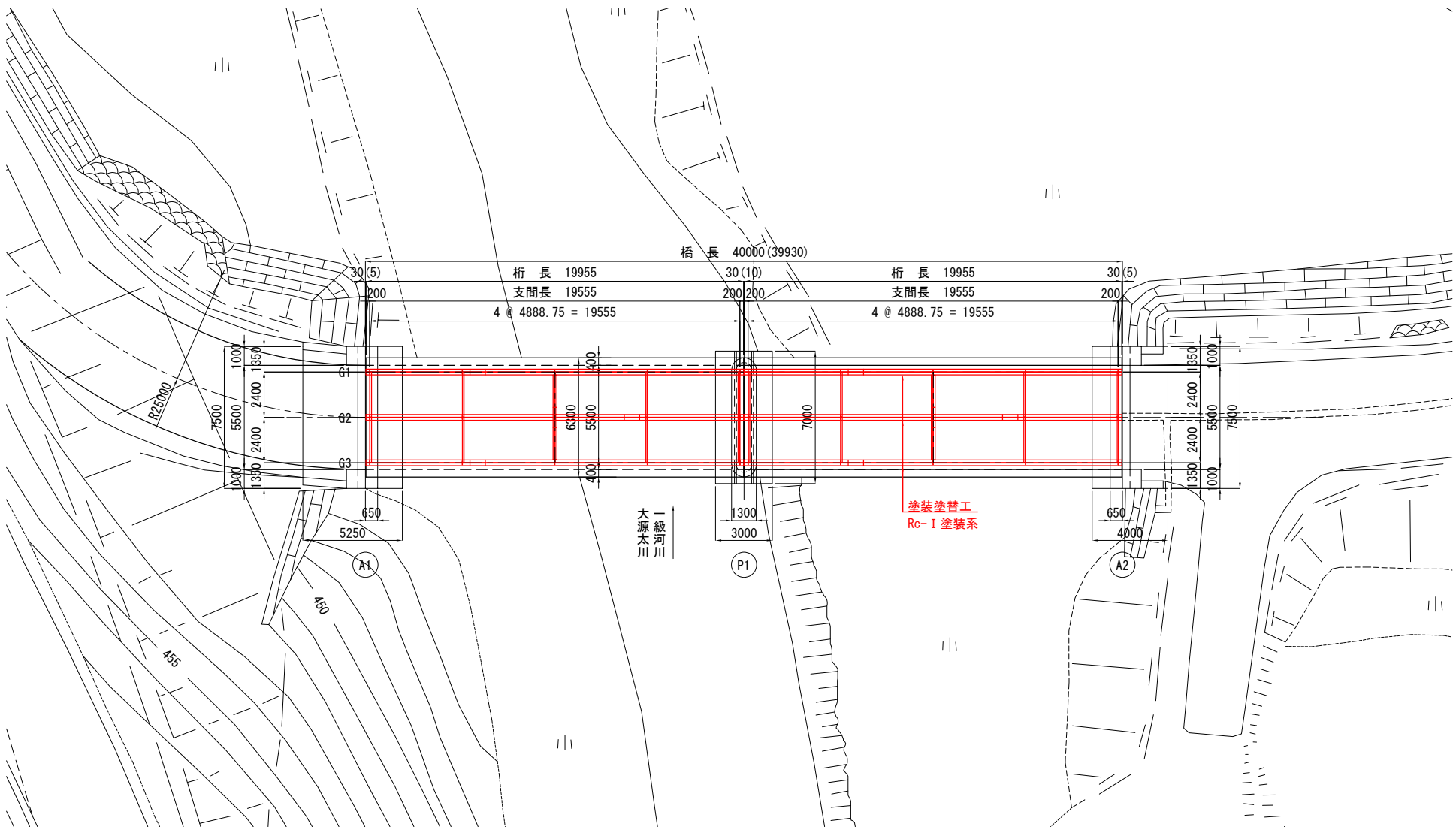
年度	工事番号	号
谷後線	南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
工事		
谷後橋 橋梁一般図		
縮尺	図示	図面全 33 葉の 2
測量		令和 年 月
設計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月
湯 沢 町		

谷後橋 塗装塗替図

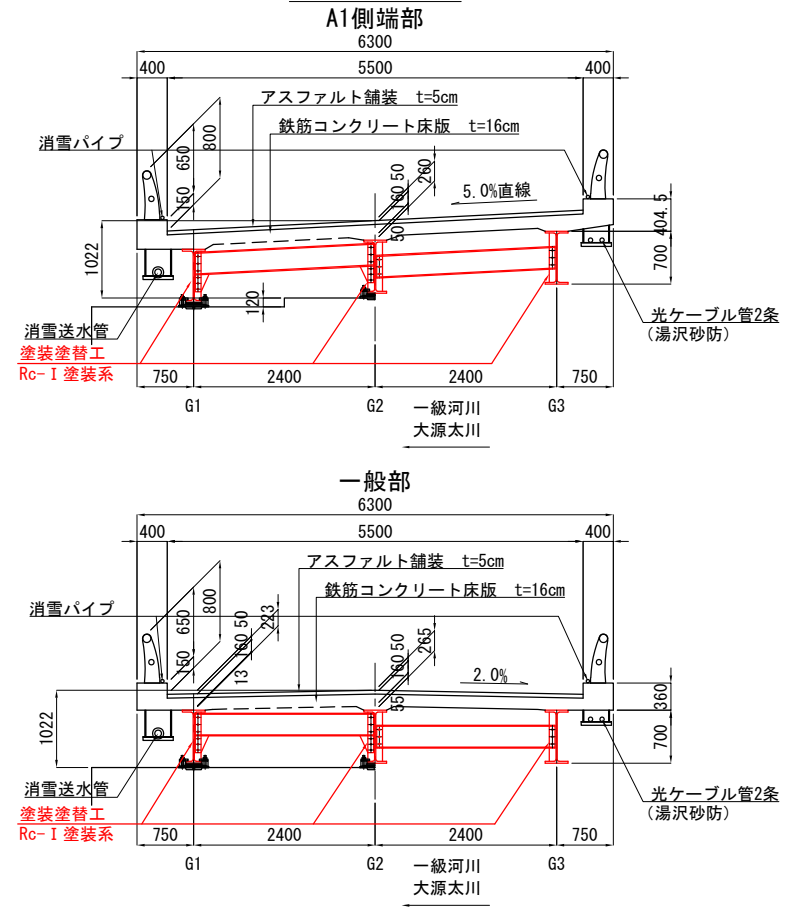
側面図 S=1:150



平面図 S=1:150



断面図 S=1:50



上部工塗装仕様 Rc-I 塗装系 (スプレー^{※1})

	塗料名	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	1種 ^{※3}		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日 ^{※2}
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日～10日

※1. 原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。
※2. 現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3. プラスト処理による防せい度はISO Sa2 1/2とする。

現橋塗装仕様 不明

塗装時期 不明

(竣工年 昭和49(西暦1974)年11月)

<注記>

- 各寸法は現場再実測の上決定すること。
- 塗装塗替工は、上部工下面での補修完了後に行うこととする。
- 主桁フランジ角部は半径2mm以上の面取りを行うこと。
- () 内寸法は、現地実測値を示す。

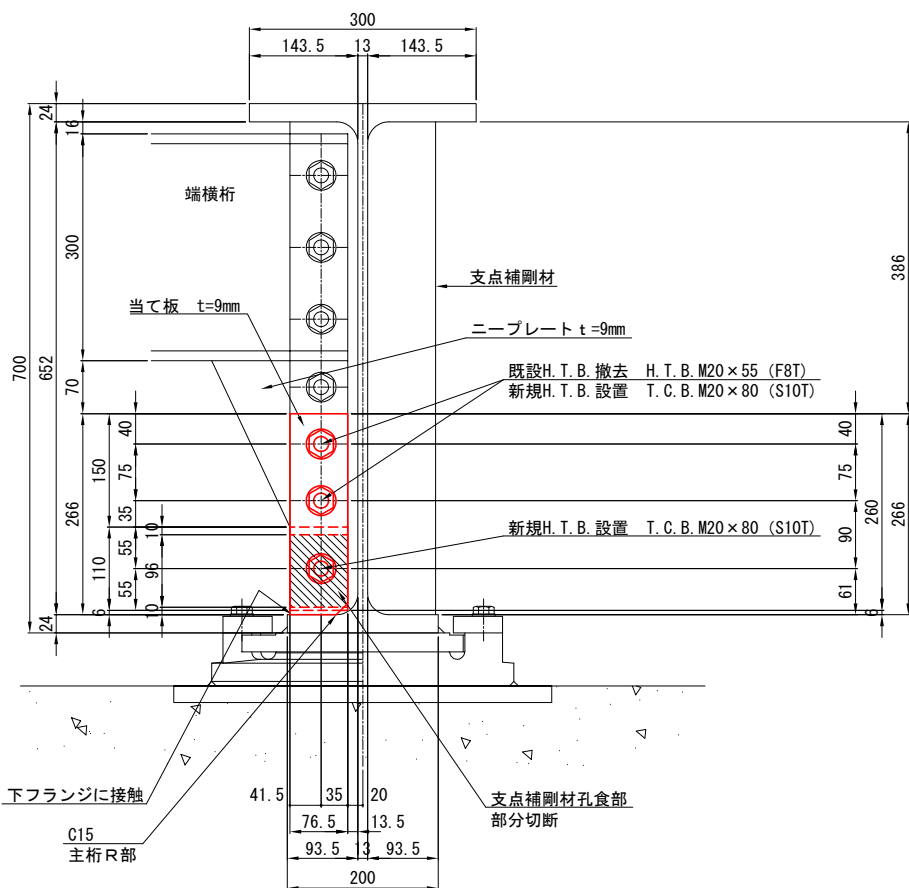
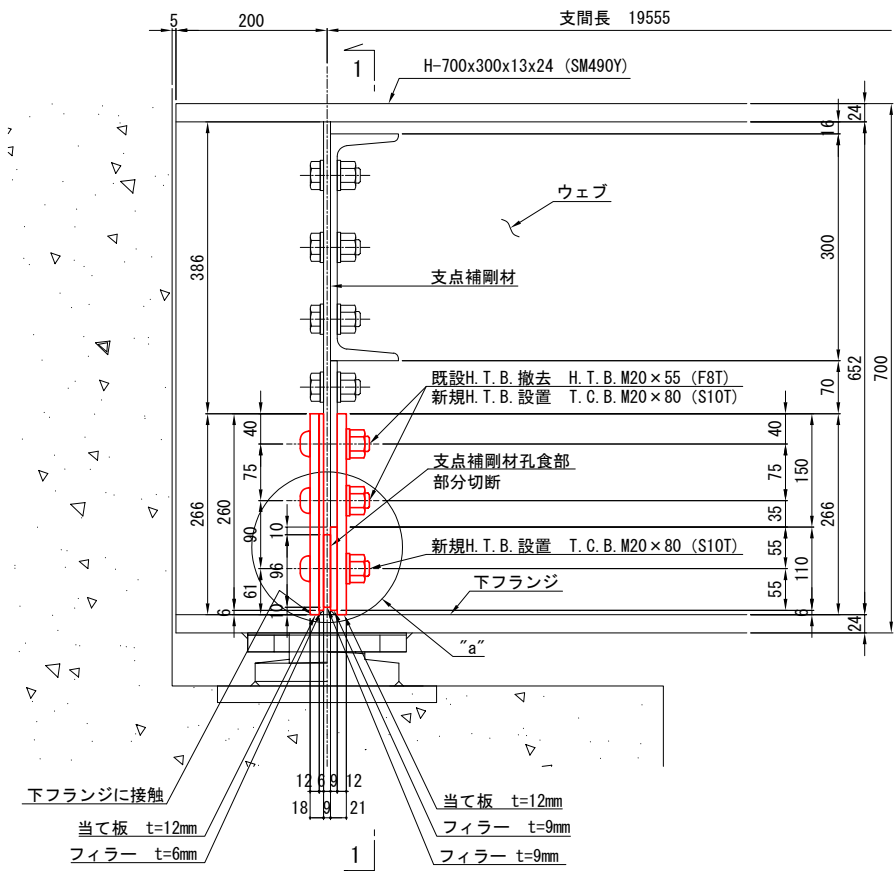
年度	工事番号	号
谷後線	南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
工事		
谷後橋 塗装塗替図		
縮尺	図示	図面全 33 葉の 3
測量		令和 年 月
設計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月
湯 沢 町		

谷後橋 主桁補修図(1)

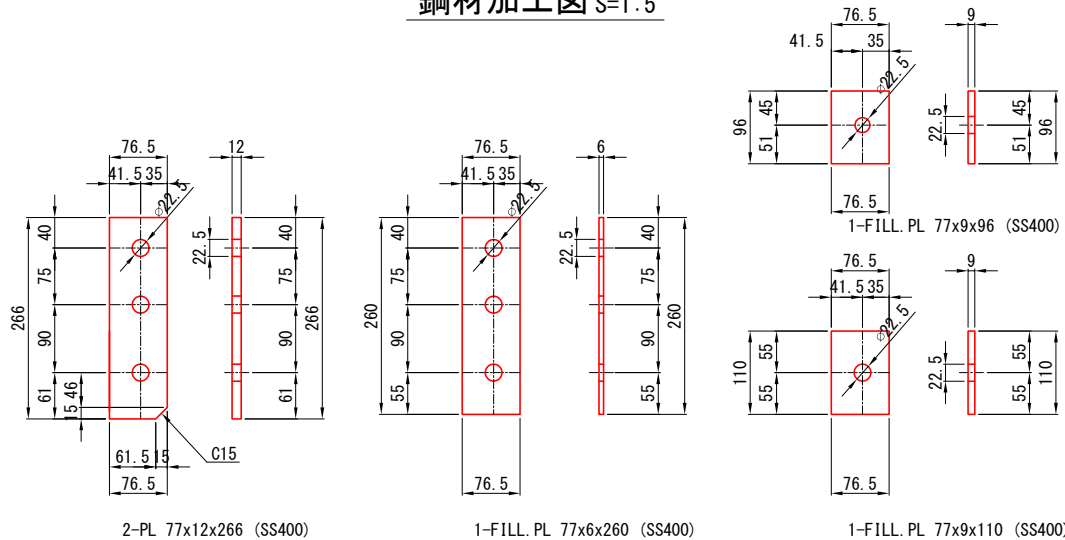
第1径間 A1G1支点

1-1

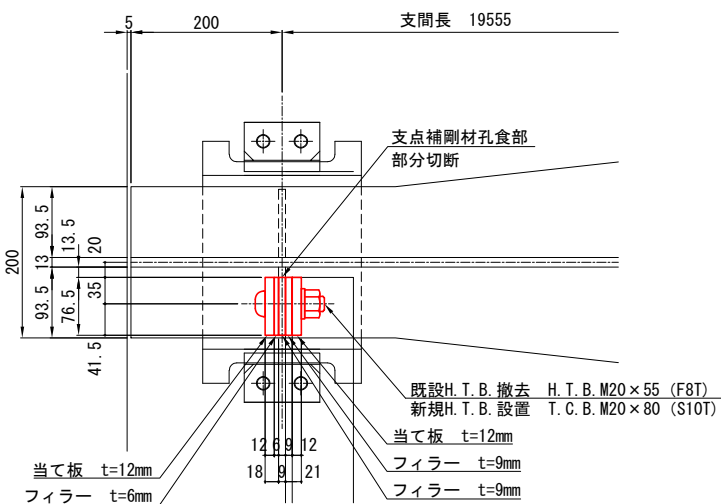
側面図 S=1:5



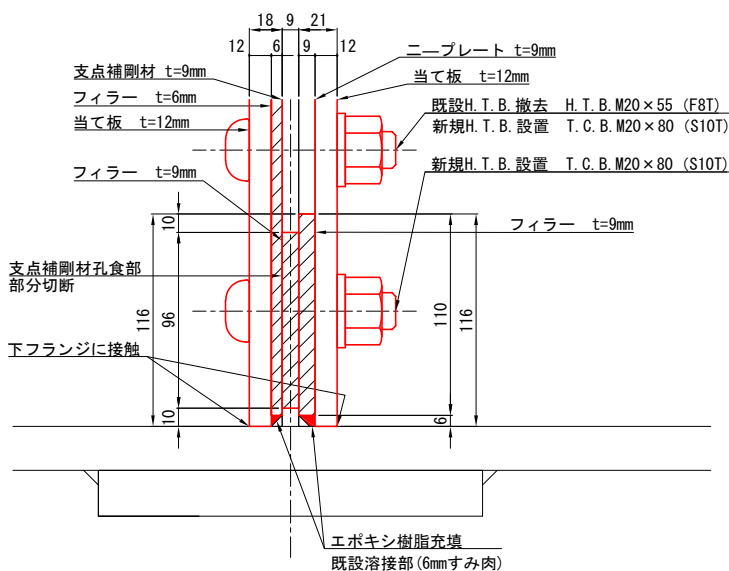
鋼材加工図 S=1:5



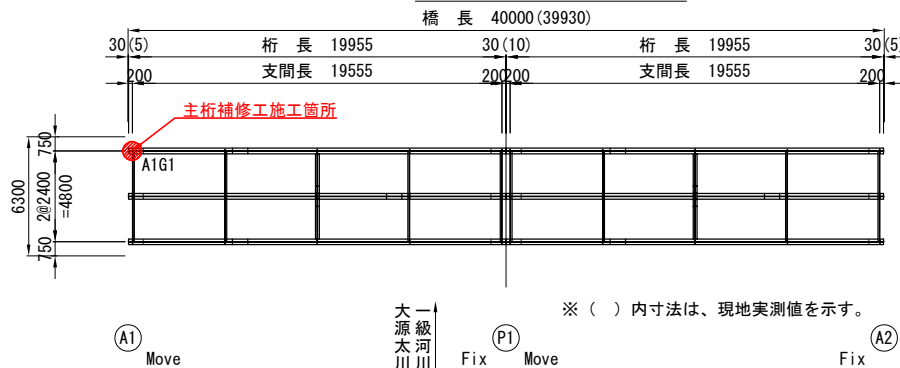
平面図 S=1:5



a部詳細図 S=1:2



施工位置図 S=1:200



- <注記>
- 各寸法は現場再実測の上決定すること。
 - 既設の寸法や取合い関係を計測し、結果を製作・施工に反映させること。
 - 既設部材の孔明け径はφ22.5mmとする。
 - 特記なき材質はSS400材とする。
 - 腐食減厚面と補修用鋼板との間はレジパッチ工法（エポキシ樹脂充填工法）と同等な方法にて行うこと。

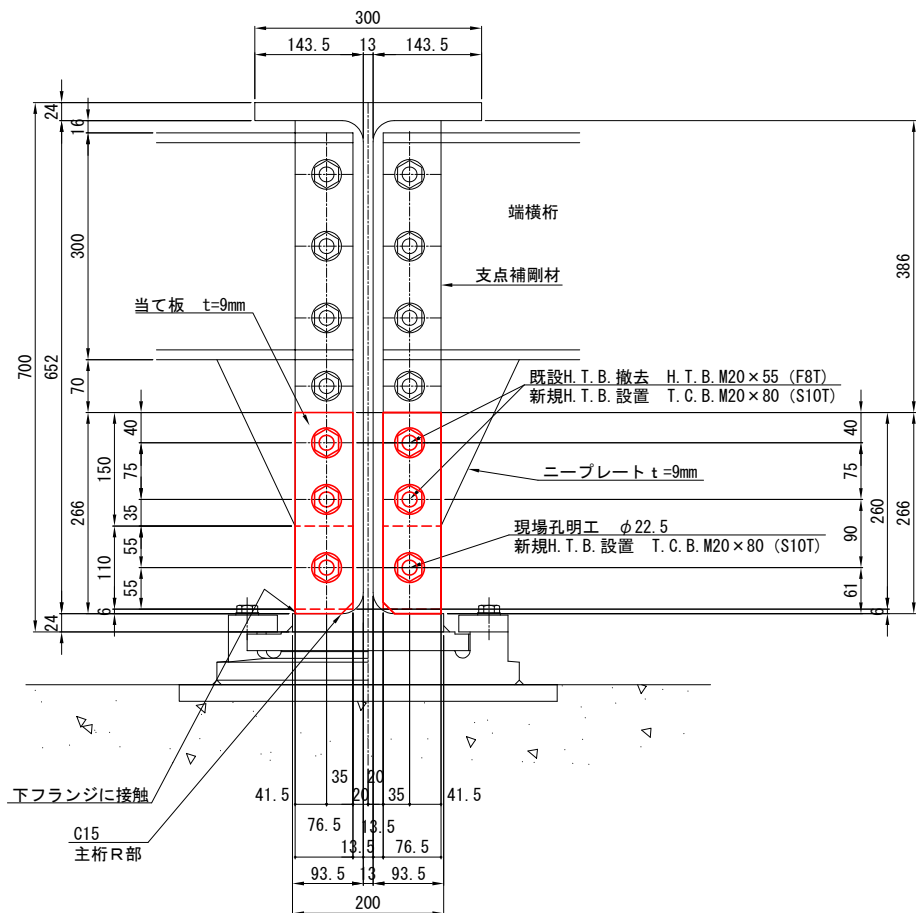
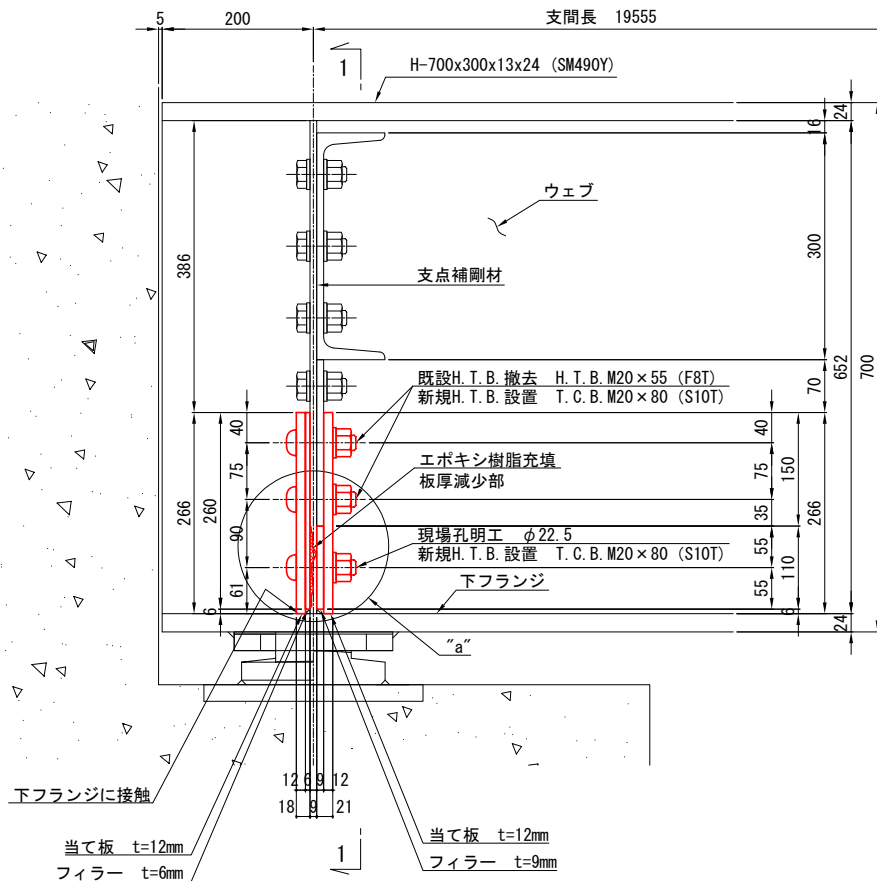
年度	工事番号	号
谷後線	南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
工事		
谷後橋 主桁補修図(1)		
縮尺	図示	図面全 33 葉の 4
測量		令和 年 月
設計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月
湯 沢 町		

谷後橋 主桁補修図(2)

第1径間 A1G2支点, P1G2支点

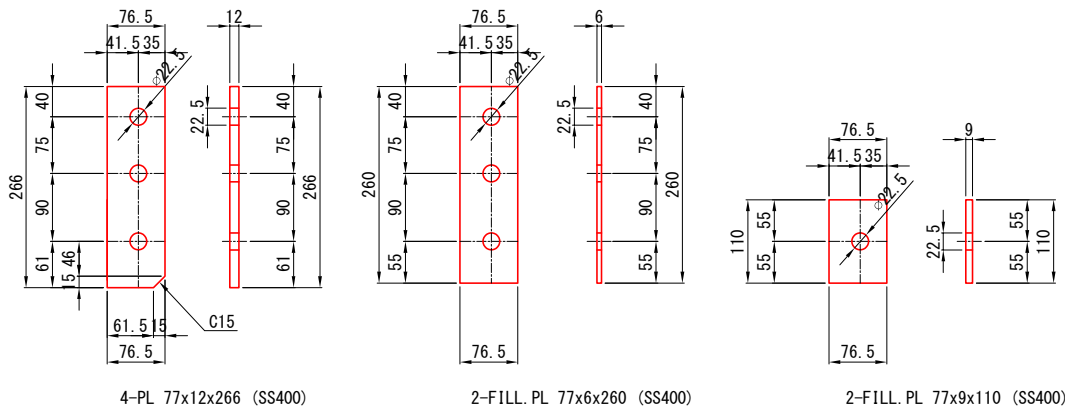
1-1

側面図 S=1:5

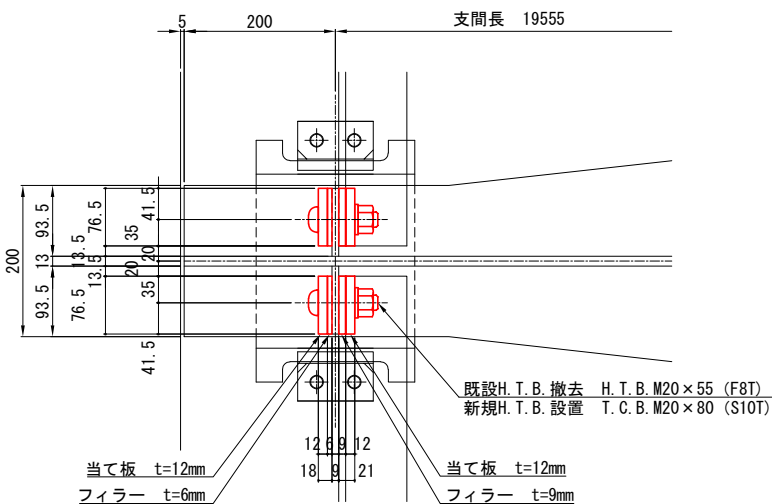


鋼材加工図 S=1:5

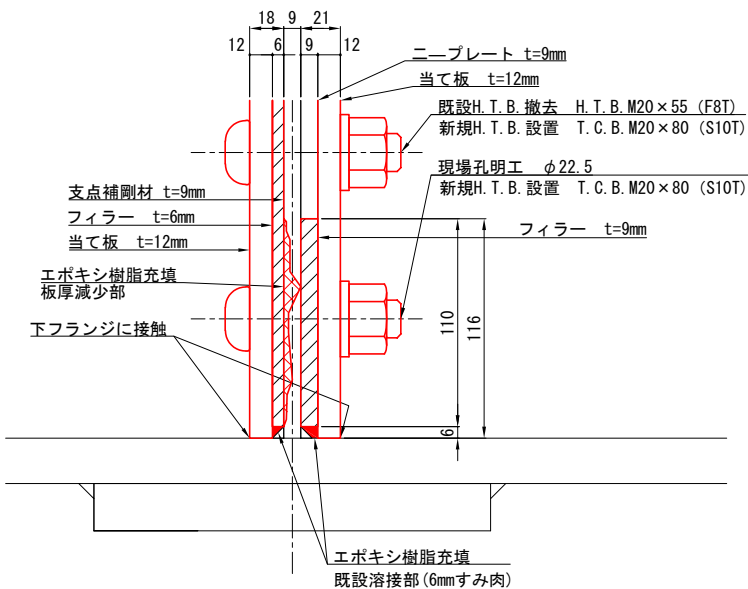
1支点当たり



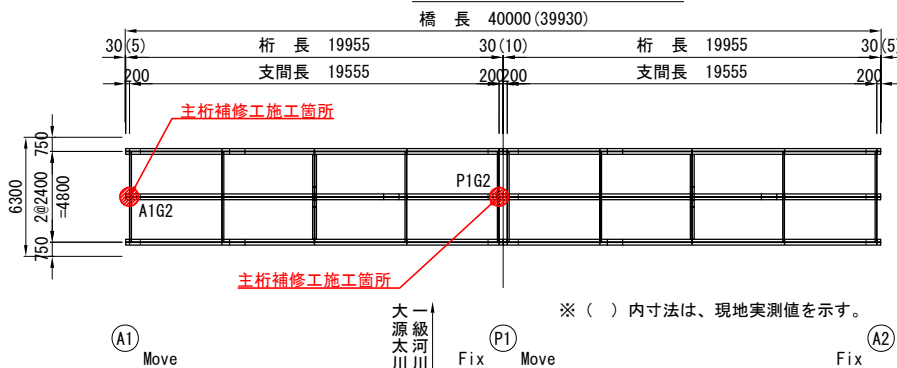
平面図 S=1:5



a部詳細図 S=1:2



施工位置図 S=1:200



<注記>

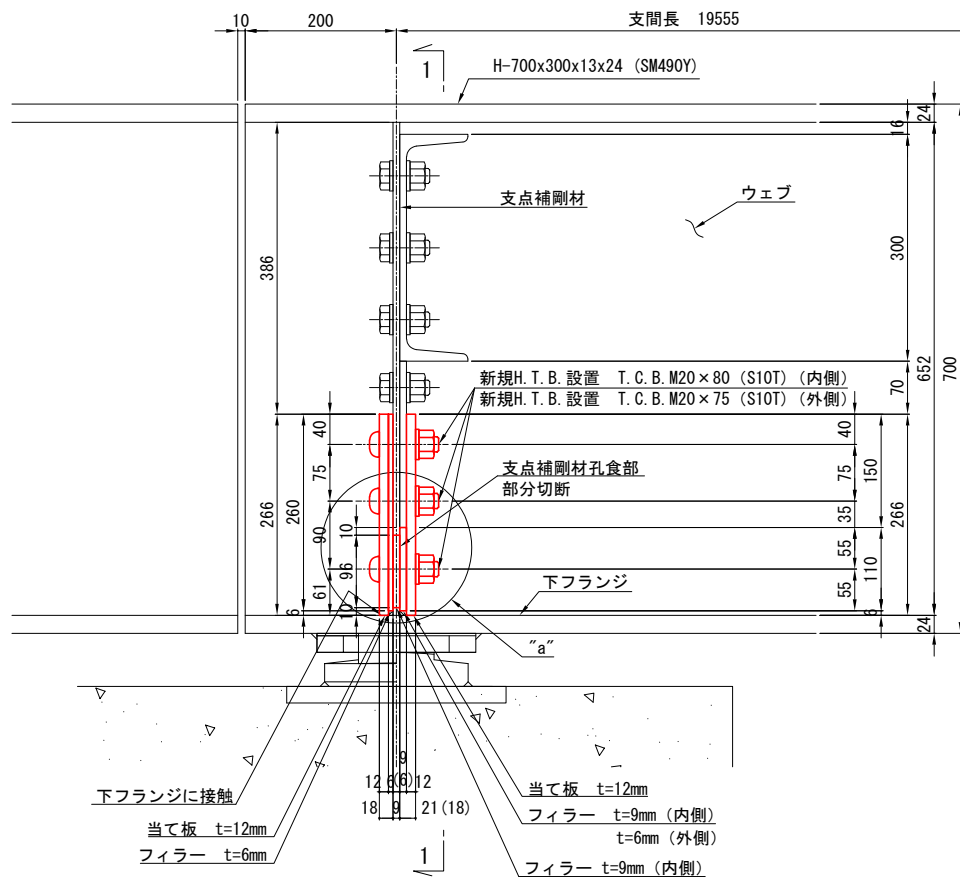
1. 各寸法は現場再実測の上決定すること。
2. 既設の寸法や取合い関係を計測し、結果を製作・施工に反映させること。
3. 既設部材の孔明け径はφ22.5mmとする。
4. 特記なき材質はSS400材とする。
5. 腐食減厚面と補修用鋼板との間はレジパッチ工法（エポキシ樹脂充填工法）と同等な方法にて行うこと。

※（ ）内寸法は、現地実測値を示す。

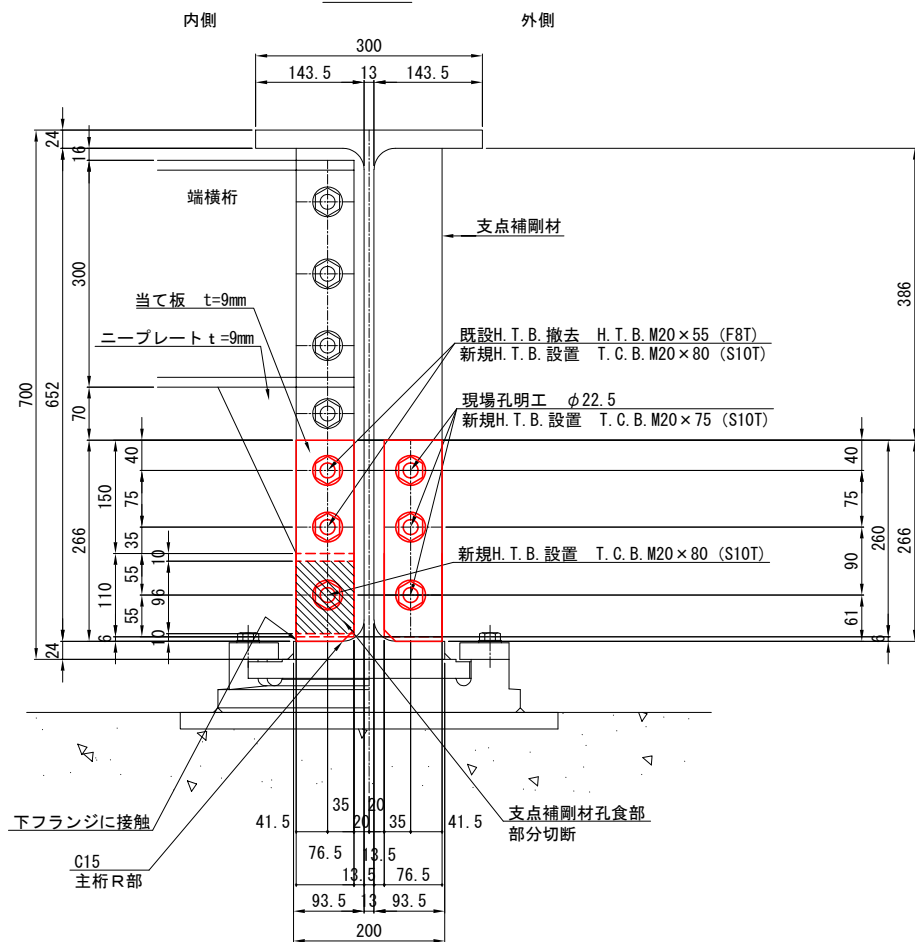
年度		工事番号	号
谷後線		南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
		工事	
		谷後橋 主桁補修図(2)	
縮尺	図示	図面全 33 葉の 5	
測量		令和 年 月	
設計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月	
		湯 沢 町	

谷後橋 主桁補修図(3)
第1径間 P1G1支点, 第2径間 P1G1支点P1G3支点

側面図 S=1:5

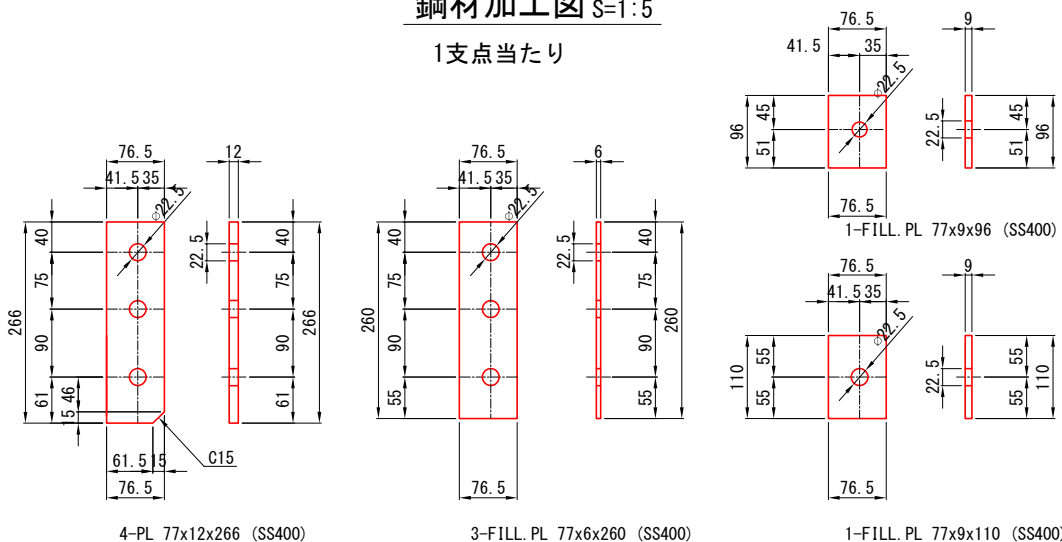


1-1

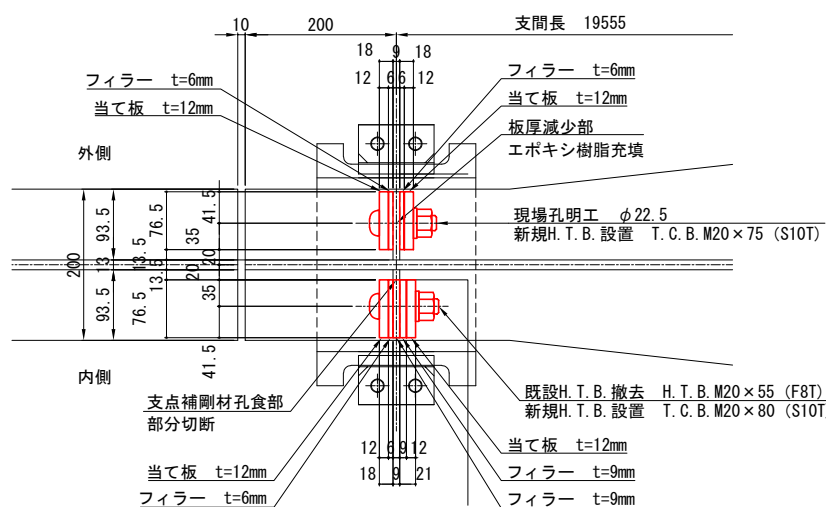


鋼材加工図 S=1:5

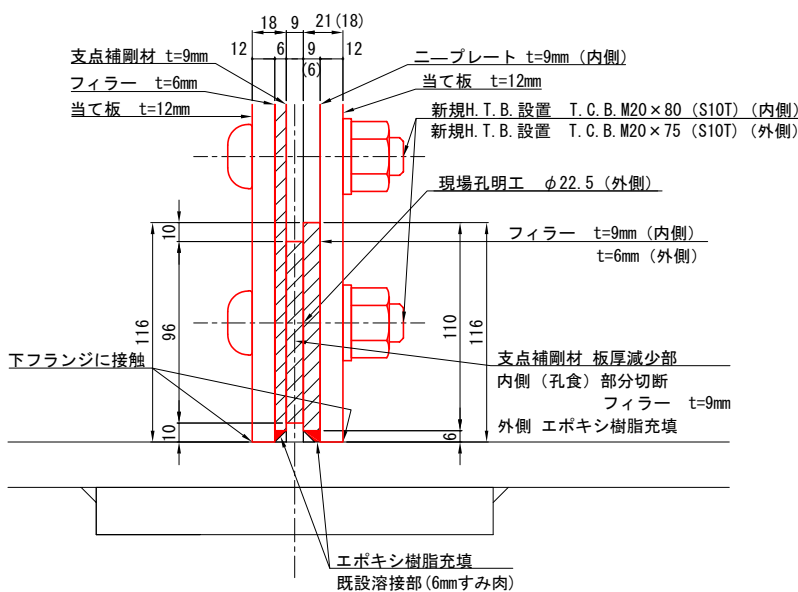
1支点当たり



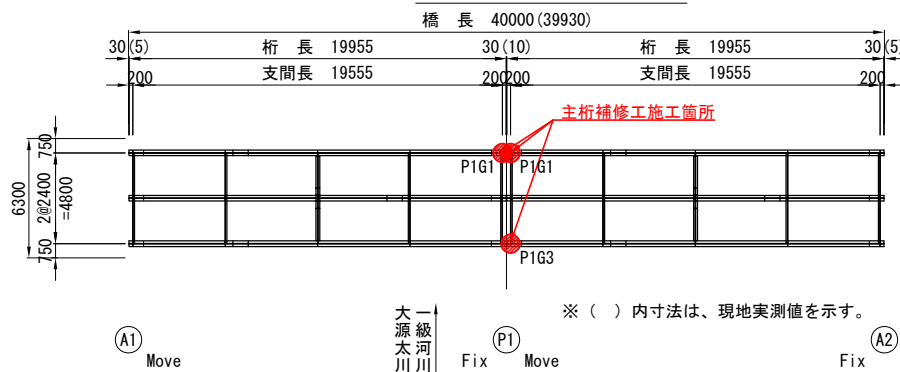
平面図 S=1:5



a部詳細図 S=1:2



施工位置図 S=1:200



- <注記>
- 各寸法は現場再実測の上決定すること。
 - 既設の寸法や取合い関係を計測し、結果を製作・施工に反映させること。
 - 既設部材の孔明け径はφ22.5mmとする。
 - 特記なき材質はSS400材とする。
 - 腐食減厚面と補修用鋼板との間はレジパッチ工法（エポキシ樹脂充填工法）と同等な方法にて行うこと。

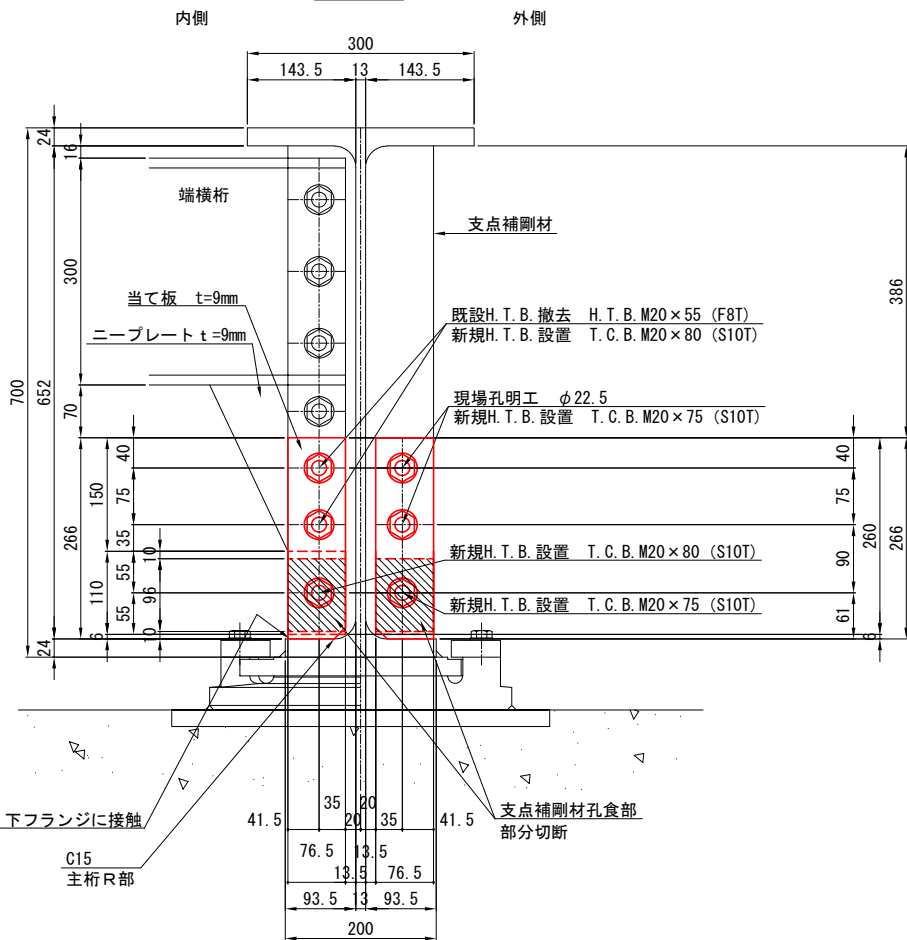
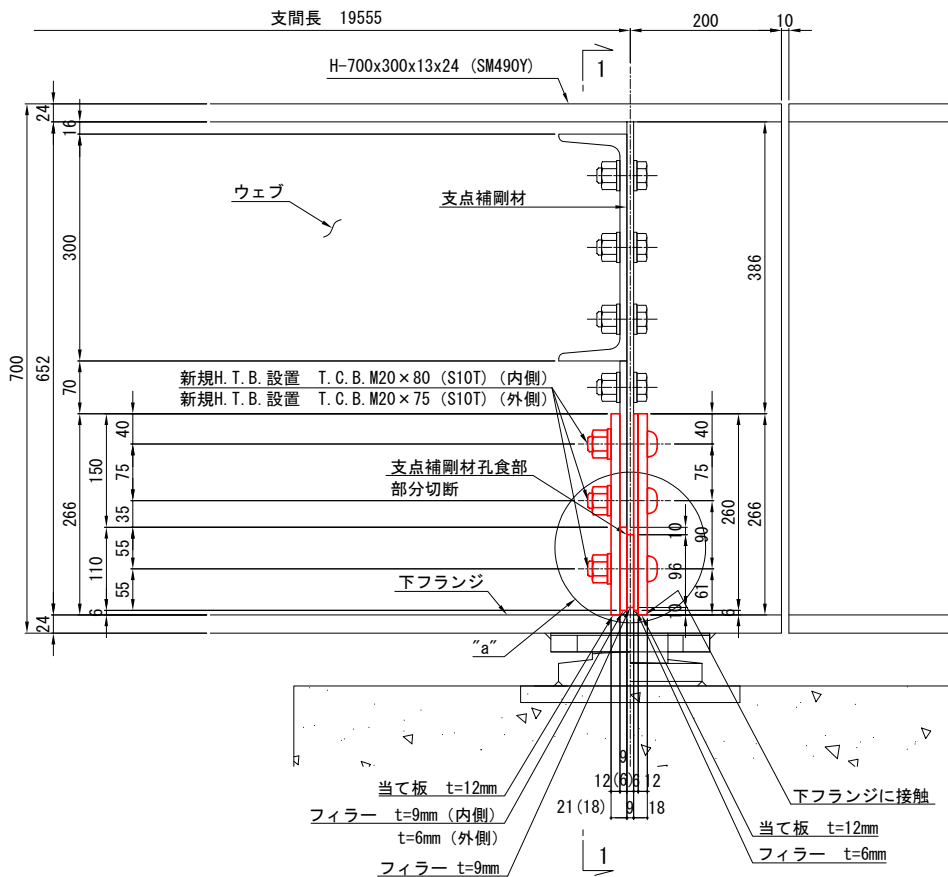
年度	工事番号	号
谷後線	南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
工事		
谷後橋 主桁補修図(3)		
縮尺	図示	図面全 33 葉の 6
測量		令和 年 月
設計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月
湯 沢 町		

谷後橋 主桁補修図(4)

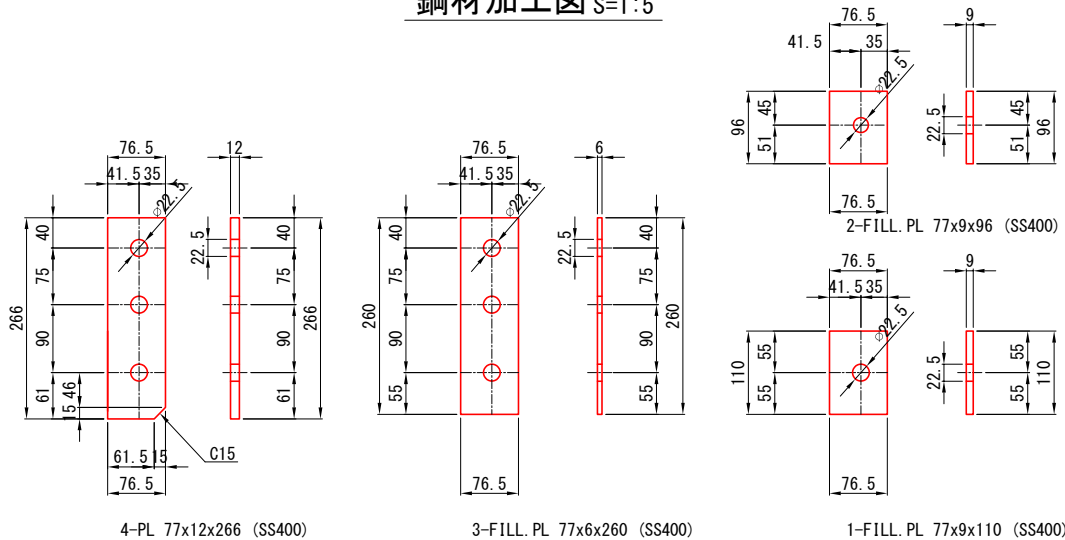
第1径間 P1G3支点

1-1

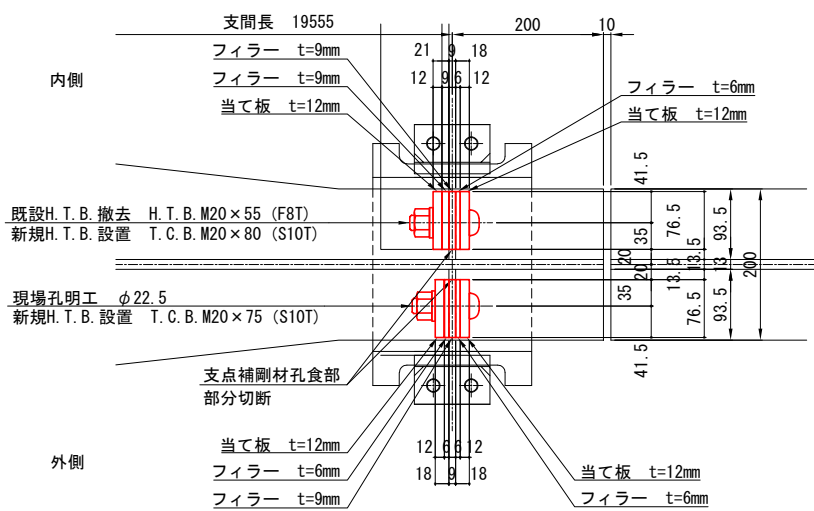
側面図 S=1:5



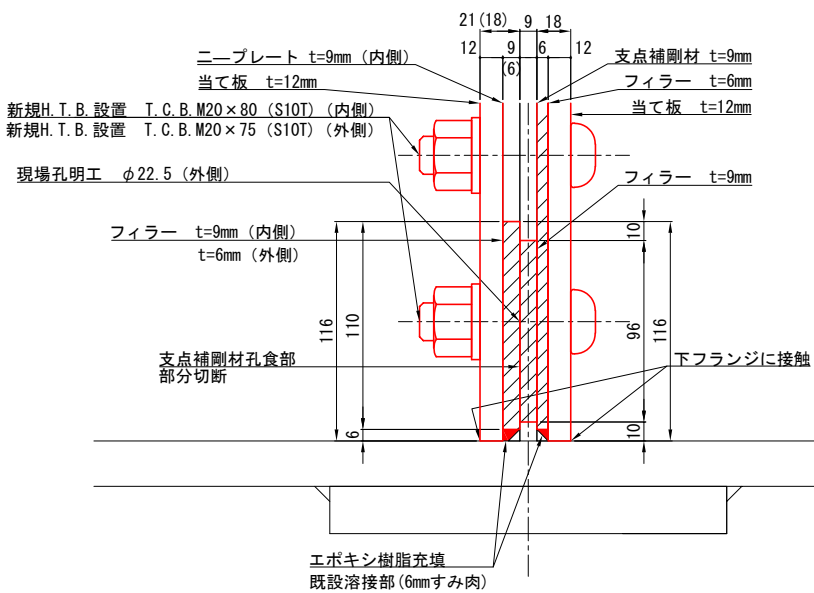
鋼材加工図 S=1:5



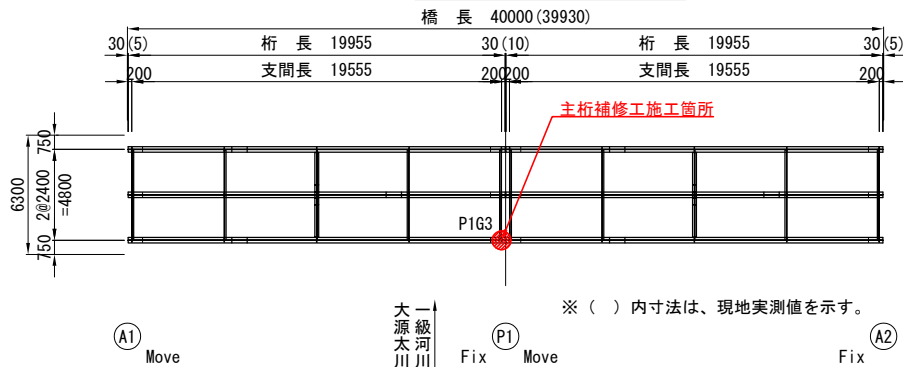
平面図 S=1:5



a部詳細図 S=1:2



施工位置図 S=1:200



- <注記>
- 各寸法は現場再実測の上決定すること。
 - 既設の寸法や取合い関係を計測し、結果を製作・施工に反映させること。
 - 既設部材の孔明け径はφ22.5mmとする。
 - 特記なき材質はSS400材とする。
 - 腐食減厚面と補修用鋼板との間はレジパッチ工法（エポキシ樹脂充填工法）と同等な方法にて行うこと。

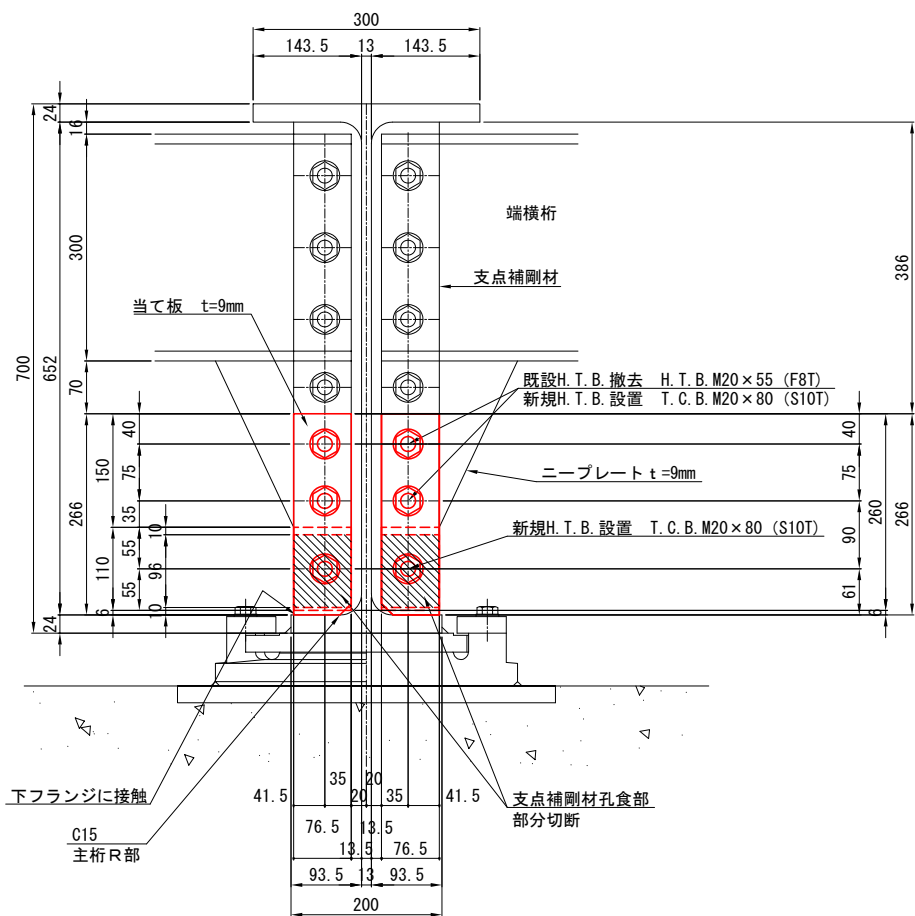
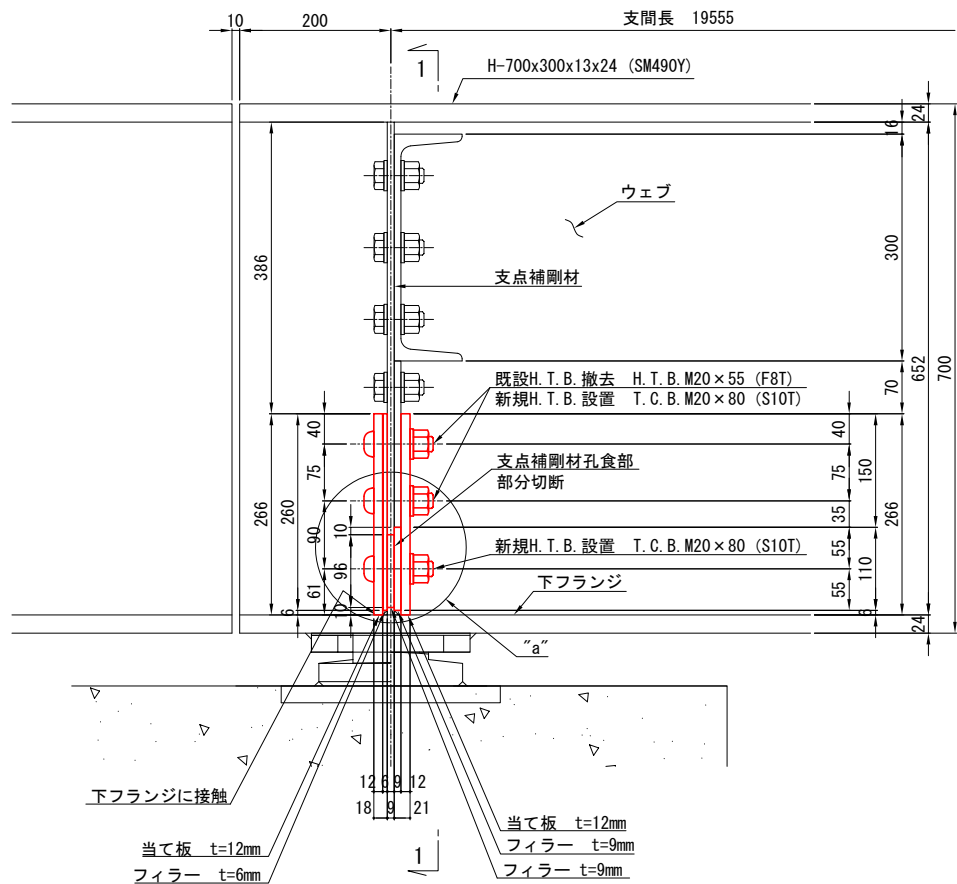
年度	工事番号	号
谷後線	南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
工事		
谷後橋 主桁補修図(4)		
縮尺	図示	図面全 33 葉の 7
測量		令和 年 月
設計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月
湯 沢 町		

谷後橋 主桁補修図(5)

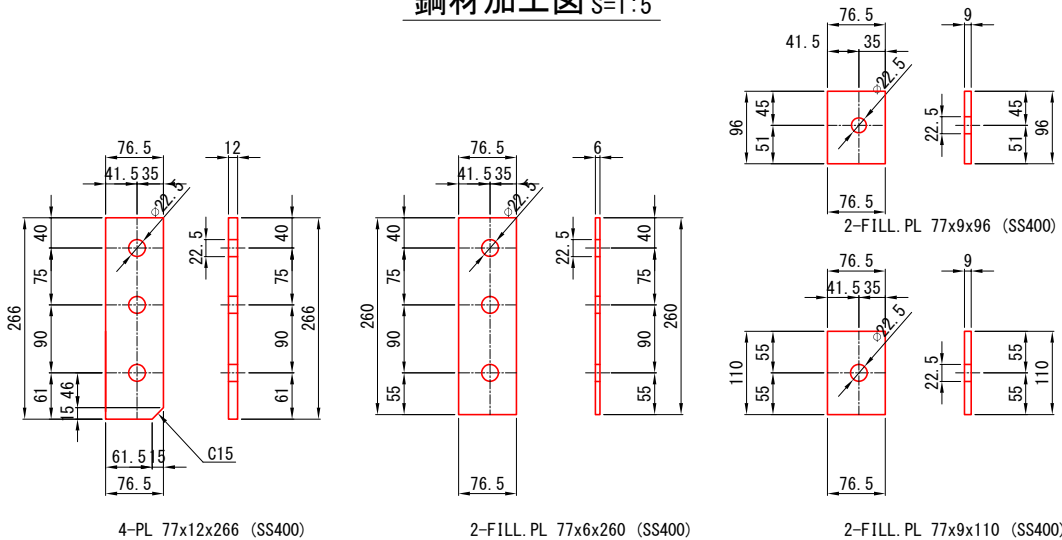
第2径間 P1G2支点

1-1

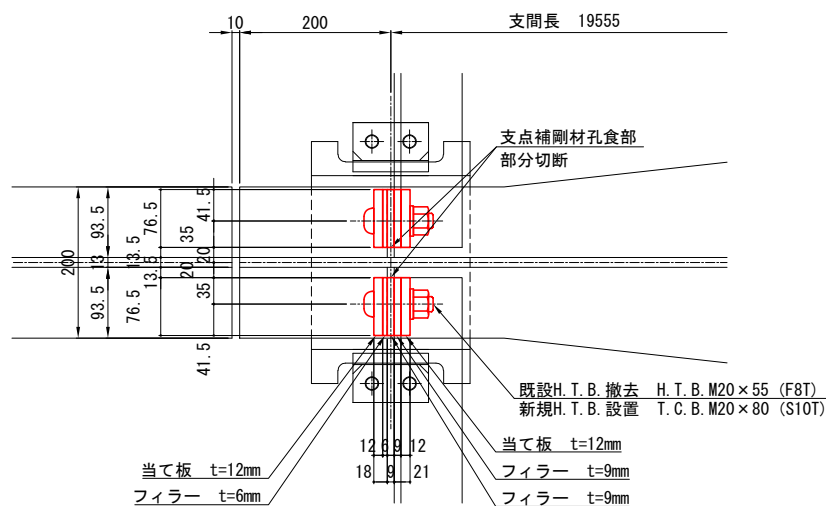
側面図 S=1:5



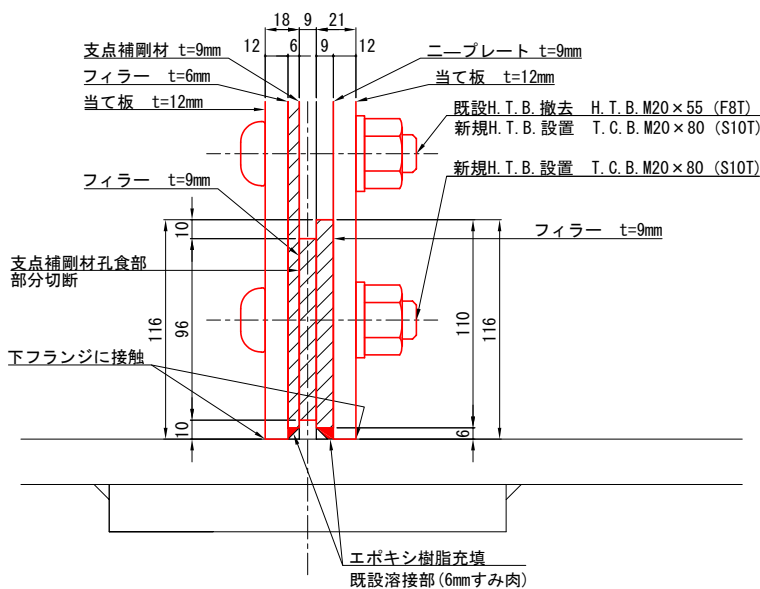
鋼材加工図 S=1:5



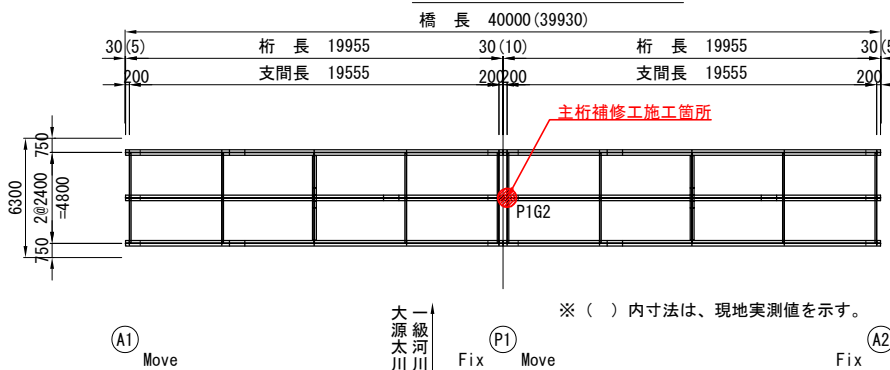
平面図 S=1:5



a部詳細図 S=1:2



施工位置図 S=1:200



- <注記>
- 各寸法は現場再実測の上決定すること。
 - 既設の寸法や取合い関係を計測し、結果を製作・施工に反映させること。
 - 既設部材の孔明け径はφ22.5mmとする。
 - 特記なき材質はSS400材とする。
 - 腐食減厚面と補修用鋼板との間はレジパッチ工法（エポキシ樹脂充填工法）と同等な方法にて行うこと。

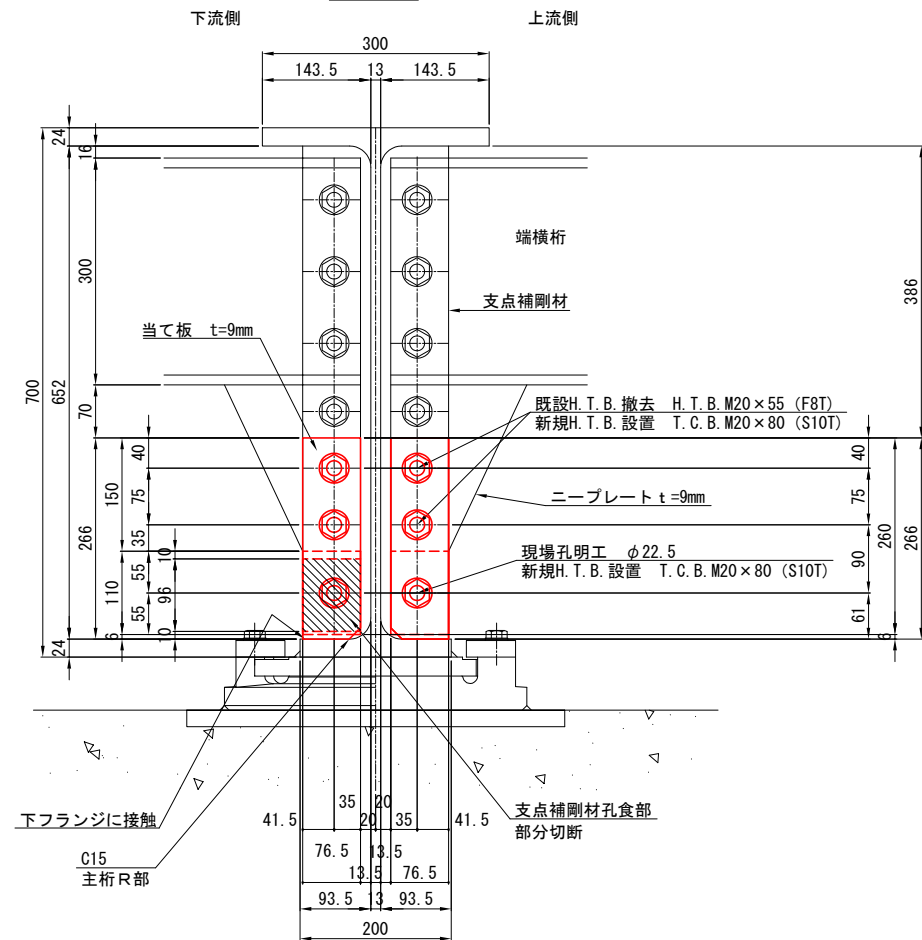
年度	工事番号	号
谷後線	南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
工事		
谷後橋 主桁補修図(5)		
縮尺	図示	図面全 33 葉の 8
測量		令和 年 月
設計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月
湯 沢 町		

第2径間 A2G2支点

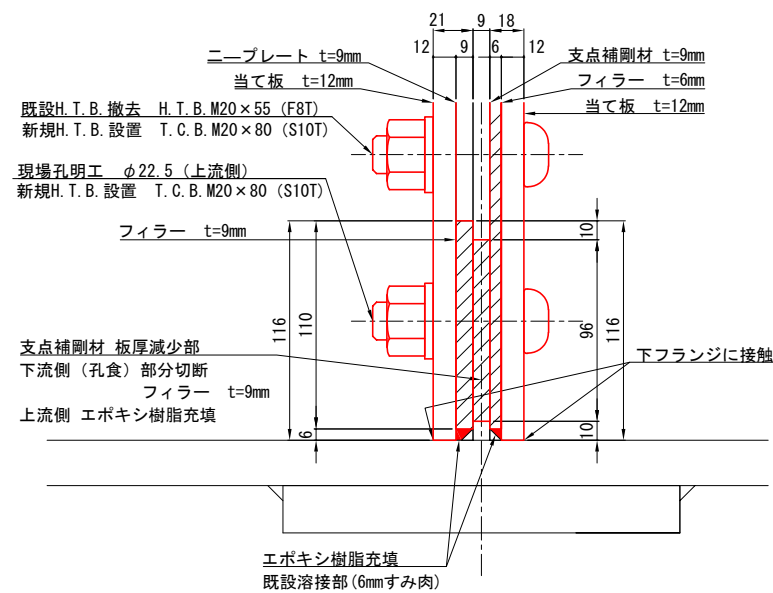
1-1

下流側

上流側



a部詳細図 S=1:2



鋼材加工図 S=1:5

4-PL 77x12x266 (SS400)

2-FILL.PL 77x6x260 (SS400)

2-FILL.PL 77x9x96 (SS400)

2-FILL.PL 77x9x110 (SS400)

橋 長 4000 (39930)

桁 長 19555 30 (10) 桁 長 19555 30 (5)

支間長 19555 200 支間長 19555 200

6300
200
750
4800

A2G2

主桁補修工事箇所

※ () 内寸法は、現地実測値を示す。

A1 Move

一級河川
大源太川

Fix P1 Move

Fix A2

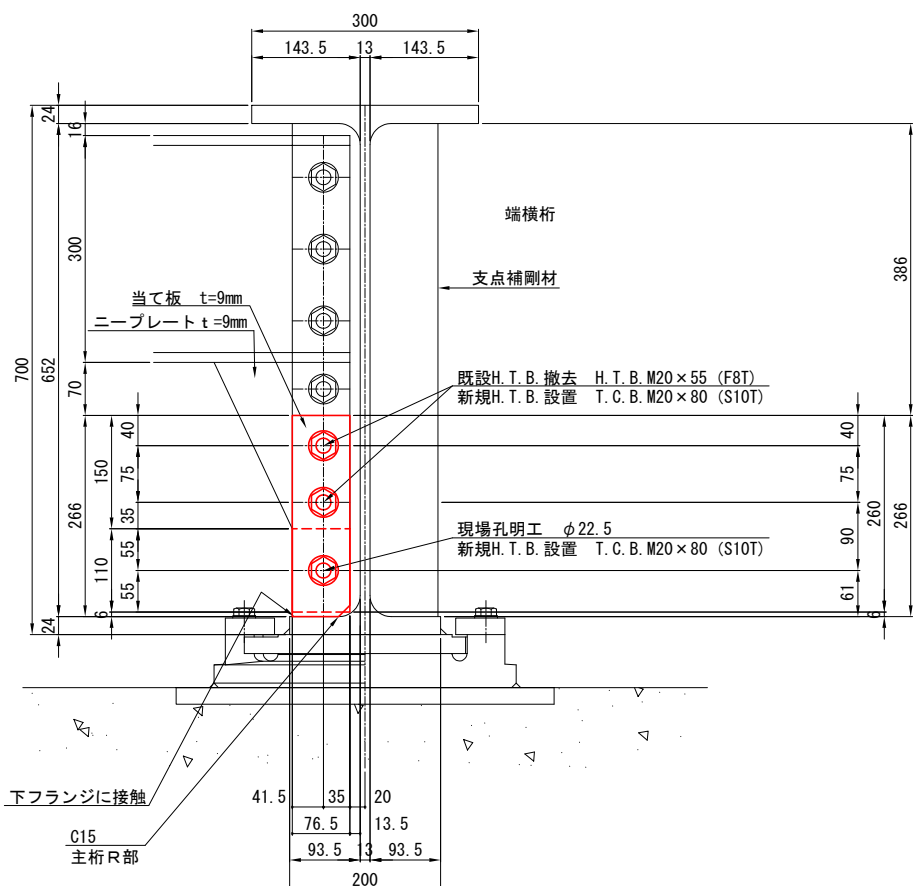
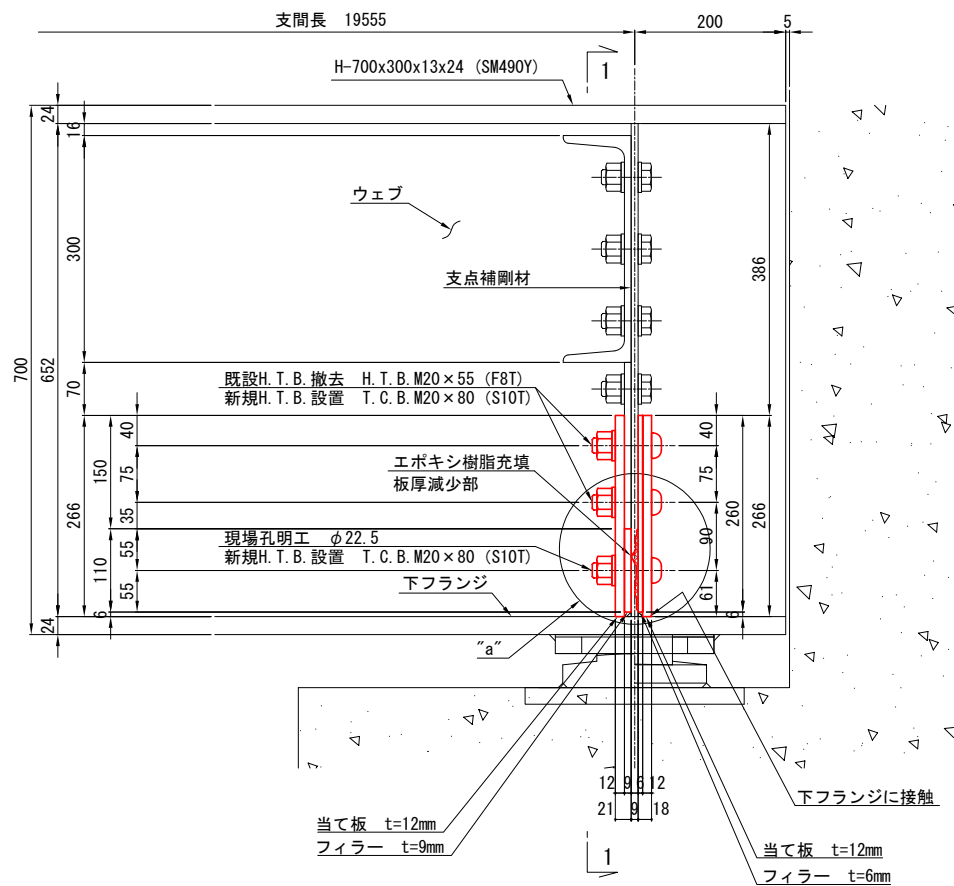
1. 各寸法は現場再実測の上決定すること。
2. 既設の寸法や取合い関係を計測し、結果を製作・施工に反映させること。
3. 既設部材の孔明け径はφ22.5mmとする。
4. 特記なき材質はSS400材とする。
5. 腐食減厚面と補修用鋼板との間はレジンパッチ工法（エポキシ樹脂充填工法）と同等な方法にて行うこと。

年度		工事番号		号
谷後線 南魚沼郡湯沢町大字土樽 地内				
工事				
谷後橋 主桁補修図(6)				
縮尺	図示	図面全 33 葉の 9		
測量			令和	年月
設計	株式会社 構造技研新潟		令和 6年	12月
湯 沢 町				

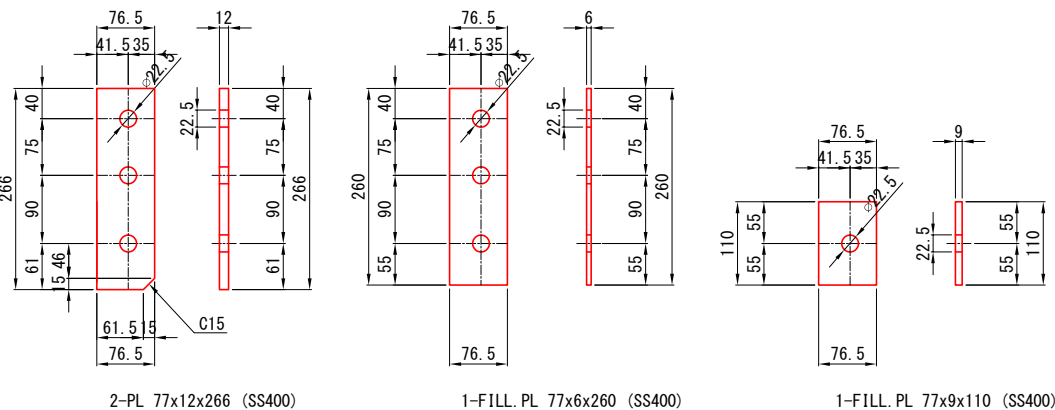
谷後橋 主桁補修図(7)

第2径間 A2G3支点
1-1

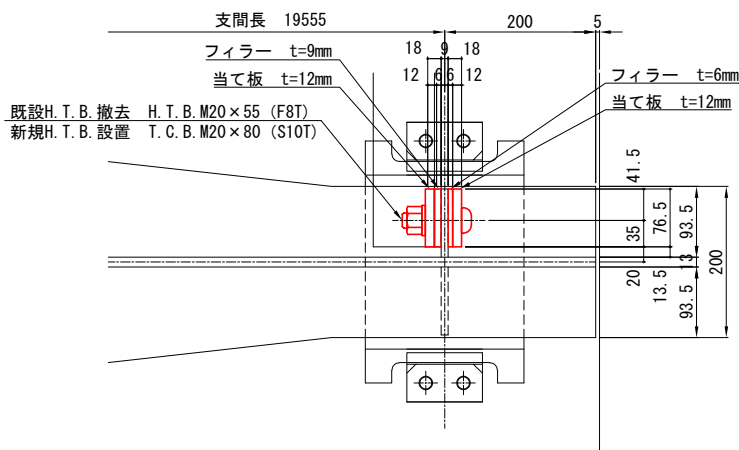
側面図 S=1:5



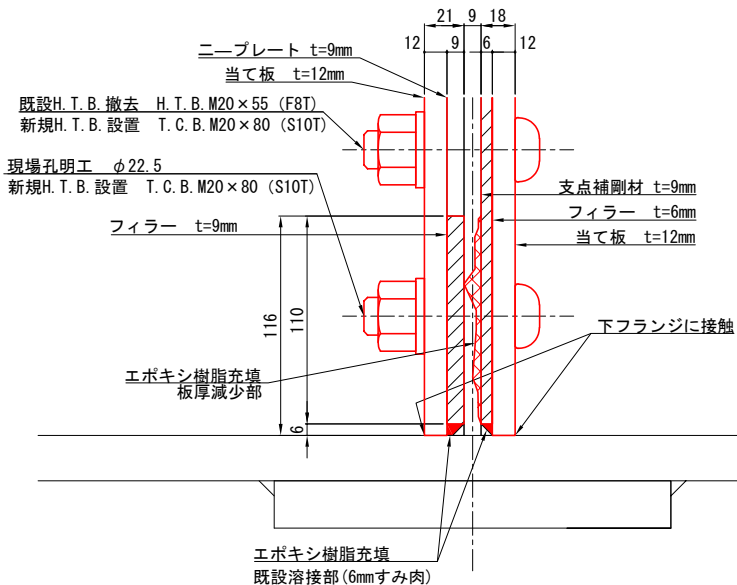
鋼材加工図 S=1:5



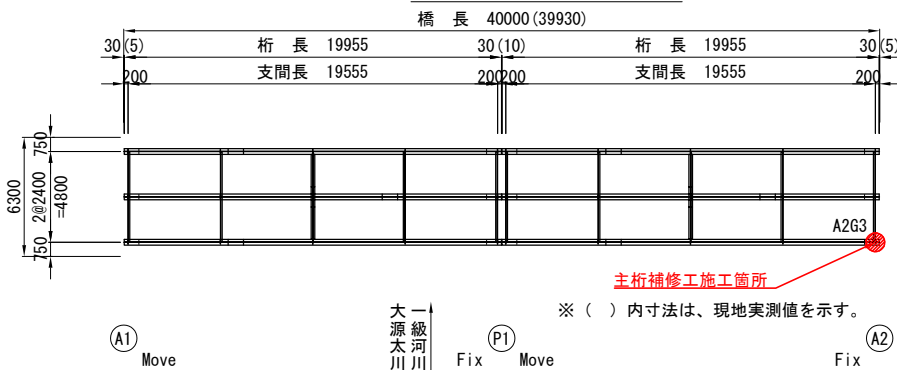
平面図 S=1:5



a部詳細図 S=1:2



施工位置図 S=1:200



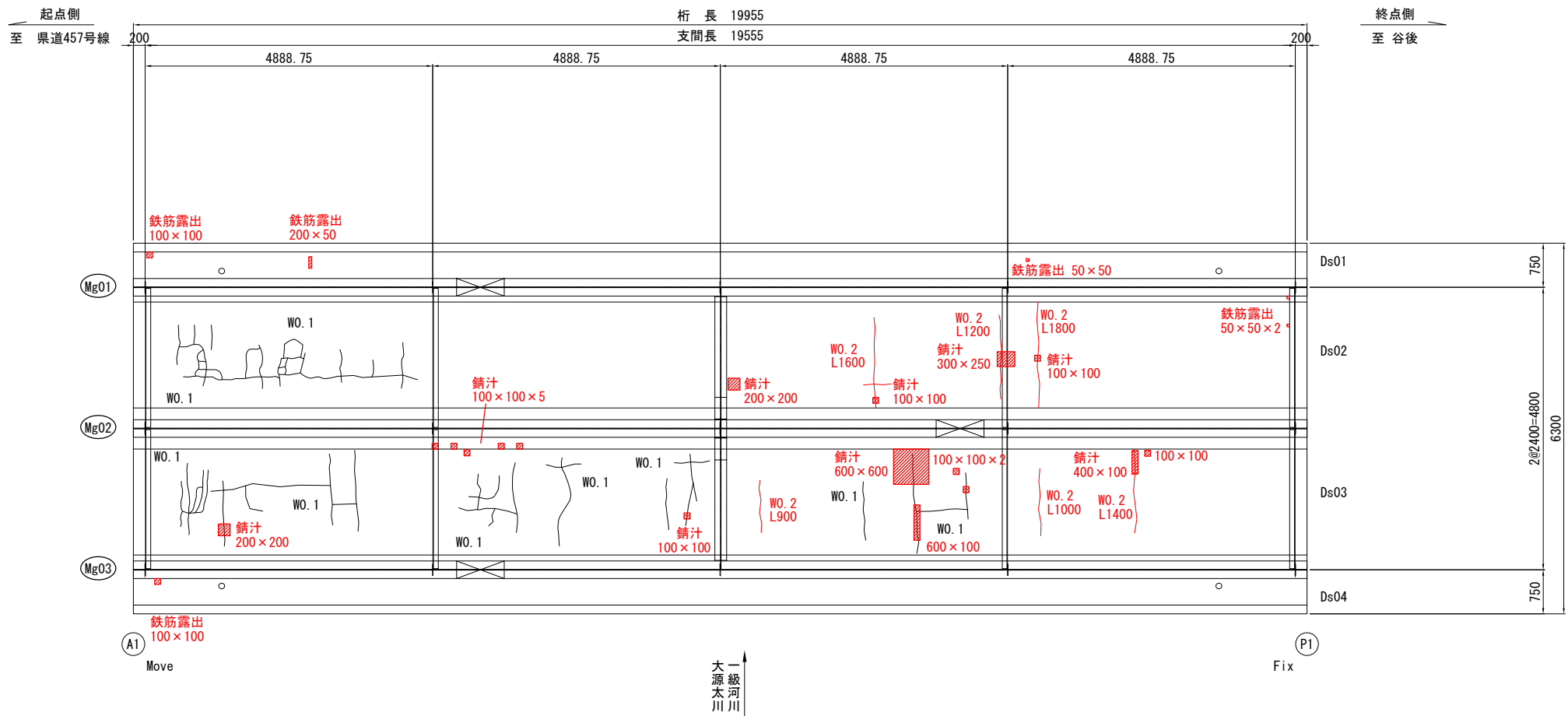
- <注記>
- 各寸法は現場再実測の上決定すること。
 - 既設の寸法や取合い関係を計測し、結果を製作・施工に反映させること。
 - 既設部材の孔明け径はφ22.5mmとする。
 - 特記なき材質はSS400材とする。
 - 腐食減厚面と補修用鋼板との間はレジパッチ工法（エポキシ樹脂充填工法）と同等な方法にて行うこと。

年度		工事番号	号
谷後線		南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
		工事	
		谷後橋 主桁補修図(7)	
縮尺	図示	図面全 33 葉の 10	
測量		令和 年 月	
設計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月	
		湯 沢 町	

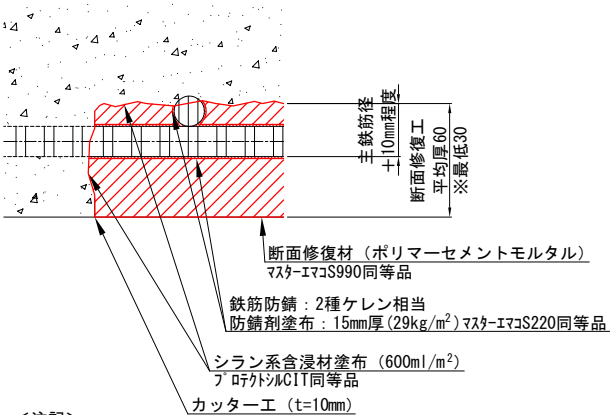
谷後橋 床版補修図(1) S=1:50

第1径間 断面修復・ひびわれ補修

平面図 S=1:50



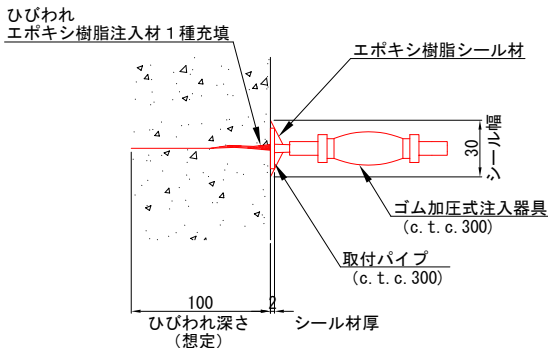
断面修復工（左官工法）詳細図



- <注記>
- 断面修復の平均厚は以下のように決定している。
平均厚60mm≧主鉄筋純かぶり32mm+主鉄筋径16mm+10mm
 - 実際の鉄筋純かぶり厚により断面修復厚は変動させるものとするが、鉄筋純かぶり厚が薄い場合においても、最低30mmの断面修復は行うものとする。
この際、可能な限り余盛りを行うものとする。
 - 断面修復は、シラン系含浸材塗布から24時間以上経過した後行うものとする。
 - 断面修復材の設計基準強度は、 $\sigma_{ck}=27N/mm^2$ 以上とする。

ひびわれ注入工詳細図

低圧注入工法



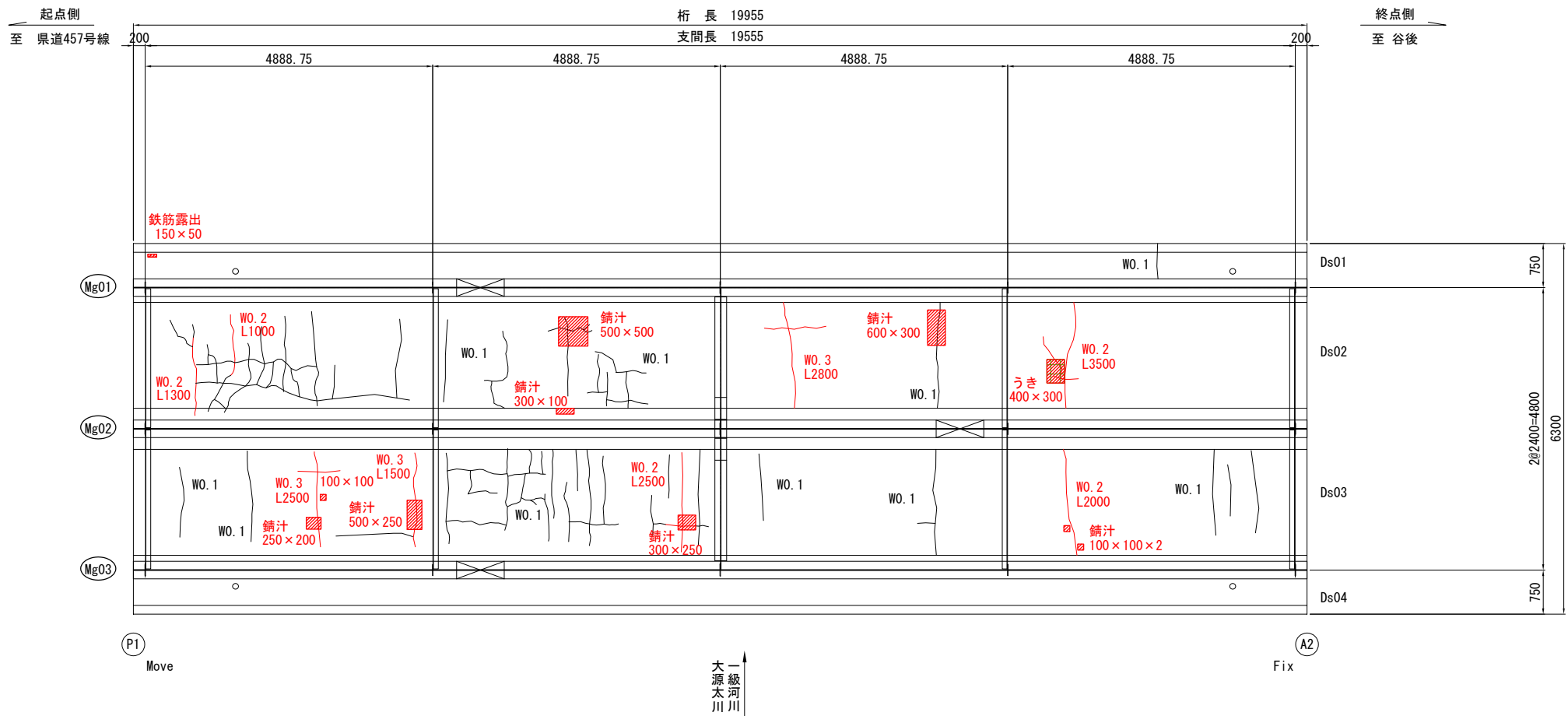
- <注記>
- 工事実施の際は、足場仮設後に現地調査を実施し、施工箇所及び数量の確認を行うこと。（新たに確認された損傷に対しても補修を行うこと）
 - 各寸法については、現地計測を実施し確認すること。
 - ひびわれに対する補修工法は、以下のとおりとするが、事前の現地調査結果に応じて適宜補修工法を決定すること。
 - 幅0.2mm以上1.0mm以下のひびわれに対しては、ひびわれ注入工法を行う。
 - 幅0.2mm未満のごく微細なひびわれに対しては、経過観察とする。
 - 幅1.0mmを超えるひびわれに対しては、ひびわれ充填工法とするが、ひびわれの状況等に応じて適宜判断する。（設計段階では1.0mm以上のひびわれを確認していない）
 - 鉄筋腐食によって生じたひびわれに対しては、断面修復を行う。
 - 断面修復の際には、既設鉄筋の防錆処理を施すこと。
 - 損傷部のはつり深さは、内部鉄筋の状況に応じて、適宜調整すること。
但し、断面修復材の耐久性確保の観点から最小30mmの断面修復を行うこと。

年度		工事番号	号
谷後線 南魚沼郡湯沢町大字土樽 地内			
工事			
谷後橋 床版補修図(1)			
縮 尺	図 示	図面全 33 葉の 11	
測 量			令和 年 月
設 計	株式会社 構造技研新潟		令和 6年12月
湯 沢 町			

谷後橋 床版補修図(2) S=1:50

第2径間 断面修復・ひびわれ補修

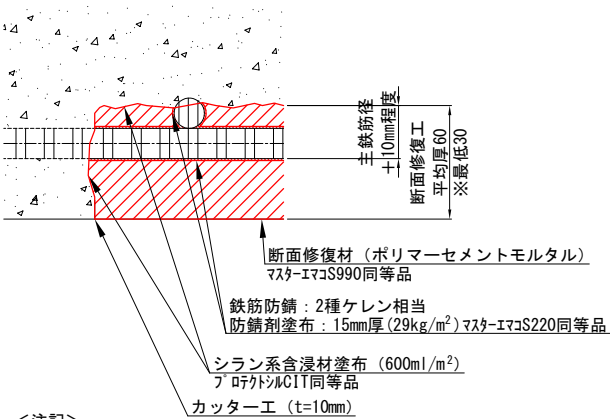
平面図 S=1:50



凡例

表示	損傷の種類	補修工法
	ひびわれ (幅<0.2mm)	経過観察
	ひびわれ (0.2mm≦幅<1.0mm)	ひびわれ注入工
	ひびわれ (幅≧1.0mm)	ひびわれ充填工
	剥離・鉄筋露出、うき、錆汁	断面修復工

断面修復工（左官工法）詳細図

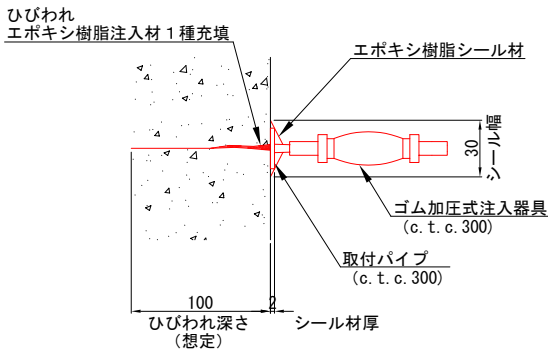


<注記>

- 断面修復の平均厚は以下のように決定している。
平均厚60mm≧主鉄筋純かぶり32mm+主鉄筋径16mm+10mm
- 実際の鉄筋純かぶり厚により断面修復厚は変動させるものとするが、鉄筋純かぶり厚が薄い場合においても、最低30mmの断面修復は行うものとする。
この際、可能な限り余盛りをを行うものとする。
- 断面修復は、シリラン系含浸材塗布から24時間以上経過した後行うものとする。
- 断面修復材の設計基準強度は、 $\sigma_{ck}=27N/mm^2$ 以上とする。

ひびわれ注入工詳細図

低圧注入工法

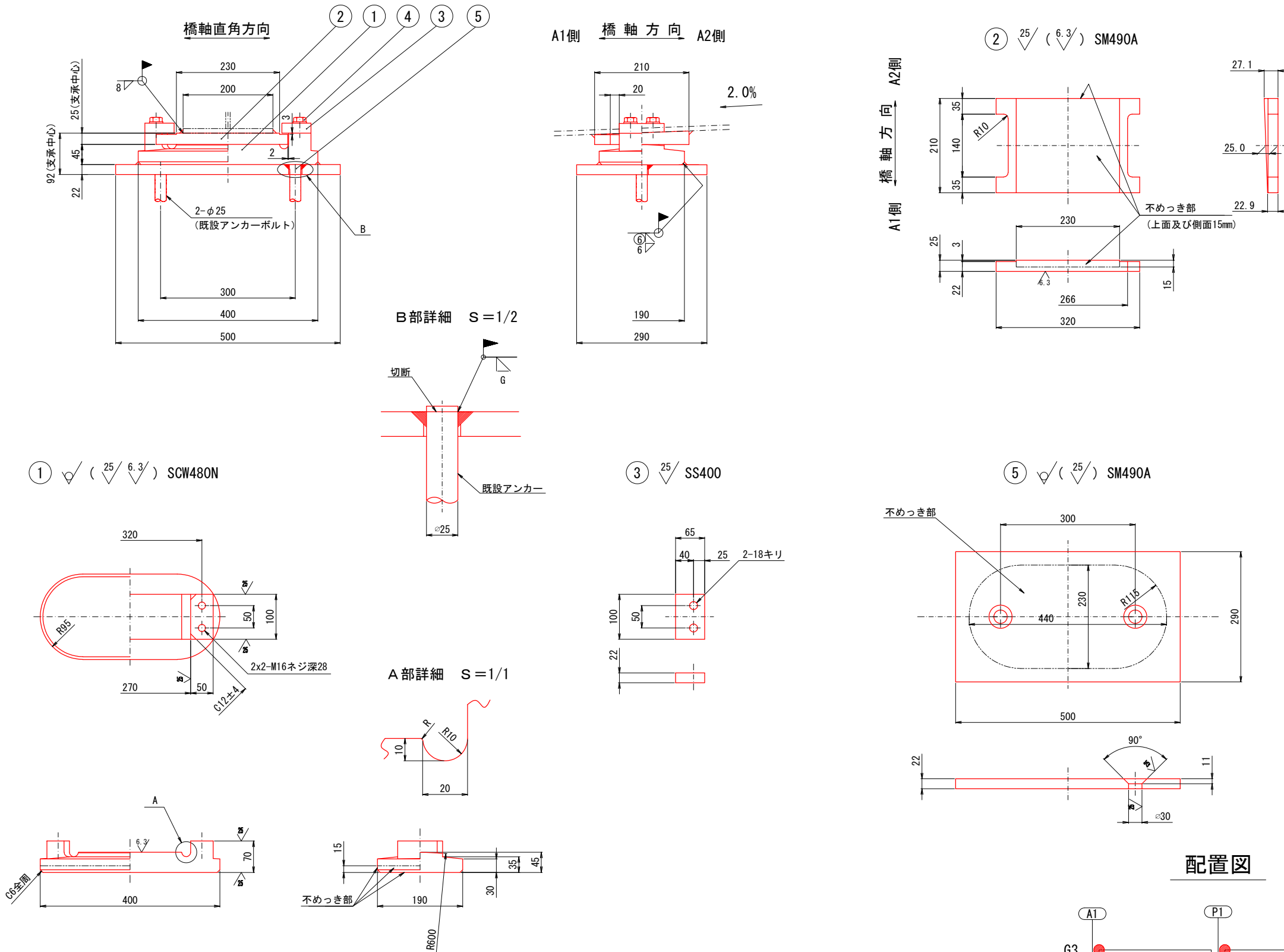


<注記>

- 工事実施の際は、足場仮設後に現地調査を実施し、施工箇所及び数量の確認を行うこと。（新たに確認された損傷に対しても補修を行うこと）
- 各寸法については、現地計測を実施し確認すること。
- ひびわれに対する補修工法は、以下のとおりとするが、事前の現地調査結果に応じて適宜補修工法を決定すること。
 - 幅0.2mm以上1.0mm以下のひびわれに対しては、ひびわれ注入工法を行う。
 - 幅0.2mm未満のごく微細なひびわれに対しては、経過観察とする。
 - 幅1.0mmを超えるひびわれに対しては、ひびわれ充填工法とするが、ひびわれの状況等に応じて適宜判断する。（設計段階では1.0mm以上のひびわれを確認していない）
 - 鉄筋腐食によって生じたひびわれに対しては、断面修復を行う。
- 断面修復の際には、既設鉄筋の防錆処理を施すこと。
- 損傷部のはつり深さは、内部鉄筋の状況に応じて、適宜調整すること。
但し、断面修復材の耐久性確保の観点から最小30mmの断面修復を行うこと。

年度		工事番号	号
谷後線		南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
工事			
谷後橋		床版補修図(2)	
縮尺	図示	図面全 33	葉の 12
測量			令和 年 月
設計	株式会社 構造技研新潟		令和 6年12月
湯		沢	町

谷後橋 支承詳細図（その１）



設計条件

反		力	
全	反 力	R	333 kN
死	荷 重 反 力	R _d	173 kN
橋 軸	方 向 水 平 力 (移動時)	R _{H1f}	88 kN
橋 軸	方 向 水 平 力 (地震時)	R _{H1e}	29 kN
橋 軸	直 角 方 向 水 平 力 (地震時)	R _{H2e}	29 kN
上	揚 力 (地震時)	V	17 kN
移 動 量			
計 算	移 動 量	e ₁	18 mm
移 動	可 能 量	e	40 mm
水 平 震 度			
設 計	水 平 震 度	K _H	0.17
摩 擦 係 數			
設 計	摩 擦 係 數	f	0.25
支 承 條 件			
橋 軸 方 向 : 可 動		橋 軸 直 角 方 向 : 固 定	

材料表

部 番	部 品 名 称	材 質	個数	重量(kg)	備 考
①	下 沓	SCW480N	1	23.1	
②	上 沓	SM490A	1	11.4	
③	ピ ン チ プ レ ー ト	SS400	2	2.1	
④	六 角 ボ ル ト ・ 座 金	—	4	0.5	JIS B 1180 JIS B 1256
⑤	ベ ー ス プ レ ー ト	SM490A	1	24.8	
全 重 量				61.9 (kg)	
一 般 外 面 の 防 食 処 理					
溶融亜鉛めっき		JIS H 8641 HDZT77, HDZT49 (ボルト類)			

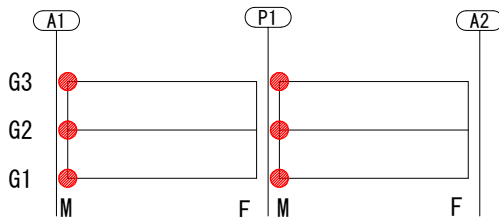
注1) 部番の○印部品をめっきのこと。

注2) 現場実測後、寸法決定のこと。

注3) 不めっき部は開先防錆剤を塗布のこと。現場溶接後、高濃度亜鉛末塗装のこと。

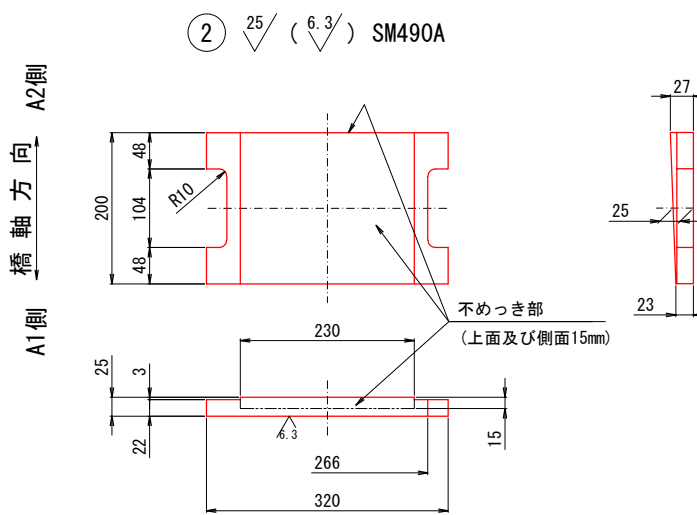
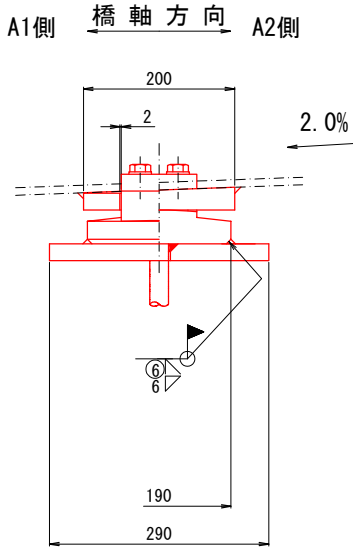
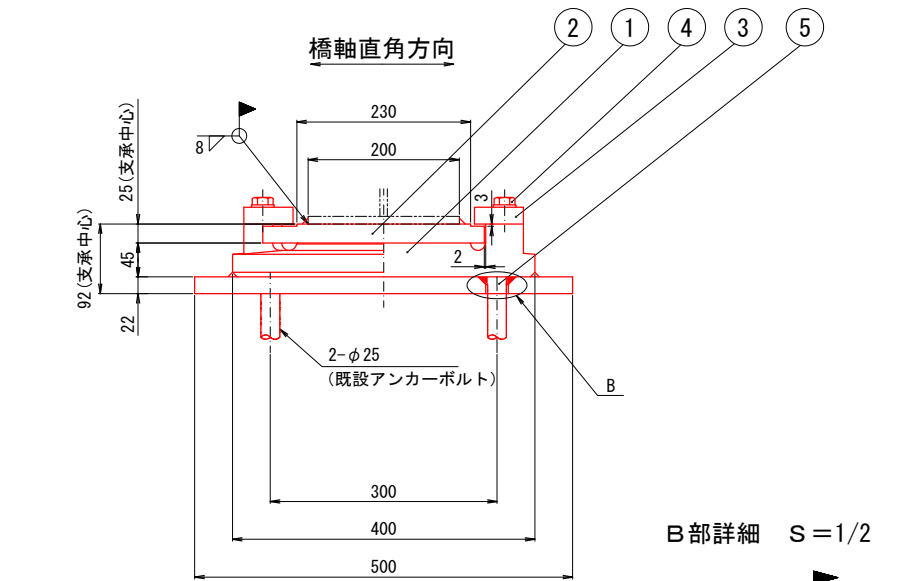
注4) 必要に応じて吊り用ネジを設けても良い。

配置図



年度		工事番号		号
谷後線 南魚沼郡湯沢町大字土樽 地内				
工事				
谷後橋 支承詳細図 (その 1)				
縮 尺	図 示	図面全 33 葉の 13		
測 量			令和	年 月
設 計	株式会社 構造技研新潟		令和	6年12月
湯 沢 町				

谷後橋 支承詳細図（その2）



設計条件

反		力	
全	反 力	R	333 kN
死	荷 重 反 力	Rd	173 kN
橋 軸	方 向 水 平 力 (移動時)	R _{H1f}	88 kN
橋 軸	方 向 水 平 力 (地震時)	R _{H1e}	59 kN
橋 軸	直 角 方 向 水 平 力 (地震時)	R _{H2e}	29 kN
上	揚 力 (地震時)	V	17 kN
水 平 震 度			
設 計	水 平 震 度	K _H	0.17
摩 擦 係 數			
設 計	摩 擦 係 數	f	0.25
支 承 条 件			
橋 軸 方 向 : 固 定		橋 軸 直 角 方 向 : 固 定	

材 料 表

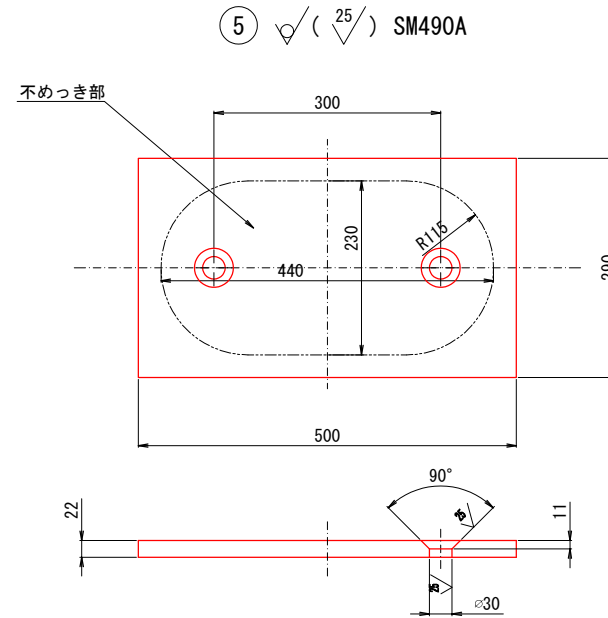
部 番	部 品 名 称	材 質	個数	重量(kg)	備 考
①	下 沓	SCW480N	1	23.1	
②	上 沓	SM490A	1	11.2	
③	ピンチプレート	SS400	2	2.1	
④	六角ボルト・座金	—	4	0.5	JIS B 1180 JIS B 1256
⑤	ベースプレート	SM490A	1	24.8	
全 重 量				61.7 (kg)	
一 般 外 面 の 防 食 処 理					
溶融亜鉛めっき		JIS H 8641 HDZT77, HDZT49 (ボルト類)			

注1) 部番の○印部品をめっきのこと。

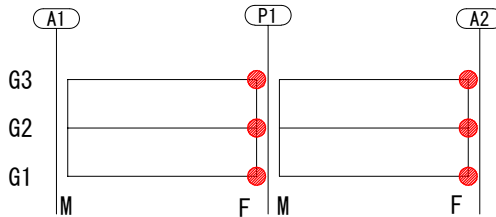
注2) 現場実測後、寸法決定のこと。

注3) 不めつき部は開先防錆剤を塗布のこと。現場溶接後、高濃度亜鉛末塗装のこと。

注4) 必要に応じて吊り用ネジを設けても良い。



配置図



年度		工事番号		号
谷後線 南魚沼郡湯沢町大字土樽 地内				
工事				
谷後橋 支承詳細図（その２）				
縮尺	図示	図面全 33	葉の 14	
測量			令和	年月
設計	株式会社 構造技研新潟		令和	6年12月
湯 沢 町				

年度 工事番号 号

谷後線 南魚沼郡湯沢町大字土樽 地内

工事

谷後橋 支承詳細図（その2）

縮尺 図示 図面全 33 葉の 14

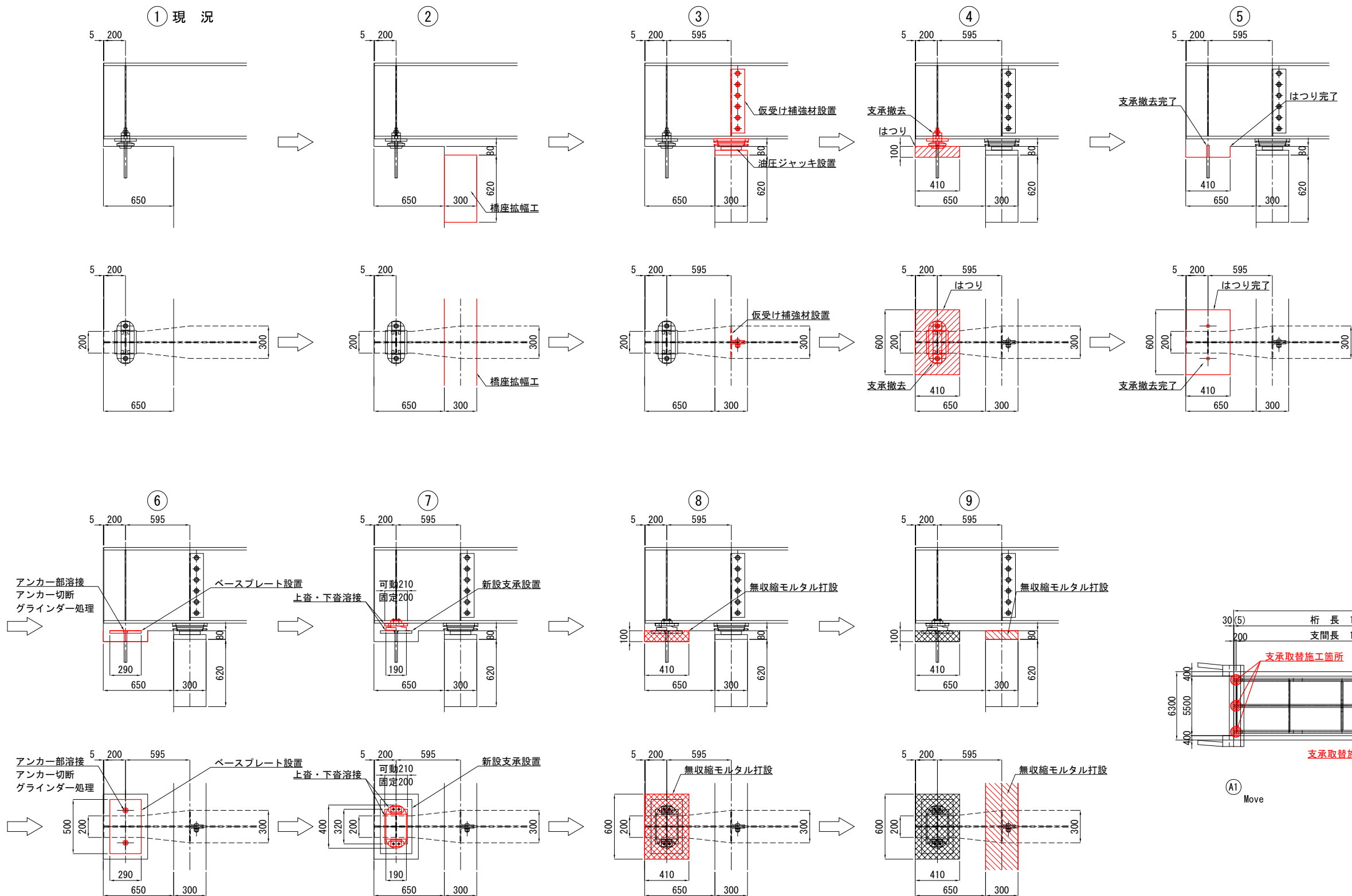
測 量	令和 年
-----	------

設計株式会社 構造技研新潟 令和 6年12

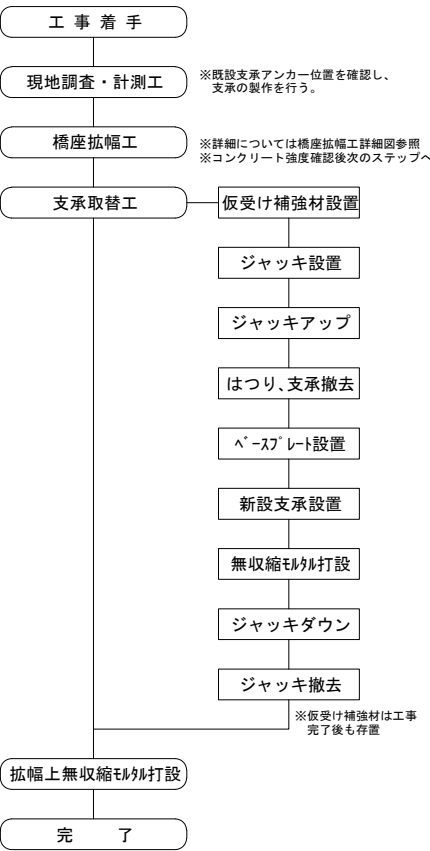
湯 沢 町

谷後橋 支承取替図(1)

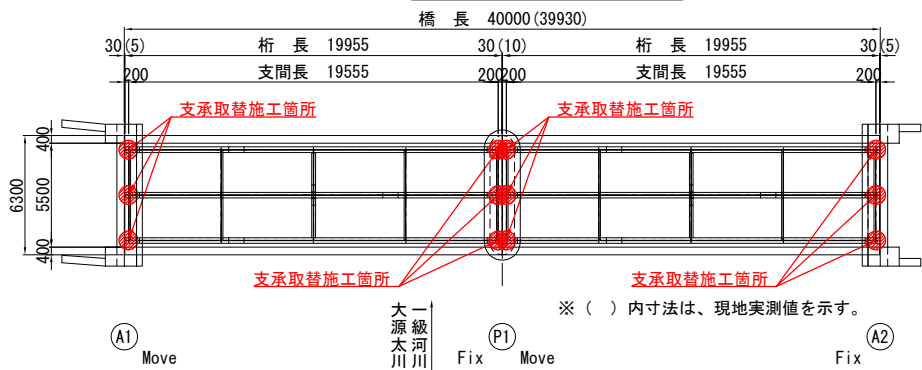
支承取替工施工要領図 S=1:20



支承取替工施工手順(案)



施工位置図 S=1:200



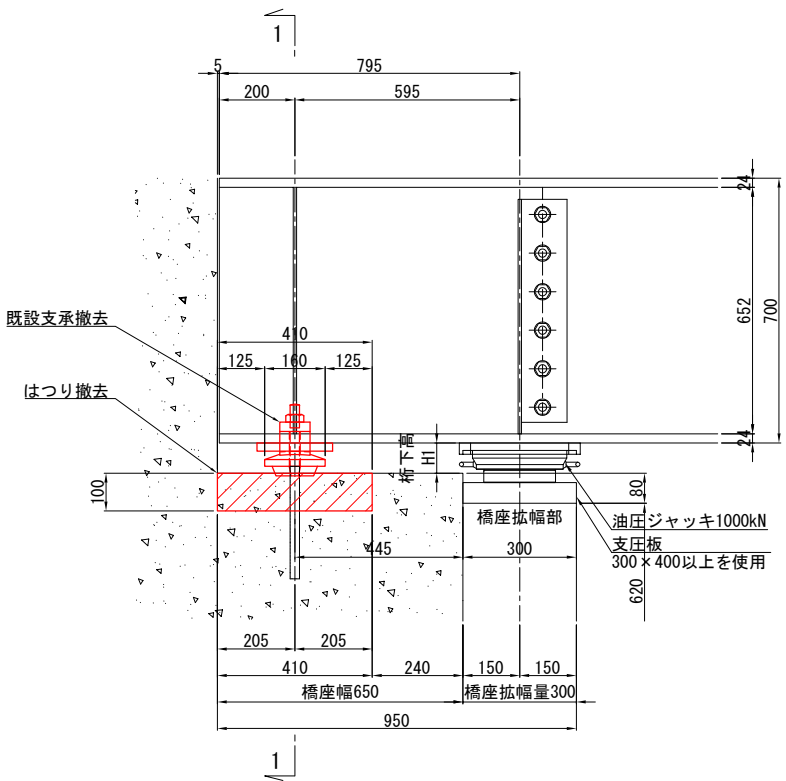
<注記>
1. 各寸法は現場再実測の上決定すること。
2. 仮受け補強工、橋座拡幅工は、別紙、各施工詳細図を参照。

年度	工事番号	号
谷後線	南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
工事		
谷後橋 支承取替図(1)		
縮尺	図示	図面全 33 葉の 15
測量		令和 年 月
設計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月
湯 沢 町		

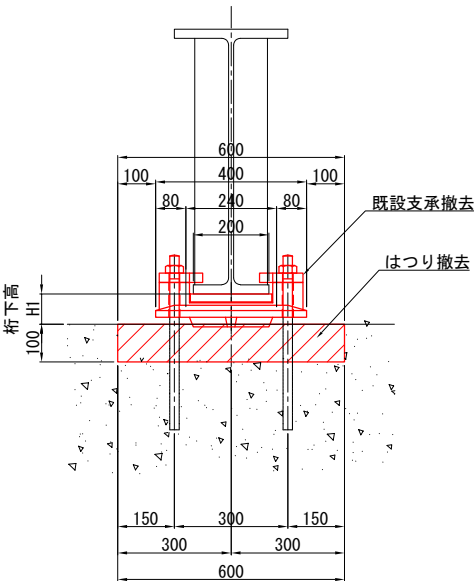
谷後橋 支承取替図(2)

支承取替詳細図 S=1:10

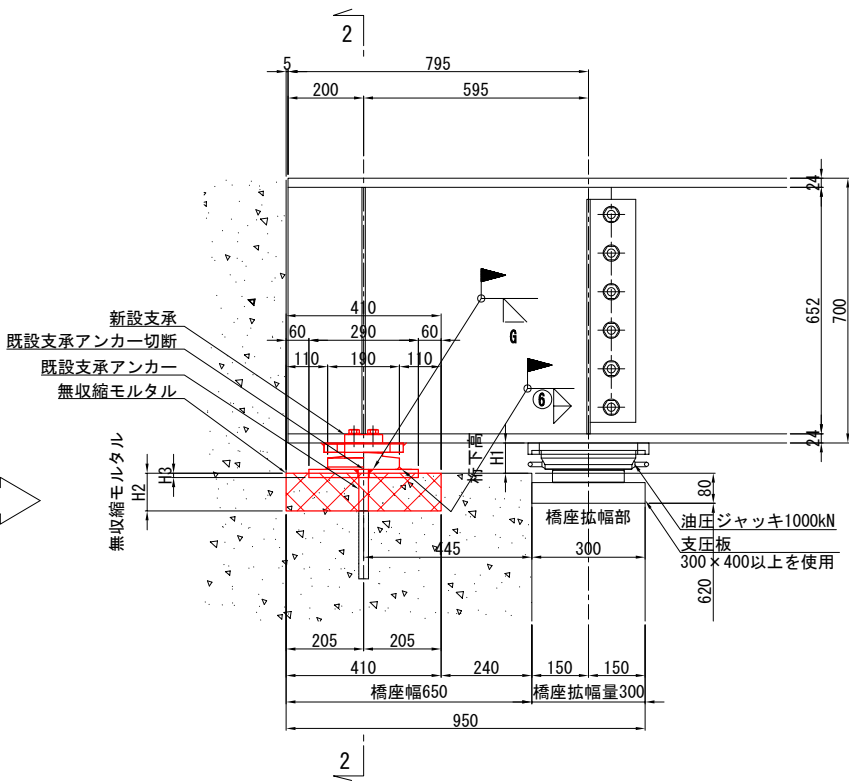
はつり撤去側面図



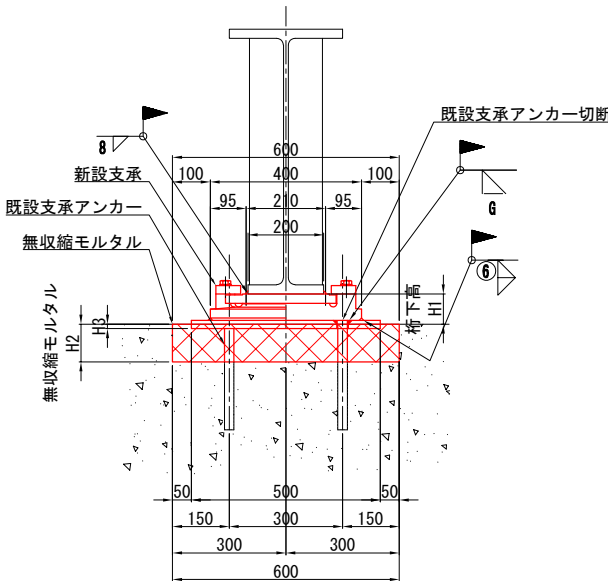
1 - 1



補修後側面図



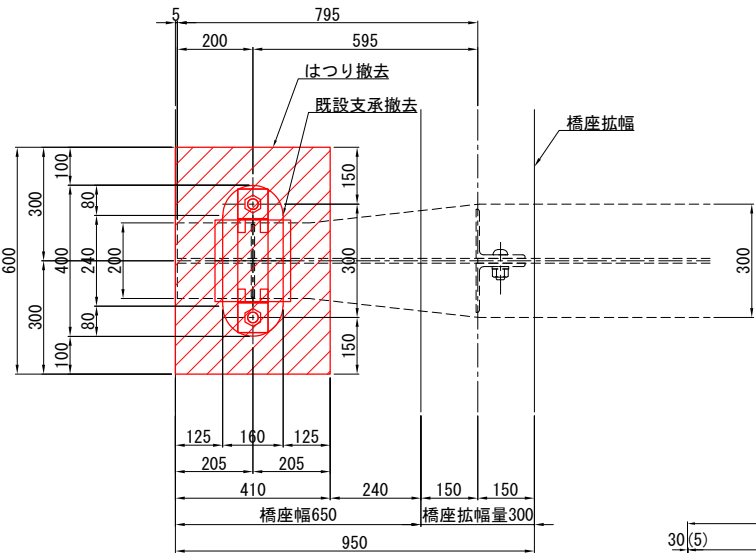
2 - 2



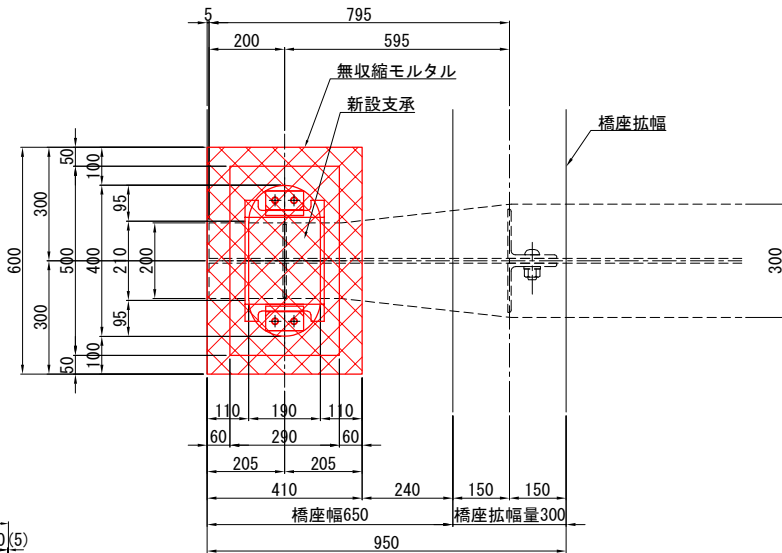
はつり範囲を示す。

無収縮モルタル打設範囲を示す。

はつり撤去平面図



補修後平面図

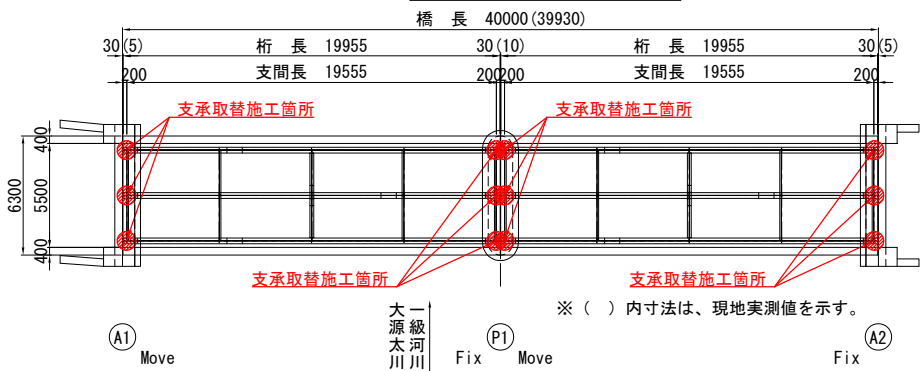


		桁下高			打設高	H3
		H1	H2	H3		
A1	G1	80	100	12		
	G2	80	100	12		
	G3	95	115	12		
P1	G1	70	100	22		
	G2	70	100	22		
	G3	70	100	22		
A2	G1	70	100	22		
	G2	70	100	22		
	G3	70	100	22		

<注記>

- 各寸法は現場再実測の上決定すること。
- 仮受け補強工、橋座拡幅工は、別紙、各施工詳細図を参照。

施工位置図 S=1:200

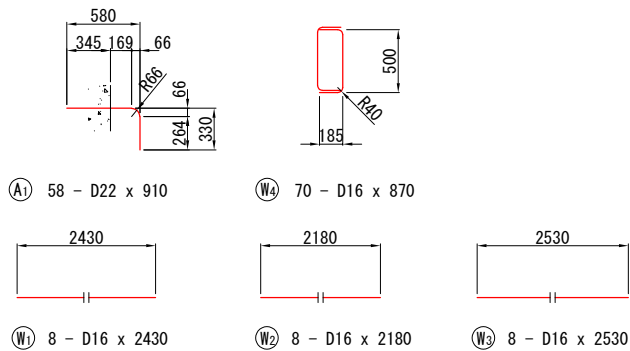
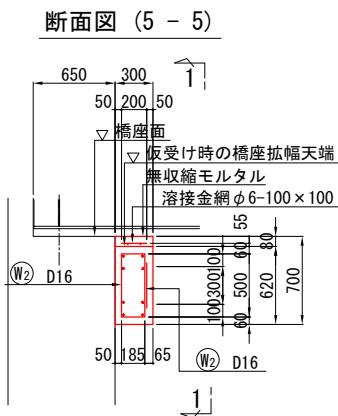
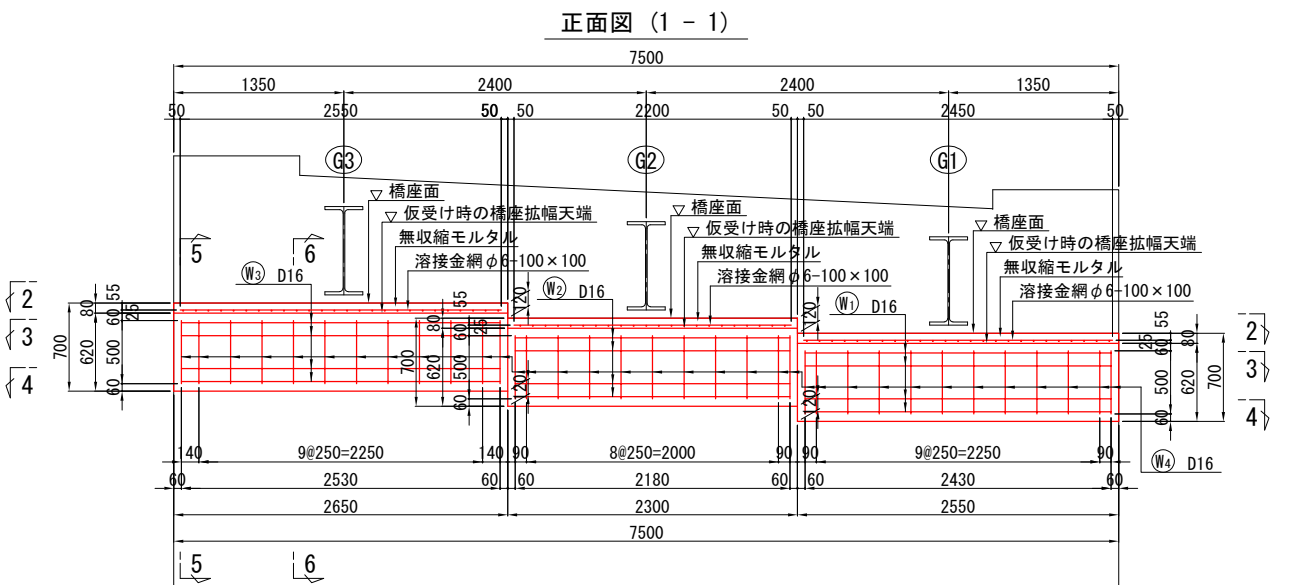


※ () 内寸法は、現地実測値を示す。

年度	工事番号	号
谷後線	南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
工事		
谷後橋 支承取替図(2)		
縮尺	図示	図面全 33 葉の 16
測量		令和 年 月
設計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月
湯 沢 町		

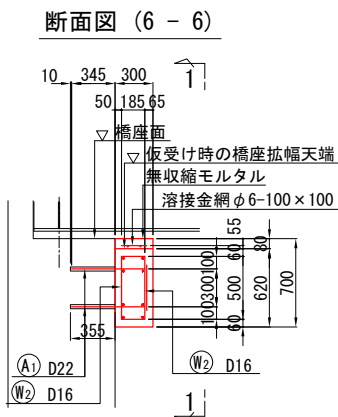
谷後橋 橋座拡幅図(1)

A1橋台 S=1:30

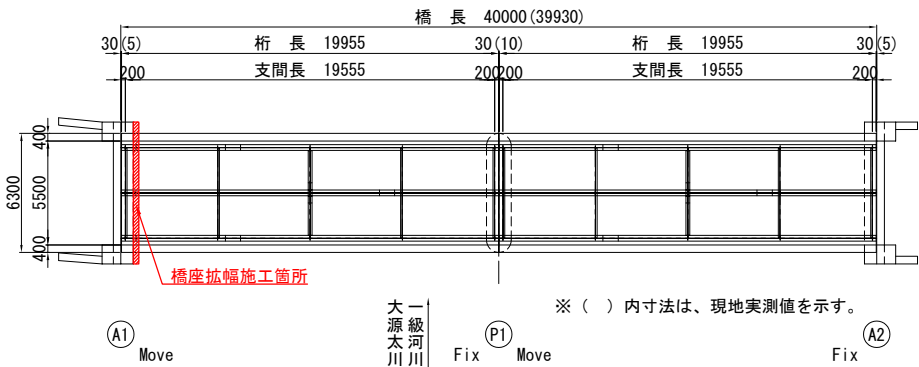


A1橋台当たり鉄筋表

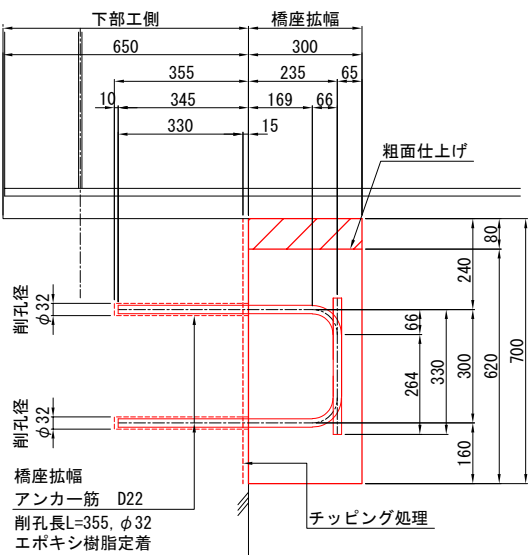
記 号	径	長 さ	本 数	単位質量	一本当り質量	質 量	摘 要
A 1	D22	910	58	3.04	2.77	161	SD345
W 1	D16	2430	8	1.56	3.79	30	SD345
W 2	D16	2180	8	1.56	3.40	27	SD345
W 3	D16	2530	8	1.56	3.95	32	SD345
W 4	D16	870	70	1.56	1.36	95	SD345
345 kg							
A1橋台当たり鉄筋質量 (SD345)							
				D22	161 kg		
				D16	184 kg		
				合 計	345 kg		



施工位置図 S=1:200



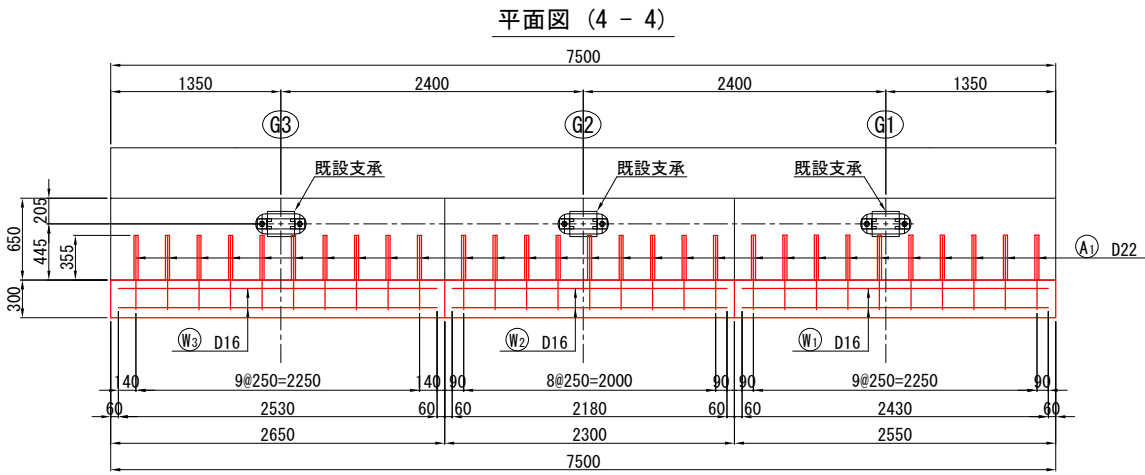
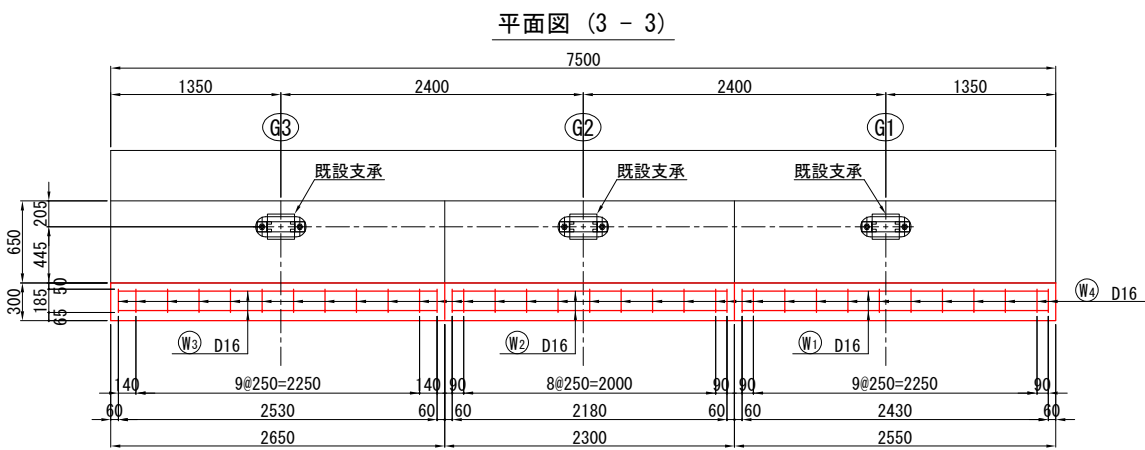
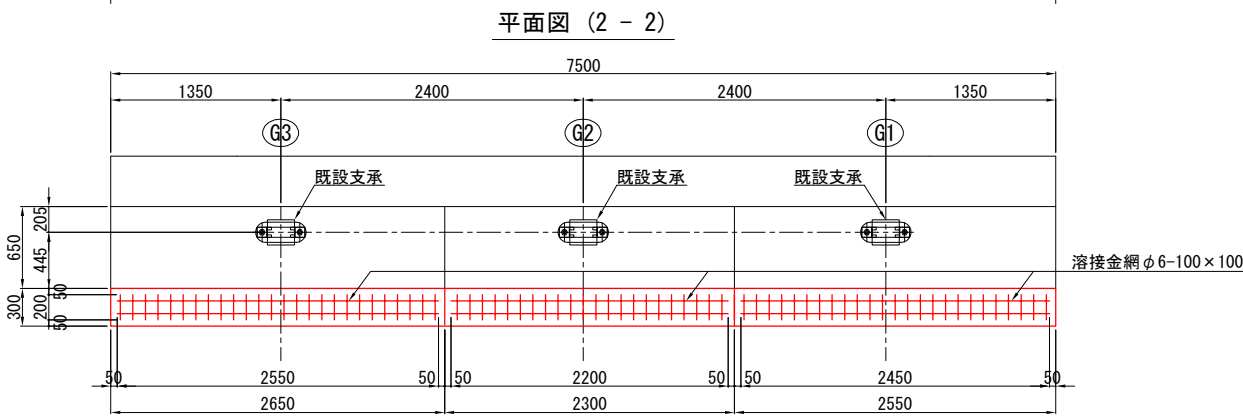
アンカー詳細図 S=1:10



<注記>アンカー鉄筋の定着長は、チップング面より確保すること。

<注記>

1. 工事着手前には、現橋の形状寸法を確認してから施工を行うこと。
2. アンカー孔削孔前には、下部工の鉄筋探査を実施し、アンカー鉄筋との位置関係を確認すること。また、既設支承アンカーとの位置関係についても確認すること。
3. 新旧コンクリート打継ぎ面はチップング処理を行い、十分な粗面とすること。また、コンクリート打設前は十分な潤滑状態とすること。
4. 拡幅コンクリートの設計基準強度は、 $\sigma_{ck}=21\text{N/mm}^2$ とする。
5. 拡幅コンクリートの上面は、無収縮モルタルとの付着性を確保するため、打設時に粗面仕上げ（刷毛引き仕上げ等）とすること。
6. 上面モルタルは仮受け完了後に打設すること。

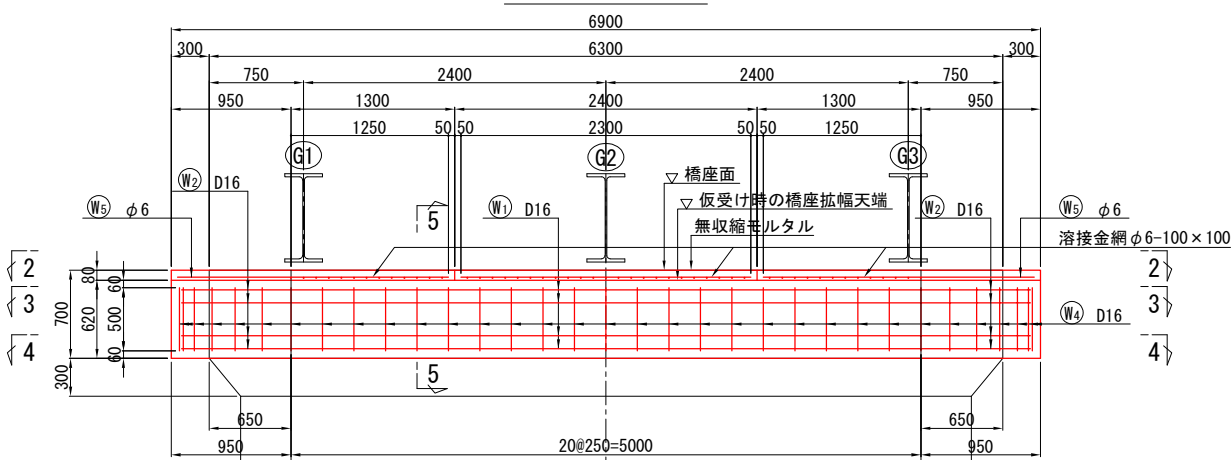


谷後橋 橋座拡幅図(2)

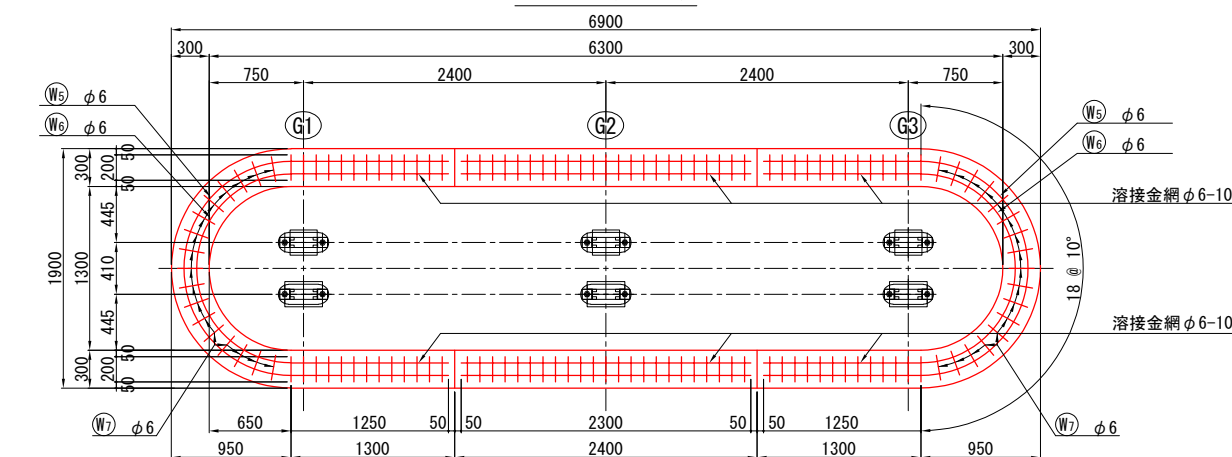
P1橋脚 S=1:30

断面図 (5 - 5)

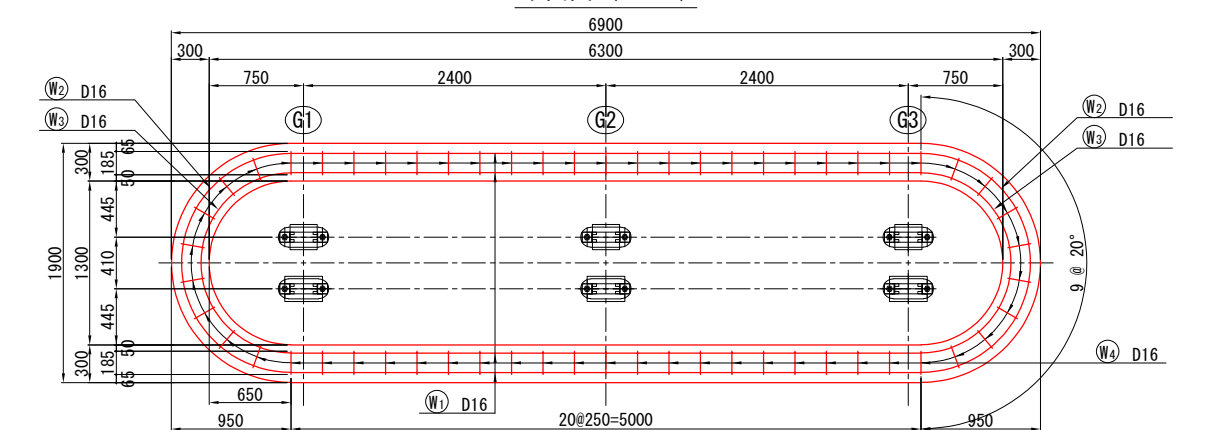
正面図 (1 - 1)



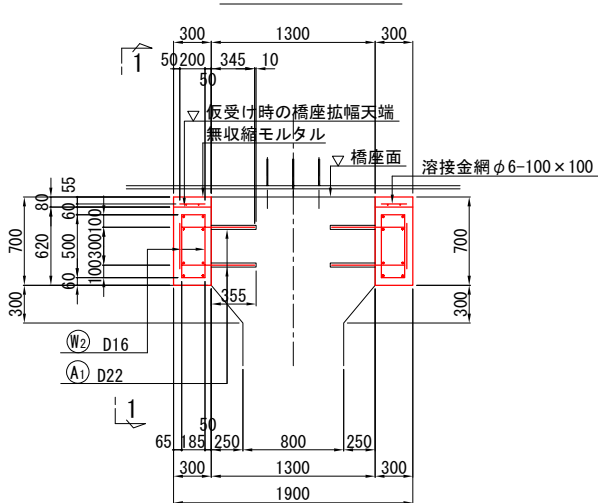
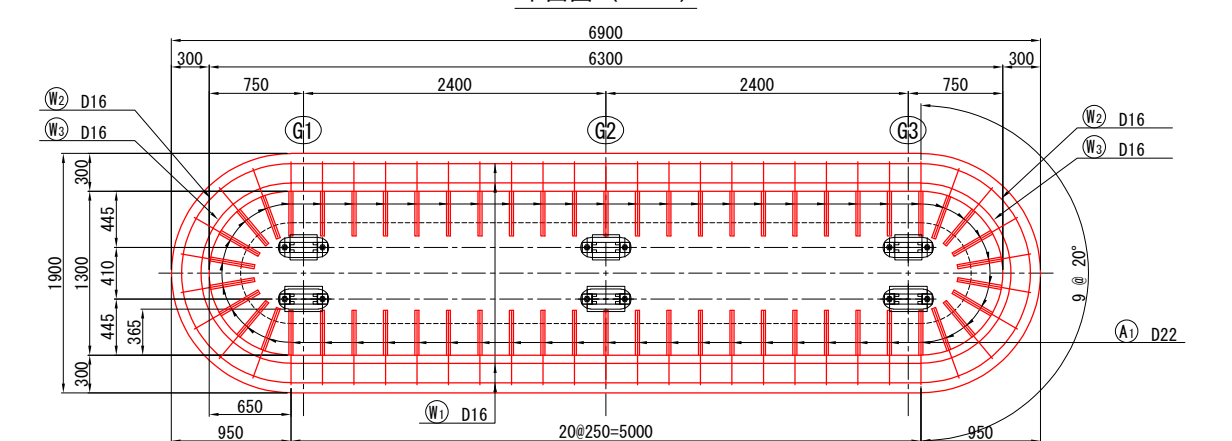
平面図 (2 - 2)



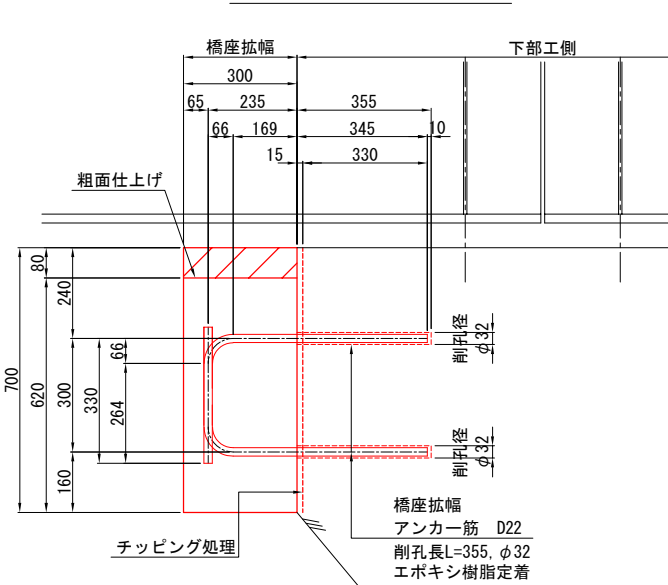
平面図 (3 - 3)



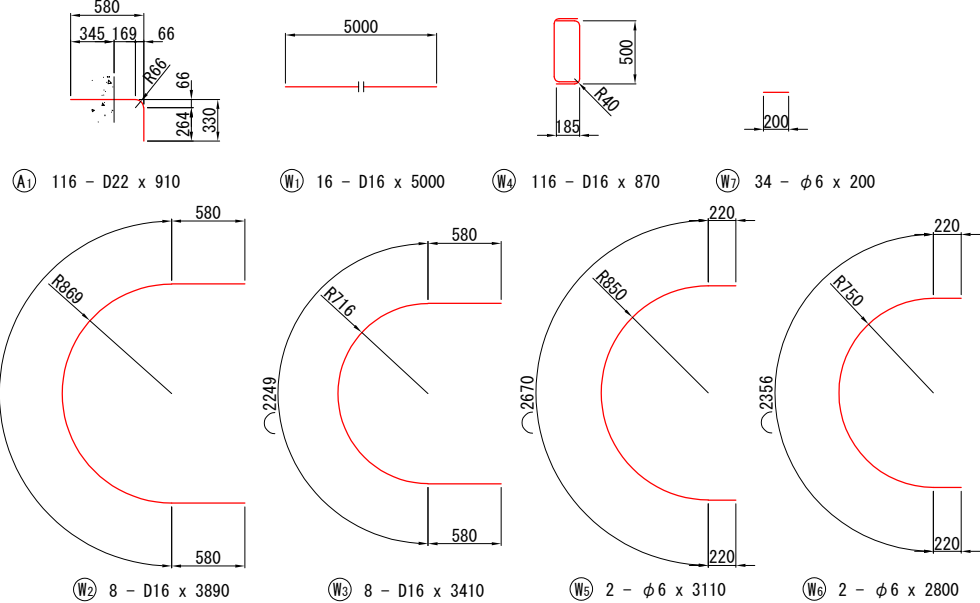
平面図 (4 - 4)



アンカー詳細図 S=1:10



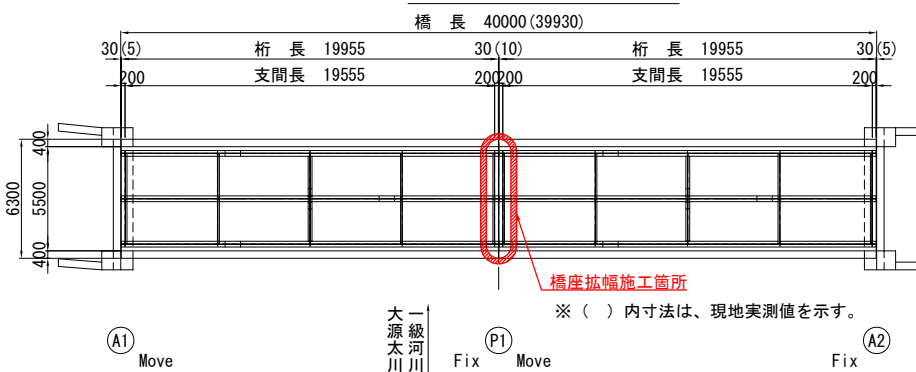
＜注記＞アンカー鉄筋の定着長は、チップング面より確保すること。



P1橋脚当たり鉄筋表

記 号	径	長 さ	本 数	単位質量	一本当り質量	質 量	摘 要
A 1	D22	910	116	3.04	2.77	321	SD345
W 1	D16	5000	16	1.56	7.80	125	SD345
W 2	D16	3890	8	1.56	6.07	49	SD345
W 3	D16	3410	8	1.56	5.32	43	SD345
W 4	D16	870	116	1.56	1.36	158	SD345
W 5	φ6	3110	2	0.222	0.69	1	SR235
W 6	φ6	2800	2	0.222	0.62	1	SR235
W 7	φ6	200	34	0.222	0.04	1	SR235
							699 kg
P1橋脚当たり鉄筋質量 (SD345)							
D22				321 kg			
D16				375 kg			
合 計				696 kg			
P1橋脚当たり鉄筋質量 (上面モルタル SR235)							
φ6				3 kg			
合 計				3 kg			

施工位置図 S=1:200



＜注記＞

1. 工事着手前には、現橋の形状寸法を確認してから施工を行うこと。
2. アンカー孔削孔前には、下部工の鉄筋探索を実施し、アンカー鉄筋との位置関係を確認すること。また、既設支承アンカーとの位置関係についても確認すること。
3. 新旧コンクリート打継ぎ面はチップング処理を行い、十分な粗面とすること。また、コンクリート打設前は十分な湿潤状態とすること。
4. 拡幅コンクリートの設計基準強度は、 $\sigma_{ck}=21\text{N/mm}^2$ とする。
5. 拡幅コンクリートの上面は、無収縮モルタルとの付着性を確保するため、打設時に粗面仕上げ（剛毛引き仕上げ等）とすること。
6. 上面モルタルは仮受け完了後に打設すること。

年度	工事番号	号
谷後線	南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
工事		
谷後橋 橋座拡幅図(2)		
縮尺	図示	図面全 33 葉の 18
測量		令和 年 月
設計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月
湯 沢 町		

A2橋台 S=1:30

Technical drawing of a bridge deck cross-section. The drawing shows a rectangular deck with a total width of 7500 mm and a total height of 700 mm. The deck is divided into sections with widths of 1350, 2400, 2400, and 1350 mm. The top reinforcement consists of three main bars labeled G1, G2, and G3, with a diameter of D16. The bottom reinforcement consists of two main bars labeled W1 and W2, with a diameter of D16. The drawing also shows the bridge seat (橋座面) and the bridge deck width at the support (仮受け時の橋座拡幅天端). The drawing includes dimensions for the deck height (700 mm), the width of the deck at the support (7500 mm), and the width of the deck at the bridge seat (7380 mm). The drawing also shows the width of the deck at the bridge seat (7380 mm) and the width of the deck at the bridge seat (7500 mm). The drawing includes dimensions for the deck height (700 mm), the width of the deck at the support (7500 mm), and the width of the deck at the bridge seat (7380 mm). The drawing also shows the width of the deck at the bridge seat (7380 mm) and the width of the deck at the bridge seat (7500 mm).

Figure 1: Reinforcement details for the bridge deck slab. The diagram shows a cross-section of the slab with various dimensions and reinforcement specifications. Key dimensions include a total width of 1000mm, a top reinforcement layer at 345mm from the top, and a bottom reinforcement layer at 300mm from the bottom. The slab is supported by a 50mm thick base. Reinforcement includes D22 bars at the top (A1) and D16 bars at the bottom (W2). A 6mm diameter, 100mm x 100mm mesh is used for the bottom reinforcement. The diagram also shows the location of the bridge deck slab and the bridge deck expansion joint.

Technical drawing of a bridge deck cross-section showing dimensions and reinforcement details.

Dimensions:

- Overall width: 650 (下部工側) + 300 (橋座拡幅) = 950
- Top reinforcement spacing: 355, 235, 65
- Bottom reinforcement spacing: 345, 169, 66
- Bottom reinforcement offset: 330, 15
- Vertical dimensions: 80, 240, 66, 264, 330, 300, 620, 700

Reinforcement Details:

- 橋座拡幅 (Bridge seat widening)
- アンカー筋 D22 (Anchor bar D22)
- 削孔長L=355, $\phi 32$ (Cutout length L=355, $\phi 32$)
- エポキシ樹脂定着 (Epoxy resin bonding)
- チッピング処理 (Chipping treatment)
- 粗面仕上げ (Rough finish)

Technical drawings of three components:

- (A1)** 58 - D22 x 910: A square plate with a total width of 580. It features a central hole with a diameter of 264. The hole is offset from the top and bottom edges by 169 and 264 respectively, and from the left and right edges by 345 and 169 respectively. The plate has a thickness of 66.
- (W1)** 8 - D16 x 7380: A long, narrow plate with a total length of 7380 and a thickness of 8. It has a central hole with a diameter of 16.
- (W4)** 62 - D16 x 870: A rectangular plate with a total width of 620 and a total height of 870. It has a central hole with a diameter of 160. The hole is offset from the top and bottom edges by 185 and 500 respectively, and from the left and right edges by 185 and 185 respectively. The plate has a thickness of 62.

記 号	径	長 さ	本 数	単位質量	一本当り質量	質 量	摘 要
A 1	D22	910	58	3.04	2.77	161	SD345
W 1	D16	7380	8	1.56	11.51	92	SD345
W 2	D16	870	62	1.56	1.36	84	SD345
						337 kg	
A2橋台当たり鉄筋質量 (SD345)							
D22				161 kg			
D16				176 kg			
合 計				337 kg			

橋 長 40000 (39930)

30 (5)	桁 長 19955	30 (10)	桁 長 19955	30 (5)
200	支間長 19555	200	支間長 19555	200

6300
400
5500
400

大源一級河川

※ () 内寸法は、現地実測値を示す。

橋座拡張施工箇所

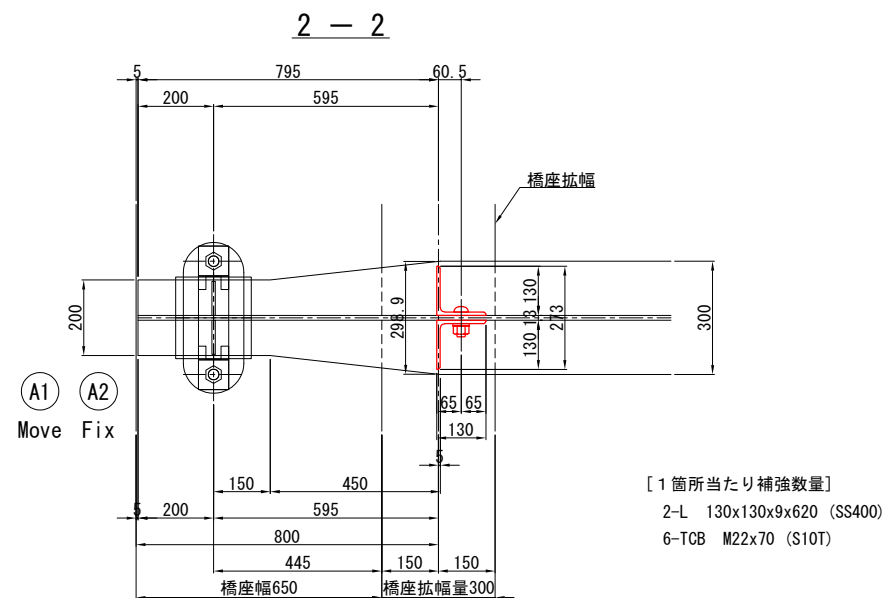
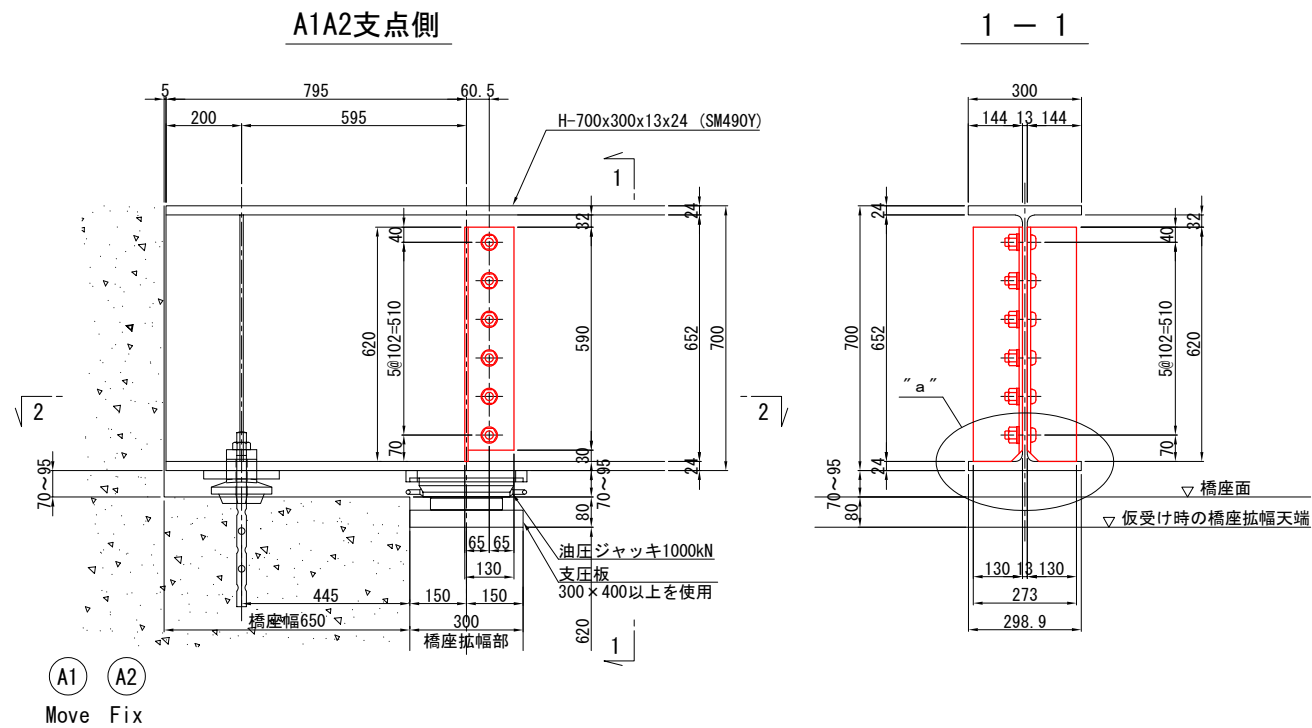
Move Fix P1 Move Fix

A1 A2

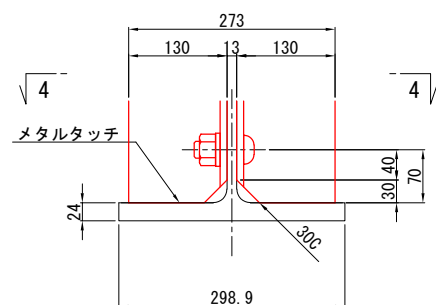
年度		工事番号		号
谷後線 南魚沼郡湯沢町大字土樽 地内				
工事				
谷後橋 橋座拡幅図(3)				
縮尺	図示	図面全 33 葉の 19		
測量				令和 年 月
設計	株式会社 構造技研新潟			令和 6年12月
湯 沢 町				

谷後橋 仮受け補強図

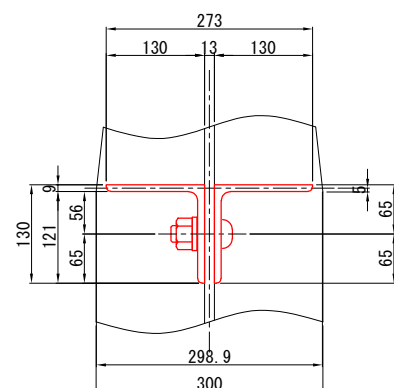
仮受け補強詳細図 S=1:10



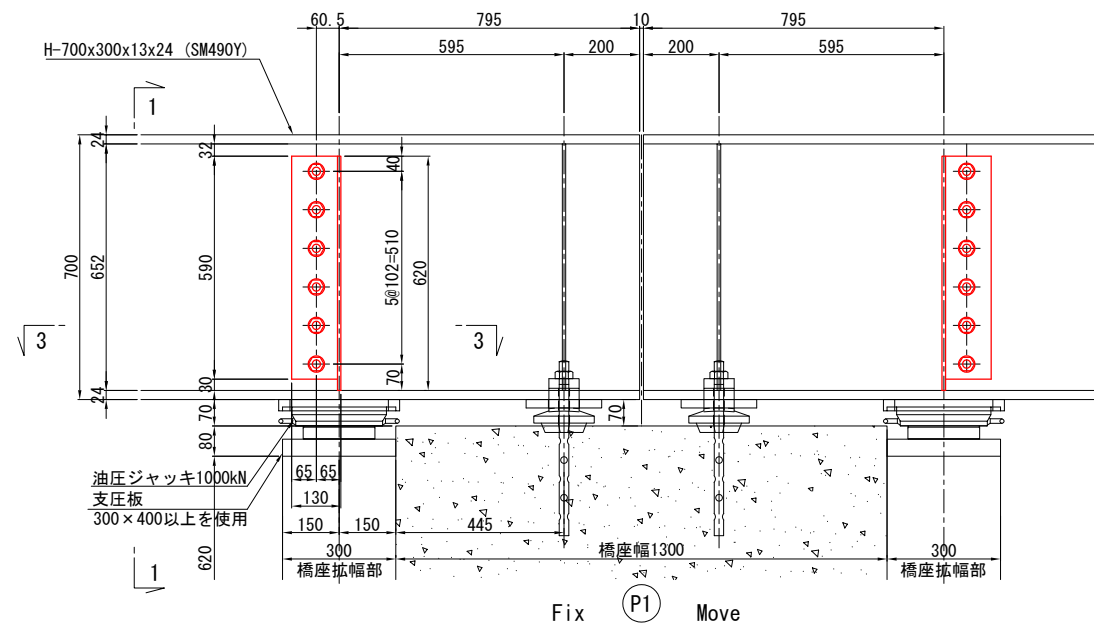
a 部詳細 S=1:5



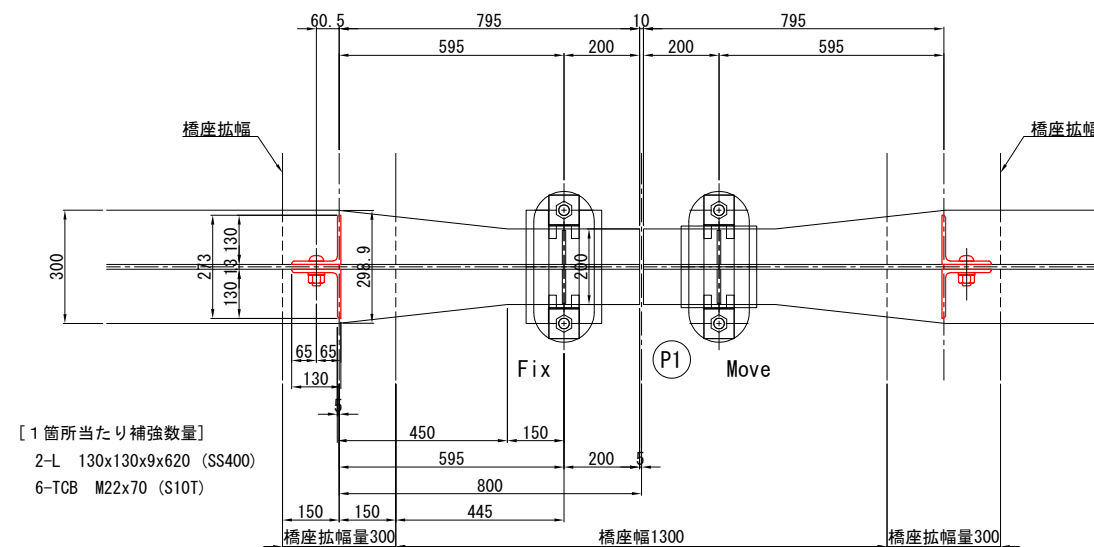
4 - 4



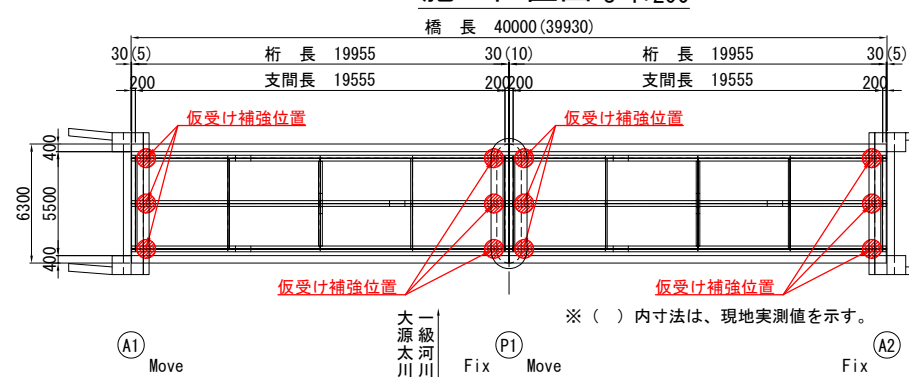
P1支点側



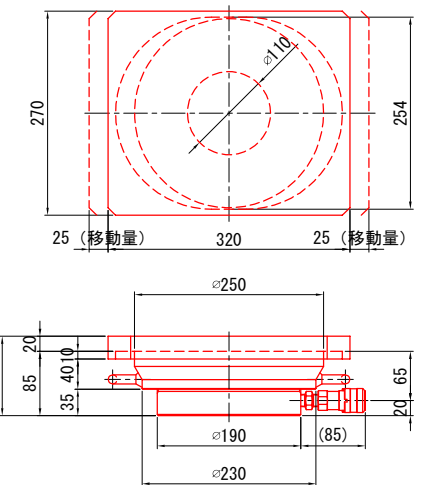
3 - 3



施工位置図 S=1:200



支承補修用油圧式ジャッキ S=1:5
(参考図：MJ-10020-A)



仕 様	
能力	1000 kN
ストローク	20 mm
最低機械高	105 mm
シリンダ外径	190 mm
ロッド径	110 mm
ピストン径	145 mm
受圧面積	165.1 cm ²
最高使用圧力	60.6 MPa
質量	約39.5 kg

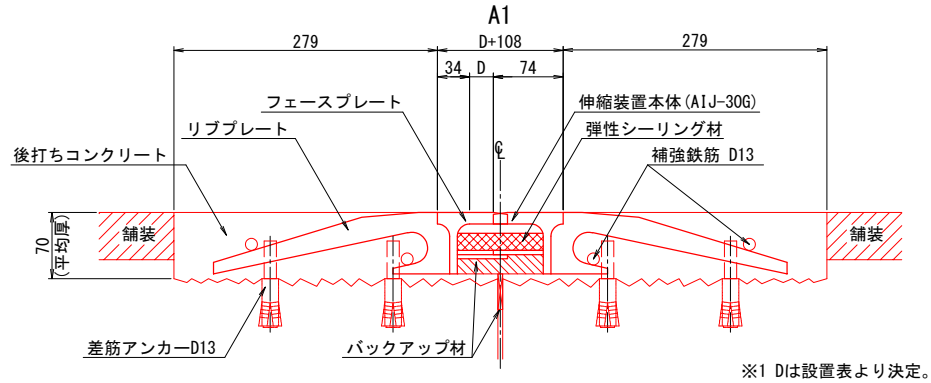
＜注記＞

1. 既設の寸法や取合い関係を計測し、結果を製作・施工に反映させること。
2. 既設部材の孔明け径はφ24.5mmとする。
3. 補強補剛材は工事完了後も存置しておくこととする。
4. ジャッキ中心は、橋座拡幅の中央に合わせる。また、ジャッキを据えるベースは、30cm×40cm以上とすること。

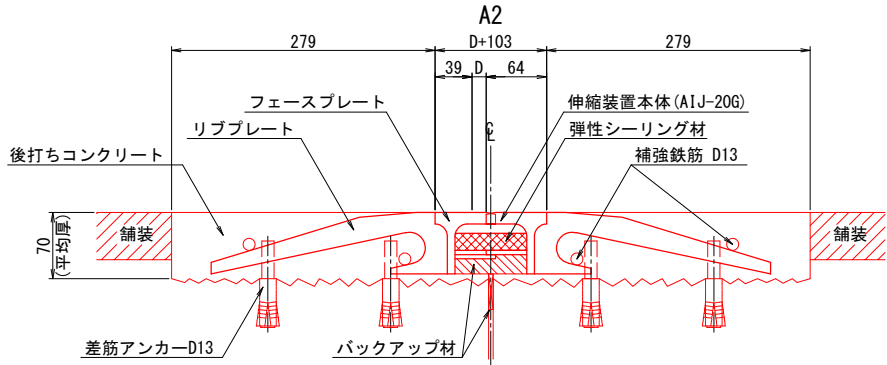
年度		工事番号		号
谷後線 南魚沼郡湯沢町大字土樽 地内				
工事				
谷後橋 仮受け補強図				
縮 尺	図 示	図面全 33 葉の 20		
測 量			令和	年 月
設 計	株式会社 構造技研新潟		令和 6年	12月
湯 沢 町				

谷後橋 伸縮装置補修図

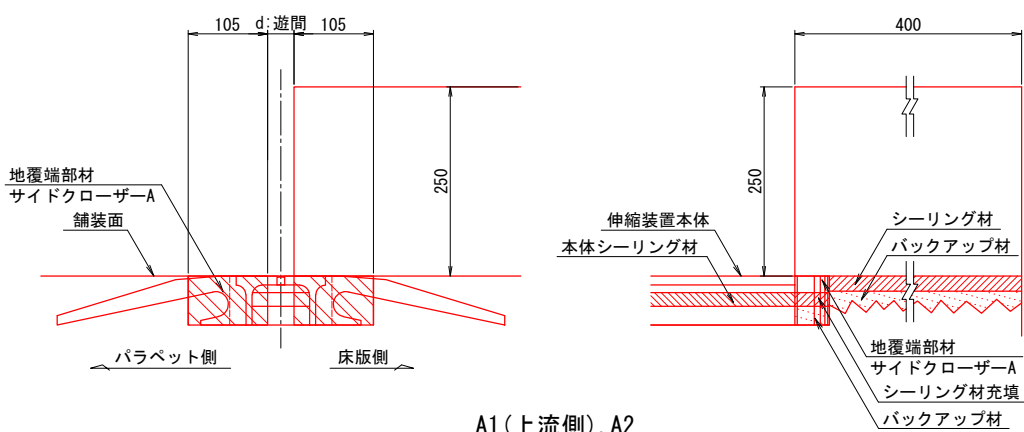
伸縮装置断面図 S=1:4
伸縮量30mmタイプ (AIJ-30G)



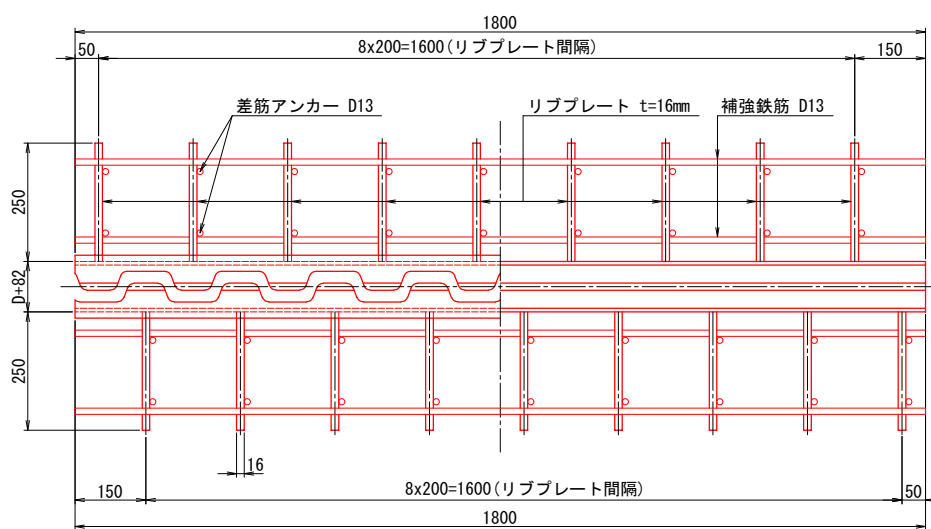
伸縮装置断面図 S=1:4
伸縮量20mmタイプ (AIJ-20G)



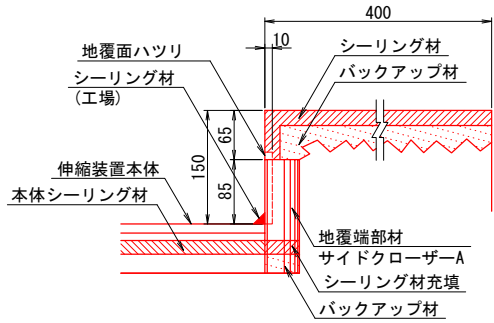
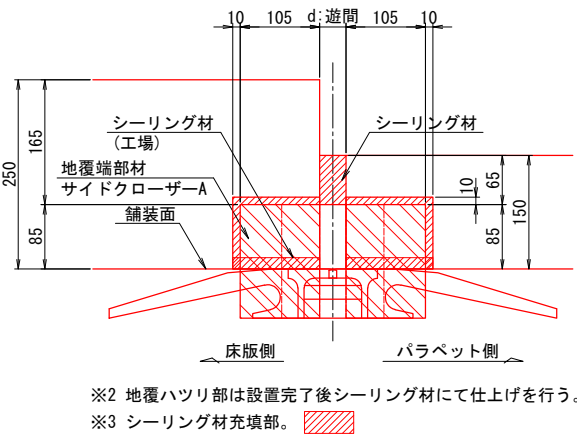
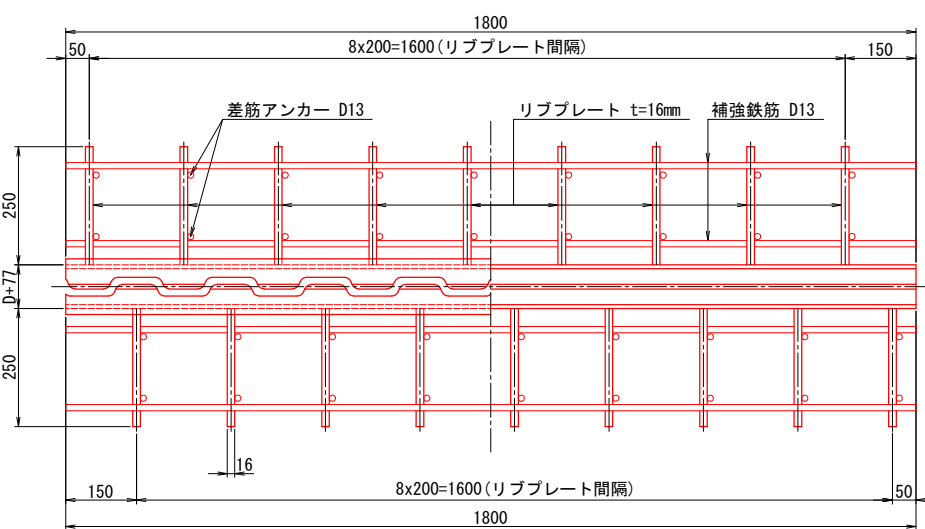
地覆端部詳細図 S=1:5
A1 (下流側)



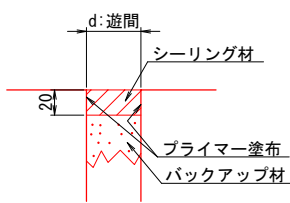
伸縮装置平面図 S=1:8



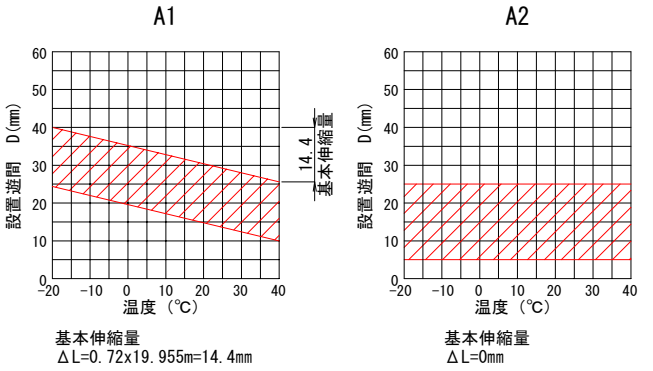
伸縮装置平面図 S=1:8



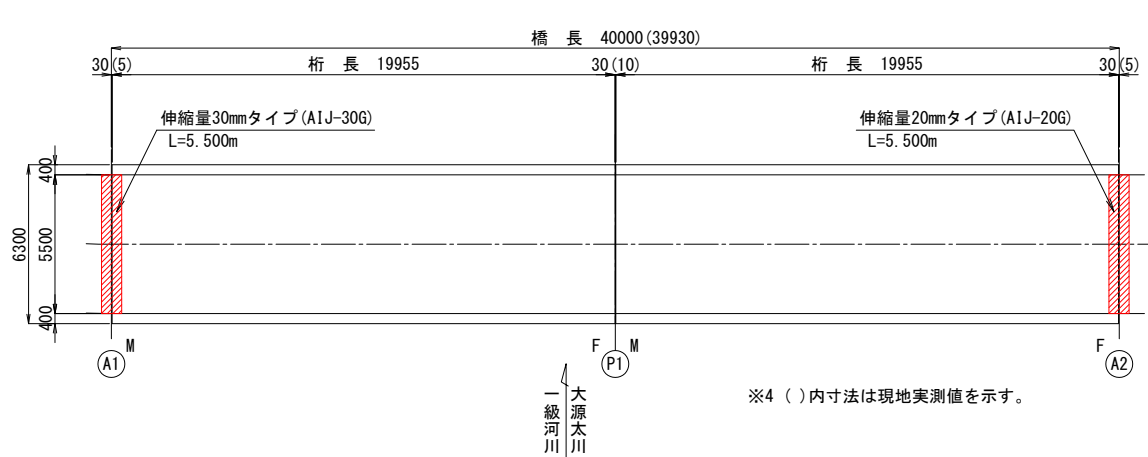
地覆処理要領図



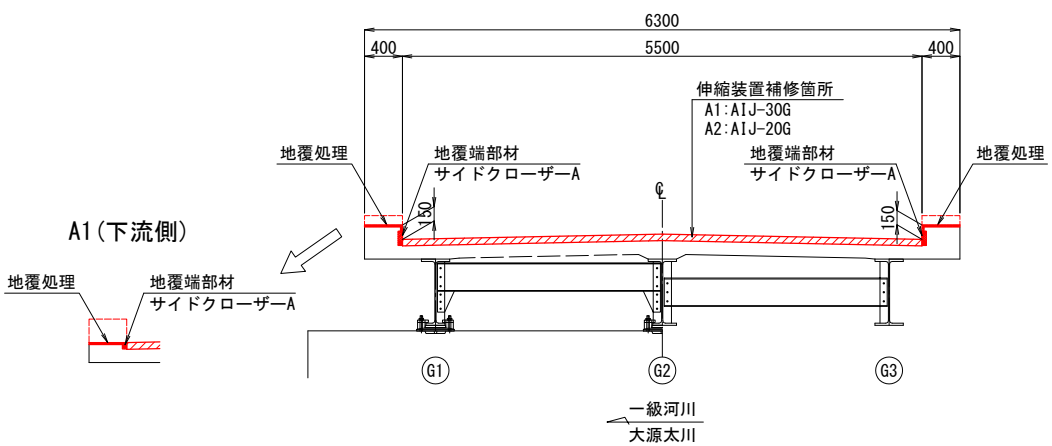
設置表



位置図 S=1:150



断面図 S=1:40

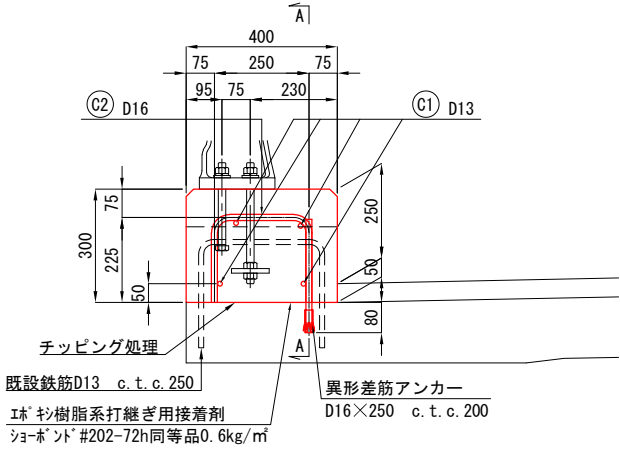


注記
1. 既設伸縮装置：鋼製スライドジョイント
2. 現地検測の上施工すること。

年度	工事番号	号
谷後線	南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
工事		
谷後橋 伸縮装置補修図		
縮尺	図示	図面全 33 葉の 21
測量		令和 年 月
設計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月
湯 沢 町		

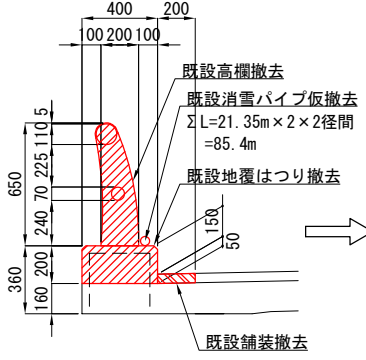
谷後橋 地覆打換図

断面図 S=1:10

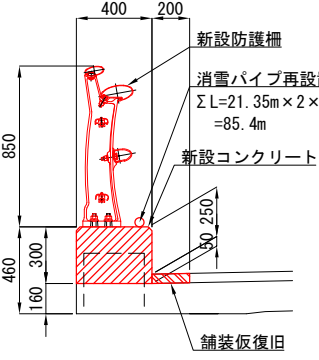


補修要領図 S=1:20

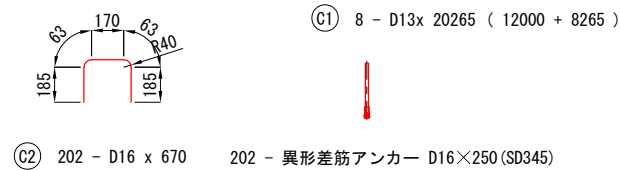
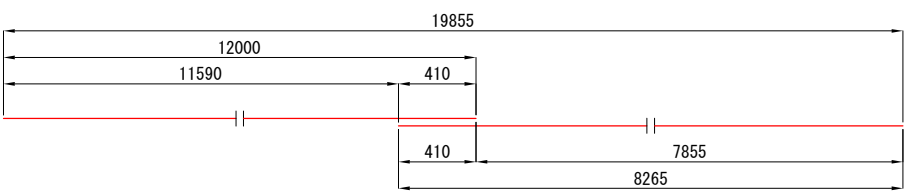
現橋断面図



補修断面図

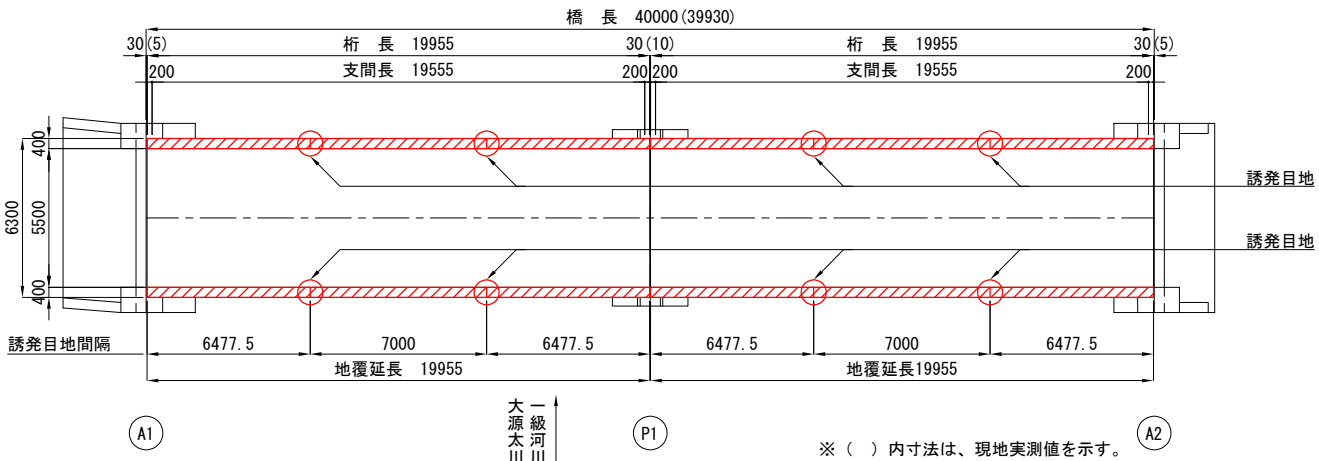


鉄筋加工図 (1径間あたり)



鉄筋表							1径間あたり
記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	形状
C1	D13	20265	8	0.995	20.16	161	—
C2	D16	670	202	1.56	1.05	212	□
(1径間分)						373 Kg	
鉄筋重量				D13 (SD345)	合計	161 Kg	
				D16 (SD345)	合計	212 Kg	

施工位置図 S=1:150



		L1	勾配 (%)
A1-P1	下流側	19961	2.413
	上流側	19956	1.036
P1-A2	下流側	19959	2.000
	上流側	19959	2.000

- <注記>
- 各寸法は現場再実測の上、決定すること。
 - 旧コンクリート面は、打設面全面にわたりチップングを行い十分な粗度をつけるものとする。
 - チップング面に直接コンクリートを打継ぐ場合は、打設面を十分に湿潤し、コンクリートを打継ぐものとする。
 - コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=24N/mm^2$ とする。
 - 异形差筋アンカーは、埋込み深さ80mm以上を確保すること。
 - 既設地覆鉄筋は、腐食していない鉄筋を極力残すものとする。
 - 舗装仮復旧は橋面防水工等の他の補修工事の施工に応じて行うこと。
 - 誘発目地位置は現場に合わせて決定すること。

年度		工事番号	号
谷後線		南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
工事			
谷後橋 地覆打換図			
縮尺	図示	図面全 33	葉の 22
測量			令和 年 月
設計	株式会社 構造技研新潟		令和 6年12月
湯 沢 町			

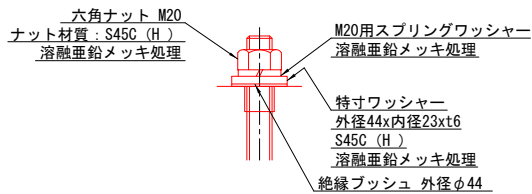
谷後橋 取替え防護柵詳細図

材料表

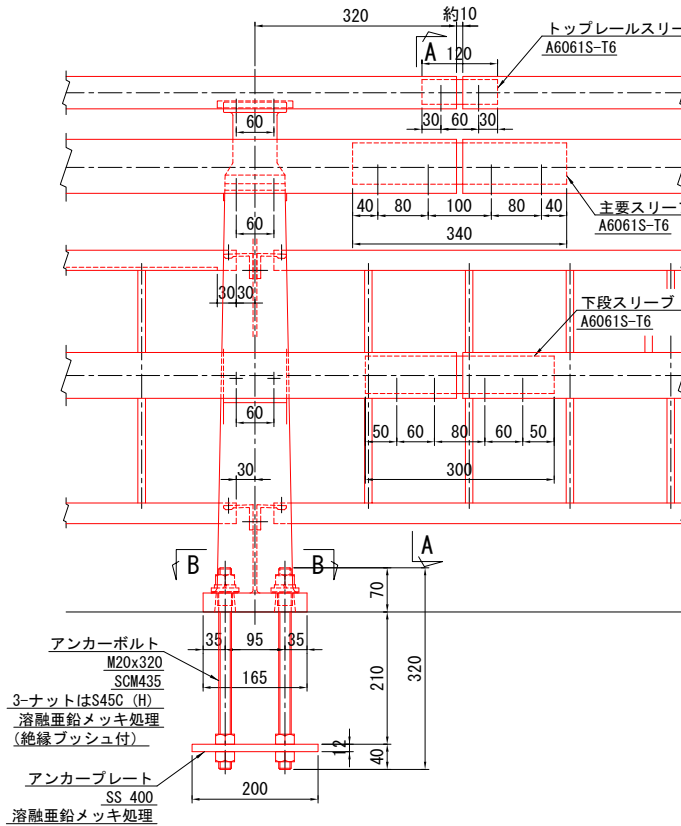
(10.8M当たり)									
部番	名 称	寸 度	数 量	単 重	1本当	総重量	材 質	備 考	
1	主要横梁	3590.0	3	4.925	17.68	53.0	A6061S-T6	170x85x3.5	
2	下段横梁	3590.0	3	3.394	12.18	36.5	A6061S-T6	99x69x4	
3	トッブレル	3590.0	3	2.179	7.82	23.5	A6061S-T6	100x50x3	
4	支柱		6		9.60	57.6	AC7A相当		
5	主要スリーブ	340.0	3	4.667	1.59	4.8	A6061S-T6		
6	下段スリーブ	300.0	3	3.195	0.96	2.9	A6061S-T6		
7	トッブレルスリーブ	120.0	3	2.093	0.25	0.8	A6061S-T6		
8	ボトムレールA	1740.0	6	1.145	1.99	11.9	A6063S-T5	70x32	
9	ボトムレールB	1680.0	6	0.461	0.77	4.6	A6063S-T5	57x3	
10	ボトムレールC	1740.0	6	0.929	1.62	9.7	A6063S-T5	70x32	
11	バラスト	371.0	72	0.369	0.14	10.1	A6063S-T5	30x12	
12	ボトムシート	30.0	24	1.380	0.04	1.0	A6063S-T5	L-47x40	
13	板ナット	120.0	6	0.986	0.12	0.7	A6061S-T6		
14	〃	100.0	6	0.986	0.10	0.6	A6061S-T6		
15	甲丸ボルト	M16x35	12		0.11	1.3	A2-70 SUS	W1, SW1	
16	〃	M12x30	24		0.05	1.2	A2-70 SUS	W1, SW1	
17	〃	M12x25	6		0.05	0.3	A2-70 SUS	W1, SW1	
18	六角ボルト	M16x40	6		0.16	1.0	A2-50 SUS	N1, W1, SW1	
19	〃	M16x50	12		0.17	2.0	A2-50 SUS	N1, W1, SW1	
20	〃	M16x70	12		0.20	2.4	A2-50 SUS	N1, W1, SW1	
21	〃	M12x22	6		0.05	0.3	A2-70 SUS	W1, SW1	
22	〃	M10x40	12		0.06	0.7	A2-50 SUS	N1, W2, SW1	
23	十字穴付六角ボルト	M5x16	24		0.004	0.1	SUS	W1, SW1	
24	なべタッピンネジ (2種)	M4x20	288		0.002	0.6	SUS		
25	トラスタッピンネジ	M4x16	48		0.002	0.1	SUS		
26	トッブレル支え材	t=5	6		0.33	2.0	A5083P-0		
27	束柱	165.0	12	0.537	0.09	1.1	A6063S-T5	30x27	
28	束柱ベースプレート	t=5	12		0.03	0.4	アルミ合金材		
29	トラスタッピンネジ (2種)	M4x20	24		0.002	-	SUS	束柱用	
30	皿タッピンネジ (2種)	M4x20	24		0.002	-	SUS	束柱用	
31	アンカーボルト	M20x320	12		0.93	11.2	SCM435	N3, φ44W1, SW1, 絶縁ブッシュ	
32	〃	M20x220	12		0.68	8.2	強度区分4.6以上	N1, φ44W1, SW1, 絶縁ブッシュ	
33	アンカープレート	t=12	6		1.88	11.3	SS400	100x200x12	
					総重量	261.9	Kg/10.8M		
					M当り	24.3	Kg/M (端部は除く)		

勾配部定着詳細図

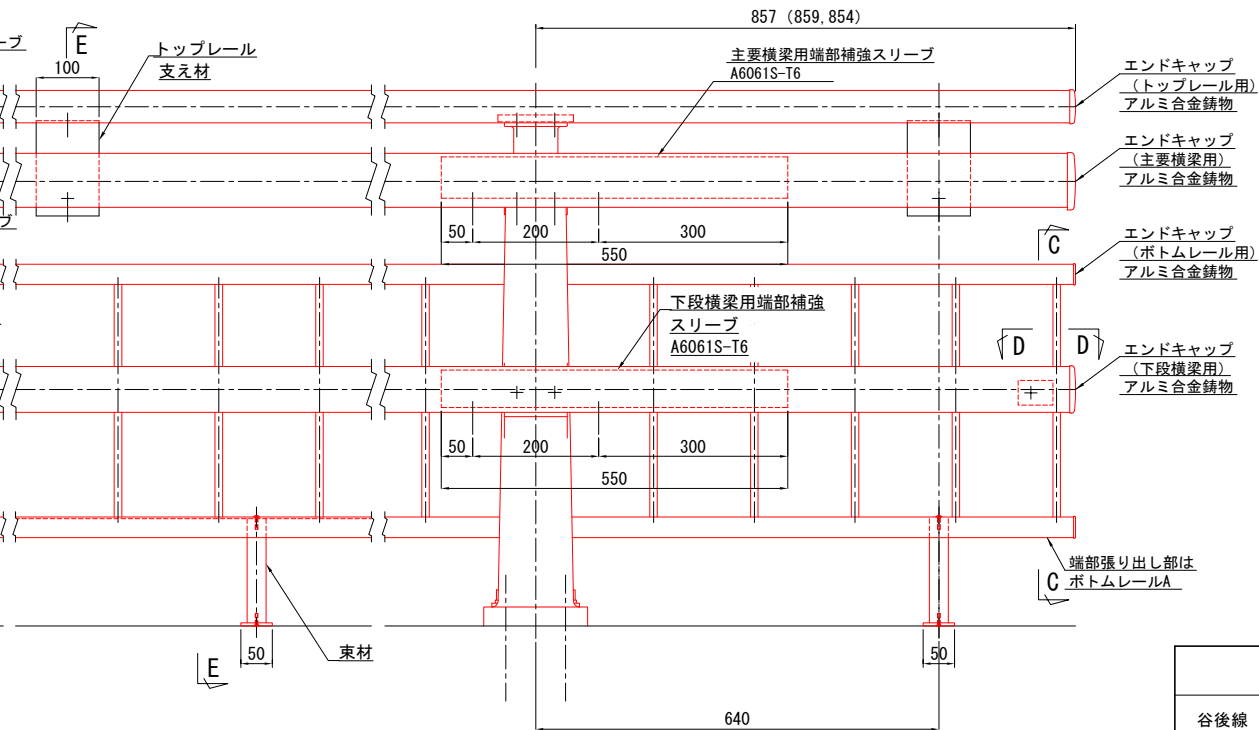
アンカーナット締め付け部 S=1/3



継手部



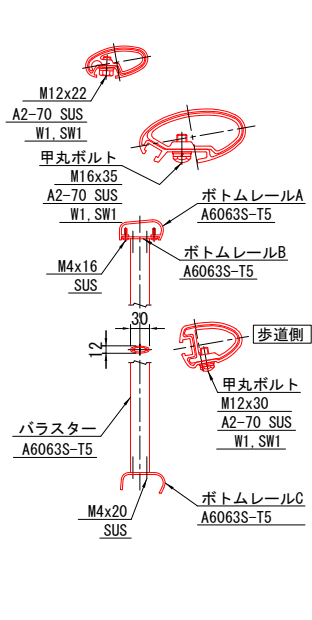
端 部



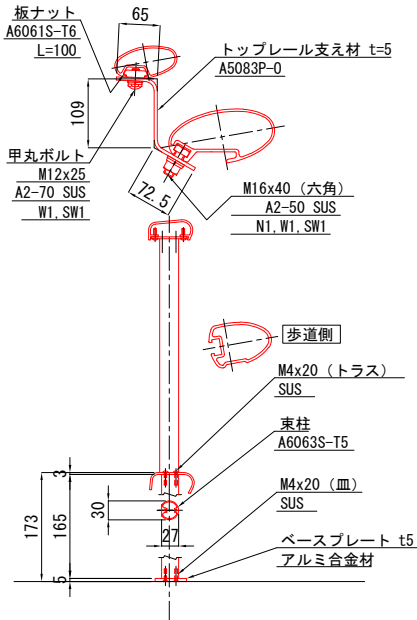
- 注記
1. 各寸法は現場再実測の上、決定すること。
 2. 表面仕様
主要横梁、下段横梁、主要スリーブ、下段スリーブ他、形材部品はアルマイト処理とし、
支柱は塗装処理、ボルト (アンカーを除く) はステンカラー、シルバー及びダークグレー色の時を除き着色処理とし、
色調は別途打合せとする。
 3. 本防護柵の設計・製作仕様は、(社)日本アルミニウム協会 土木製品開発委員会作成
「アルミニウム合金製橋梁用防護柵設計要領」(平成30年6月)、
「アルミニウム合金製橋梁用防護柵製作・施工要領」(平成27年3月)による。
 4. 本防護柵の支柱は、レール用を示し、0~2.5%勾配に使用とする。
 5. ボルト・ビス類のSUS材は、塩害対策処理とする。
 6. 絶縁ブッシュの色は黒色とする。

コンクリート強度 $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$ 以上
積雪条件 年最大積雪深: 3.0m、平均雪密度: 350kg/m³

断面A-A



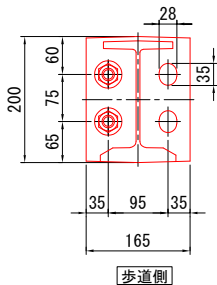
断面E-E S=1/6



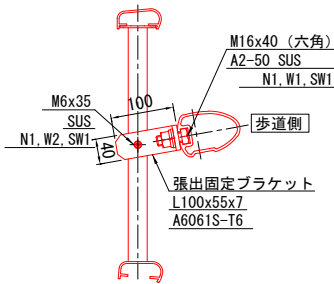
断面D-D



断面B-B

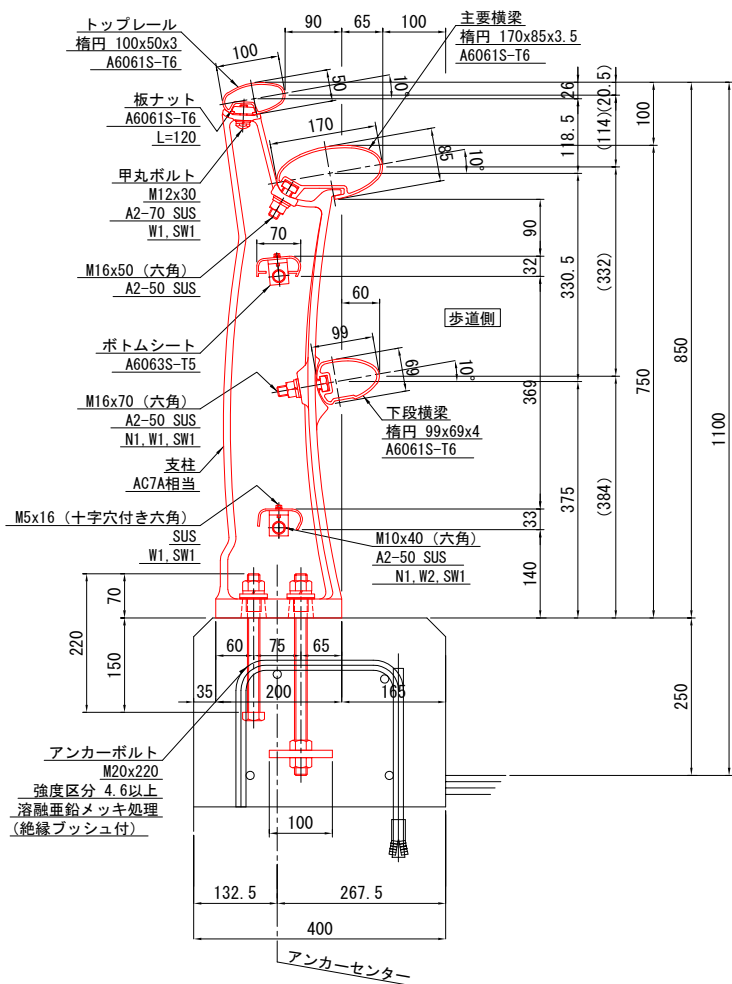


断面C-C



高欄兼用
車両用防護柵取付詳細図 S=1/6

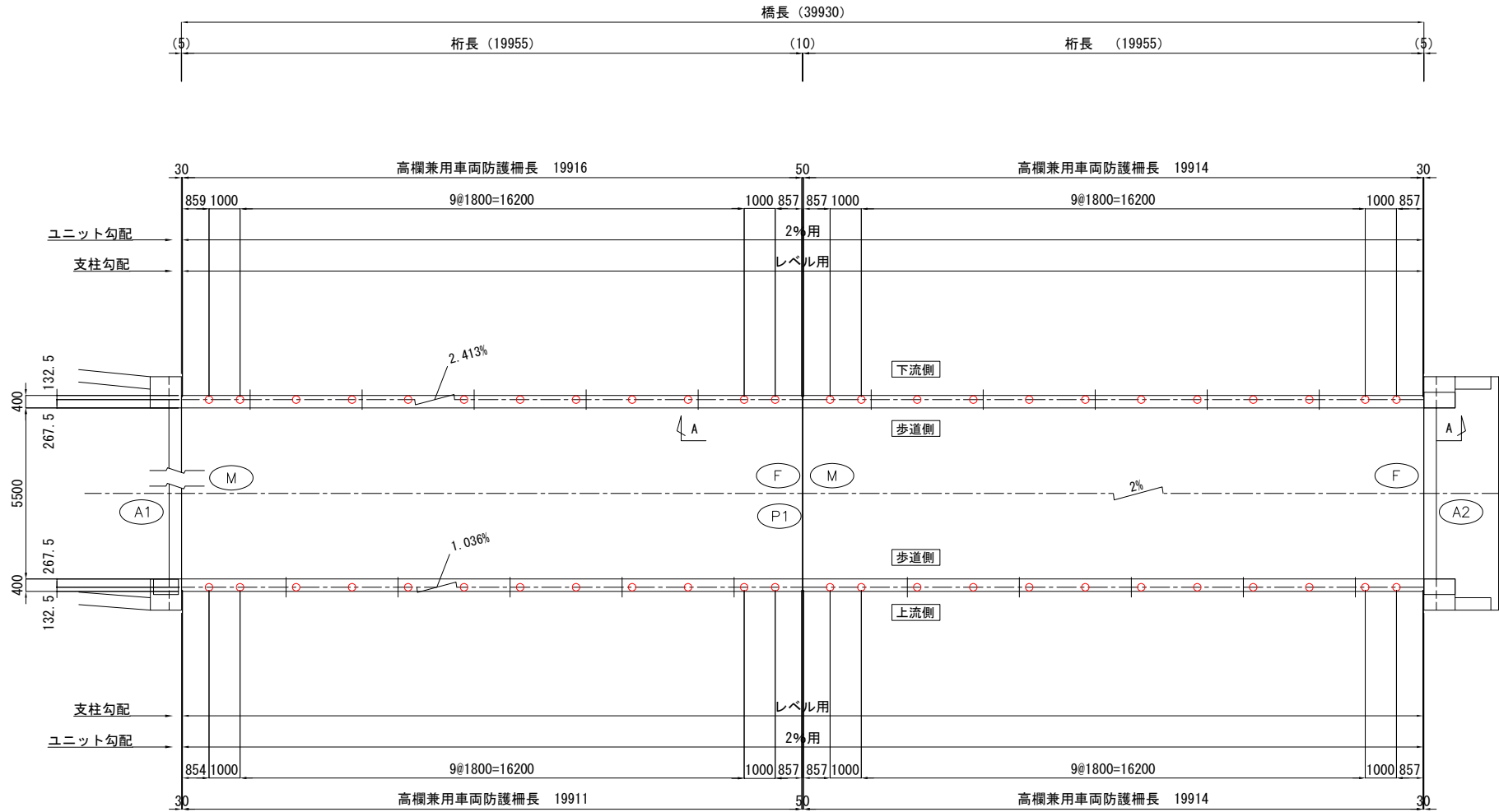
種別 B



谷後橋 取替え防護柵割付け図

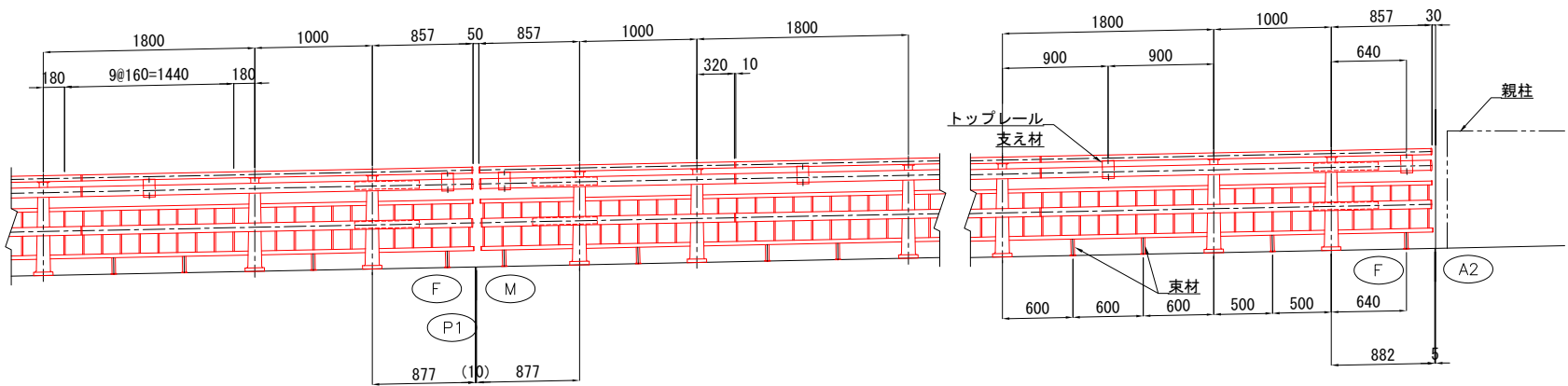
平面図 S=1/100

高欄兼用車両用防護柵総延長（レベル用）79M655



- 注記
1. 各寸法は現場再実測の上、決定すること。
 2. 記入寸法はアンカーセンター押さえとし、実長で示す。
 3. 図中 ○ 印は支柱取付位置を示し、+ 印は横梁、トップレール継手部を示す。
 4. 消雪パイプ等、既設物の有無は現地確認のこと。
 5. 親柱の形状と取合いは現地確認のこと。
 6. () 内寸法は水平長を示す。

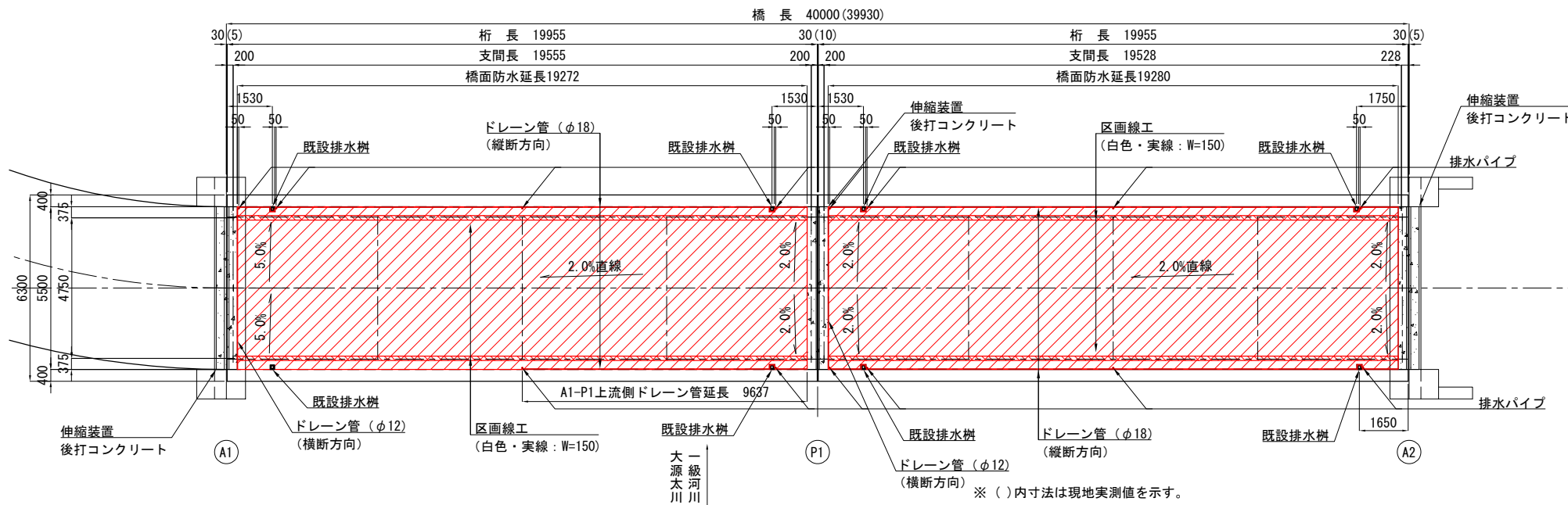
姿図 S=1/30
A-A



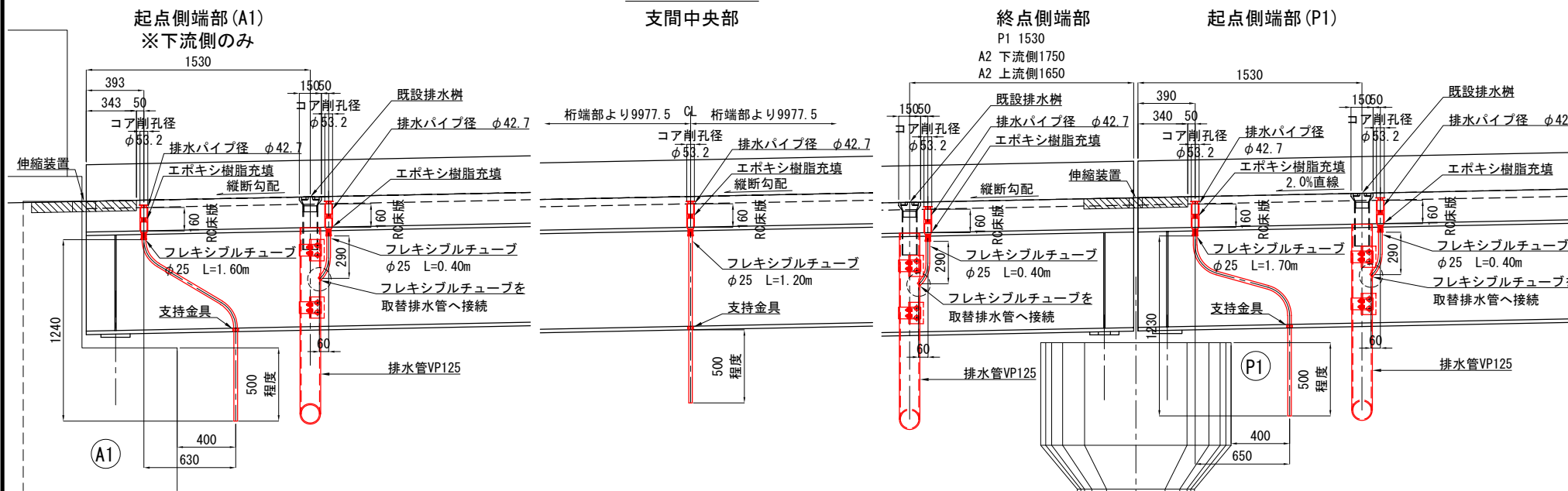
年度		工事番号	号
谷後線		南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
		工事	
		谷後橋 取替え防護柵割付け図	
縮尺	図示	図面全 33 葉の 24	
測量		令和 年 月	
設計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月	
		湯 沢 町	

谷後橋 舗装打換・橋面防水図

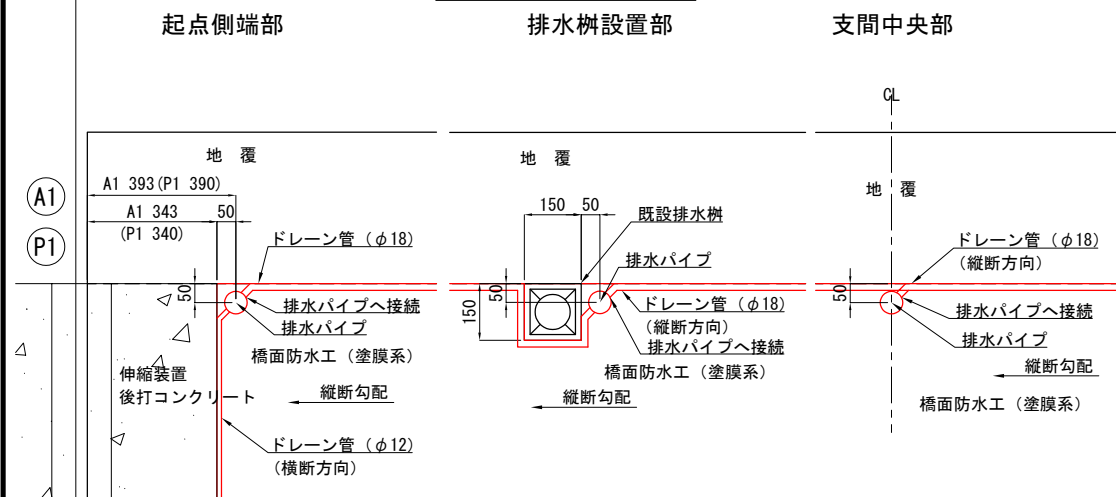
平面图 S=1:100



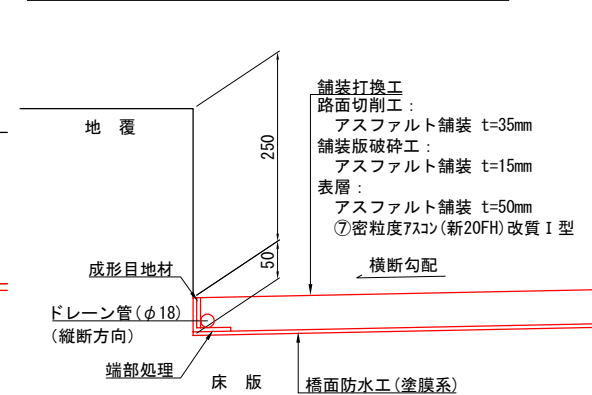
側 面 図 S=1:20



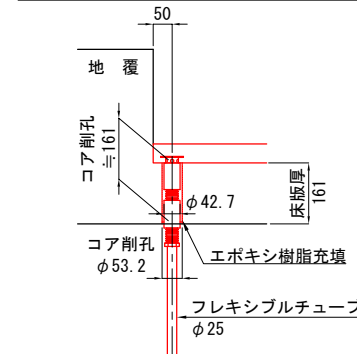
排水処理詳細図 S=1:10



鋪裝打換工・橋面防水工詳細図 S=1:5



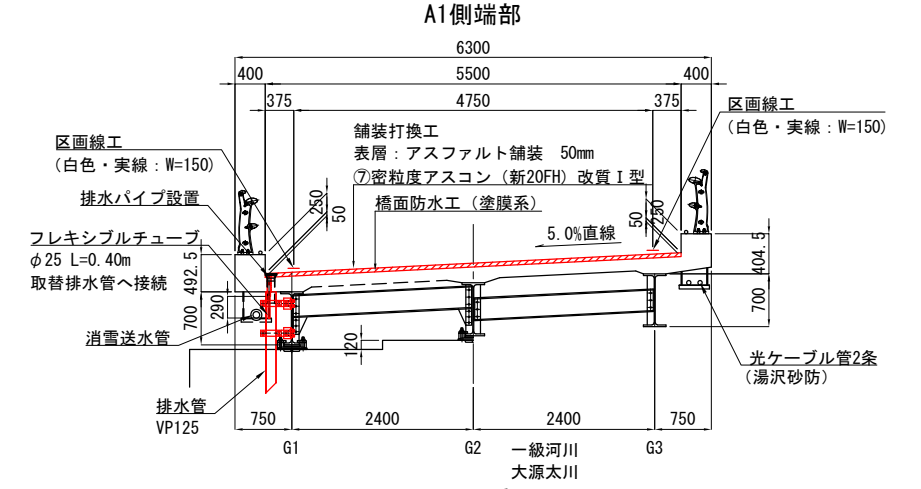
排水パイプ取付詳細図 S=1:10



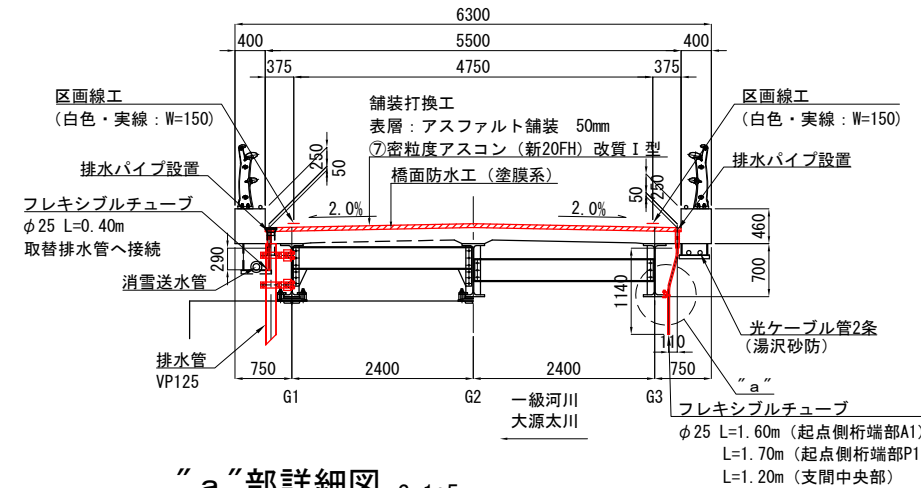
<注記>

1. 各寸法は現場再実測の上決定すること。
2. 舗装厚および横断勾配は既存資料より想定した数値であり、現況と厚い舗装構成にて施工を行うものとする。
3. 排水パイプは縦断勾配を確認の上、配置を再検討すること。
4. 既設舗装撤去に際しては、床版コンクリートを損傷させないよう十分注意して行うこと。
5. ドレイン管の流末処理は、既設排水木の削孔が困難と考えられるため、排水パイプへ流下（接続）させる計画としている。
6. 排水パイプの設置に伴い、床版の削孔を行う。事前に軟弱探査を行い、床版配筋を確認の上、必要に応じて配置を再検討すること。
7. 表層は以下の通りとする。
⑦密粒度7mm(新20FH)改質Ⅰ型
8. フレキシブルチューブの長さは、上部工及び下部工へ排水がかかるように、現地状況に合わせて施工するものとする。

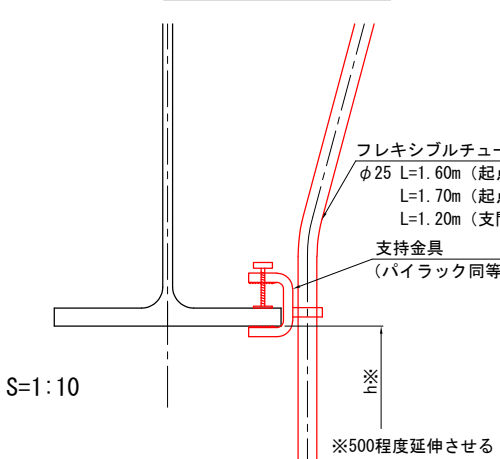
断面図 S=1:50



一般部



“a”部詳細図 S=1:5



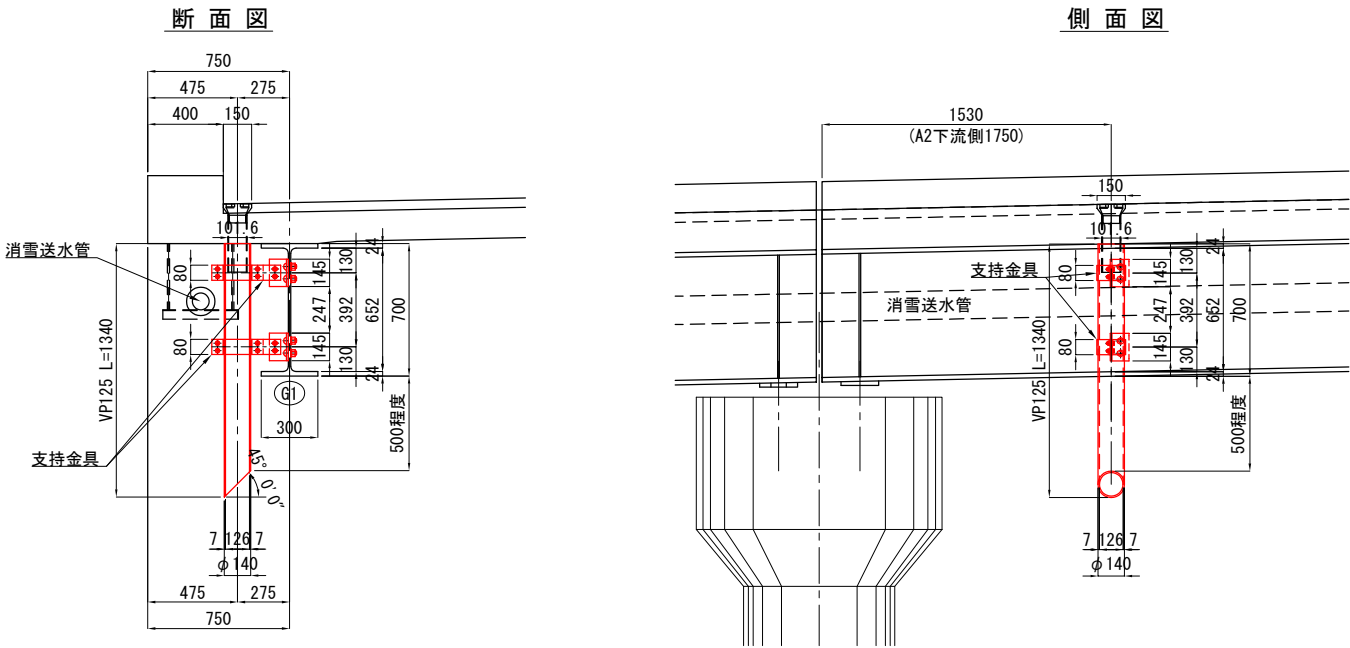
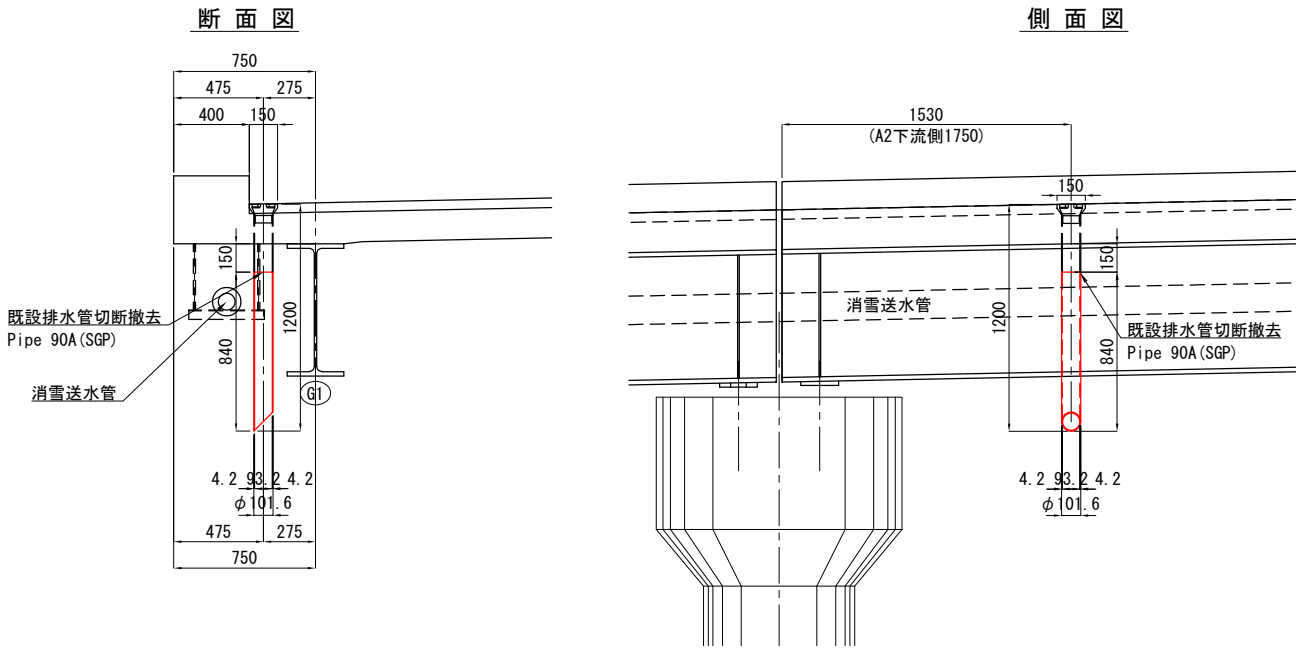
年度		工事番号		号
谷後線 南魚沼郡湯沢町大字土樽 地内				
工事				
谷後橋 舗装打換・橋面防水図				
縮 尺	図 示	図面全 33 葉の 25		
測 量			令和	年 月
設 計	株式会社 構造技研新潟		令和	6年12月
湯 沢 町				

谷後橋 排水装置補修図(1)

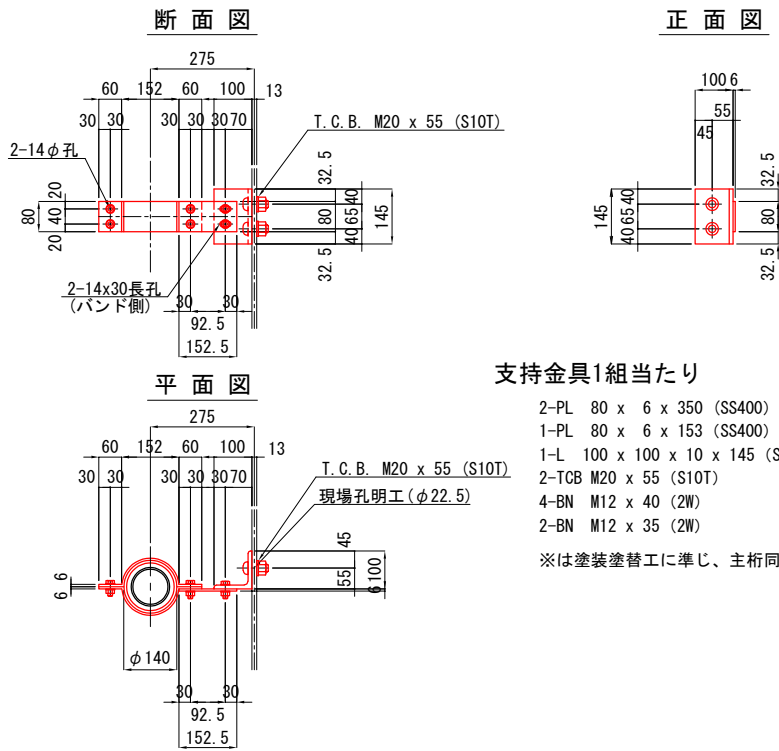
現況図 S=1:20

下流側

取替図 S=1:20



排水管支持金具詳細図 S=1:10



支持金具1組当たり

2-PL 80 x 6 x 350 (SS400)

1-PL 80 x 6 x 153 (SS400)

1-L 100 x 100 x 10 x 145 (SS400) ※

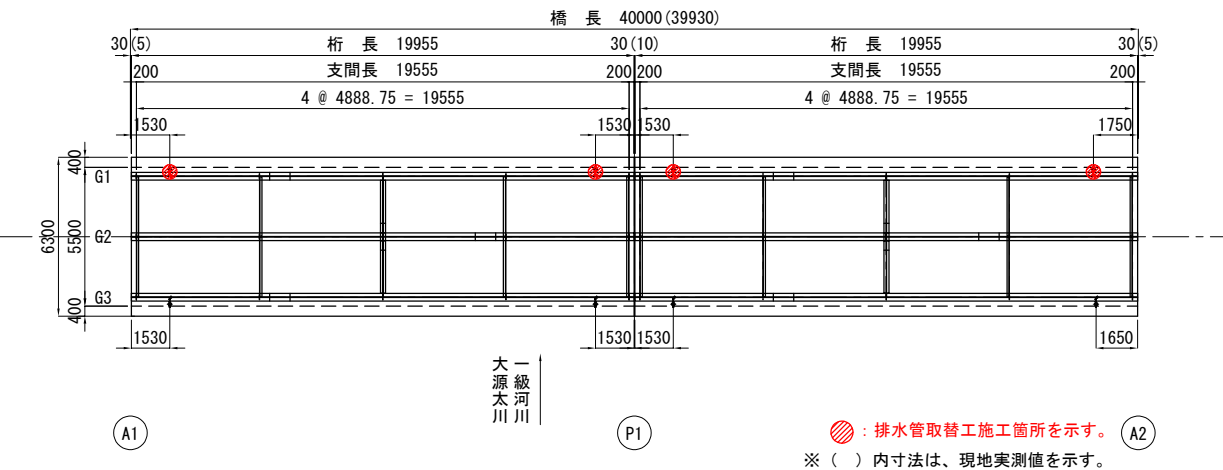
2-TCB M20 x 55 (S10T) ※

4-BN M12 x 40 (2W)

2-BN M12 x 35 (2W)

※は塗装塗替工に準じ、主桁同様の塗装とする。

位置図 S=1:150



溶融亜鉛メッキ膜厚表	
記号	適用例
HDZT49	厚さ1mm以上の部材、直径12mm以上のボルト・ナット及び厚さ2.3mmを超える座金
HDZT56	厚さ2mm以上の部材
HDZT63	厚さ3mm以上の部材
HDZT70	厚さ5mm以上の部材
HDZT77	厚さ6mm以上の部材

＜注記＞

- 各寸法は現場再実測の上決定すること。
- 現構寸法を確認し、部材製作及び施工を行うこと。
- 排水管支持金具は、溶融亜鉛メッキ仕上げ (HDZT77 旧規格:HDZ55) (ボルト関係はHDZT49 旧規格:HDZ35) とする。溶融亜鉛メッキ膜厚表を参照のこと。
- 排水管支持金具の主桁接合部は塗装塗替え工に準じ、主桁同様の塗装とする。

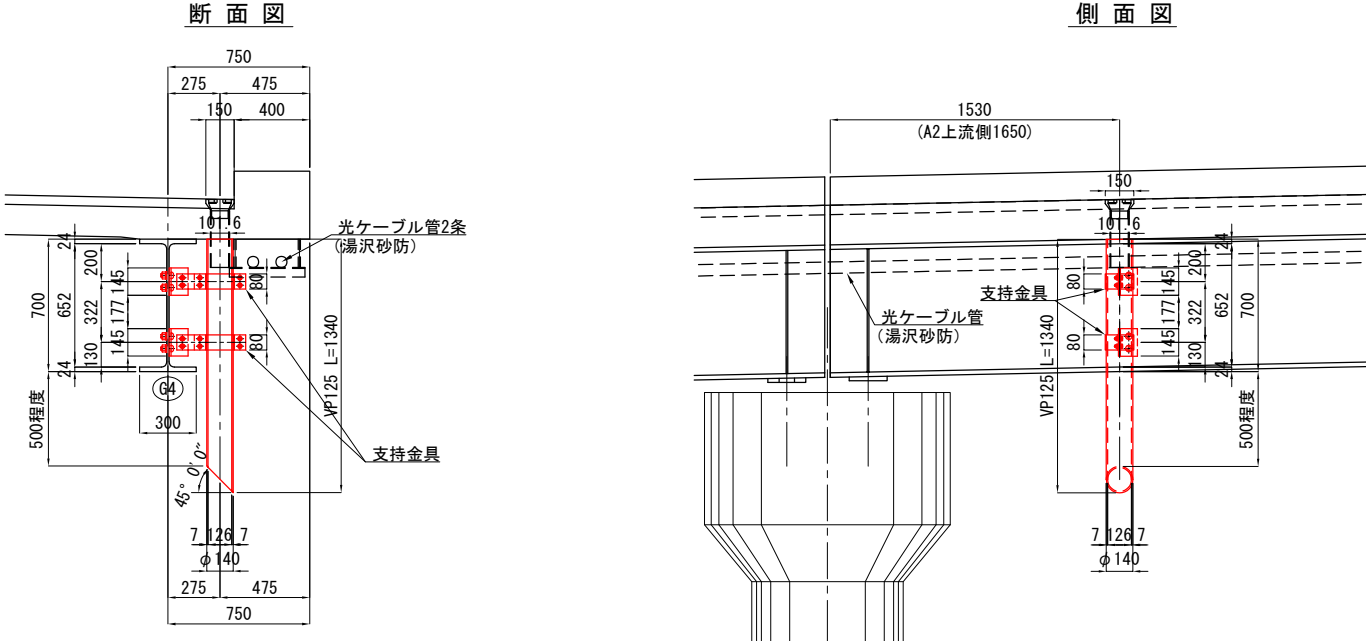
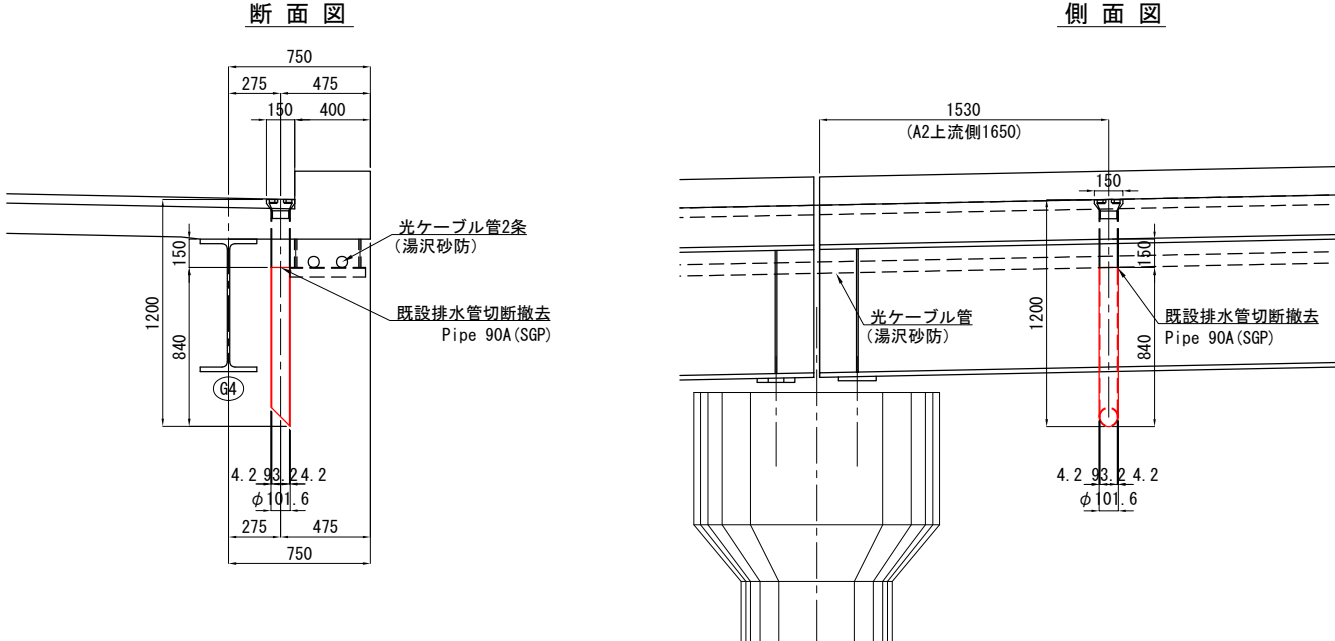
年度	工事番号	号
谷後線	南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
工事		
谷後橋 排水装置補修図(1)		
縮尺	図示	図面全 33 葉の 26
測量		令和 年 月
設計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月
湯 沢 町		

谷後橋 排水装置補修図(2)

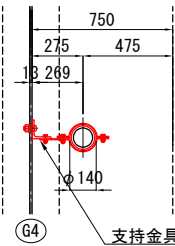
上流側

取替図 $S=1:20$

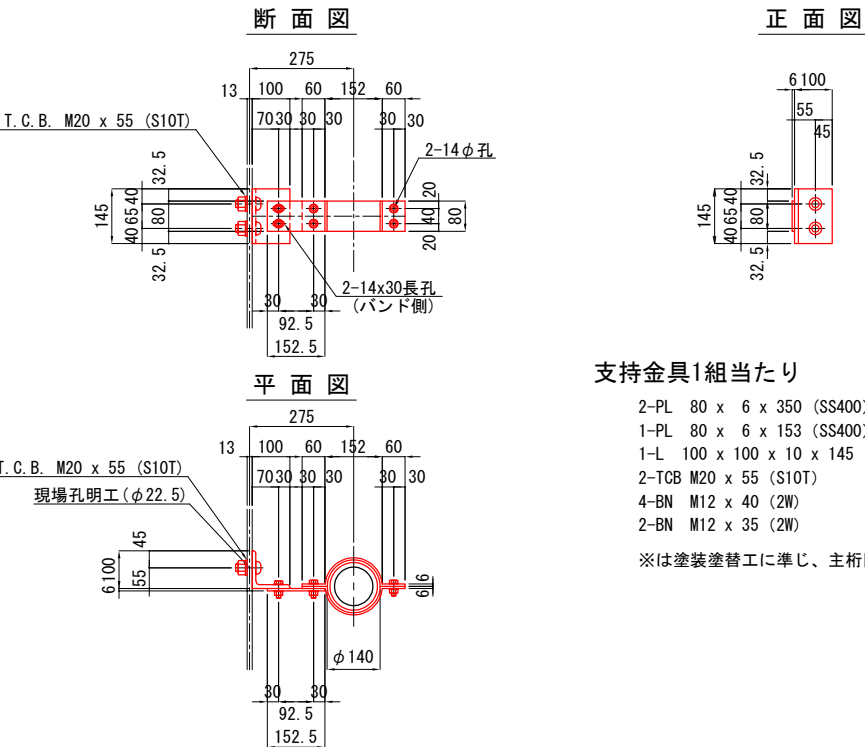
現況図 S=1:20



平面图



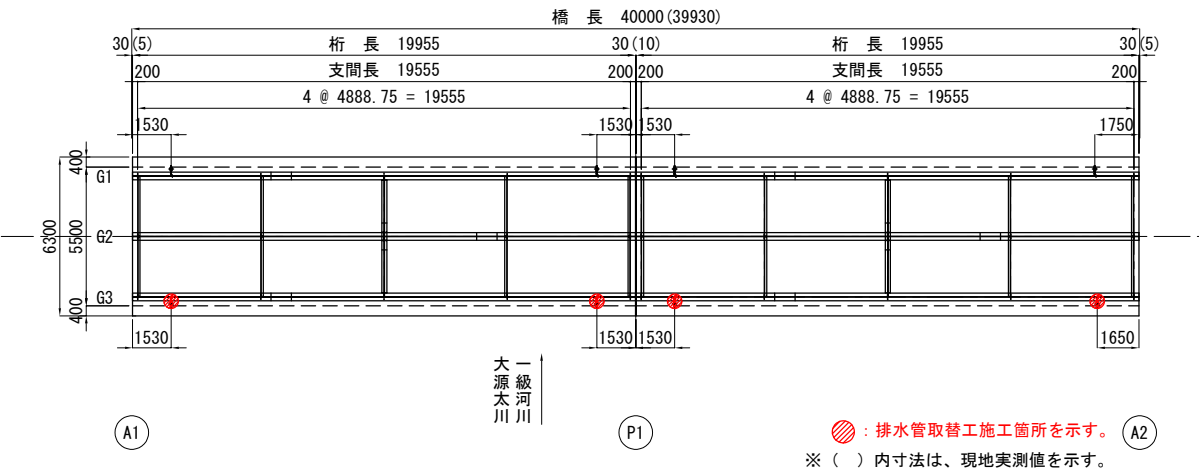
排水管支持金具詳細図 S=1:10



支持金具1組当たり

- 2-PL 80 x 6 x 350 (SS400)
 1-PL 80 x 6 x 153 (SS400)
 1-L 100 x 100 x 10 x 145 (SS400) ※
 2-TCB M20 x 55 (S10T) ※
 4-BN M12 x 40 (2W)
 2-BN M12 x 35 (2W)
- ※は塗装塗替工に準じ、主桁同様の塗装とする。

位置図 S=1:150



溶融亜鉛メッキ膜厚表	
記号	適用例
HDZT49	厚さ1mm以上の部材、直径12mm以上のボルト・ナット及び厚さ2.3mmを超える座金
HDZT56	厚さ2mm以上の部材
HDZT63	厚さ3mm以上の部材
HDZT70	厚さ5mm以上の部材
HDZT77	厚さ6mm以上の部材

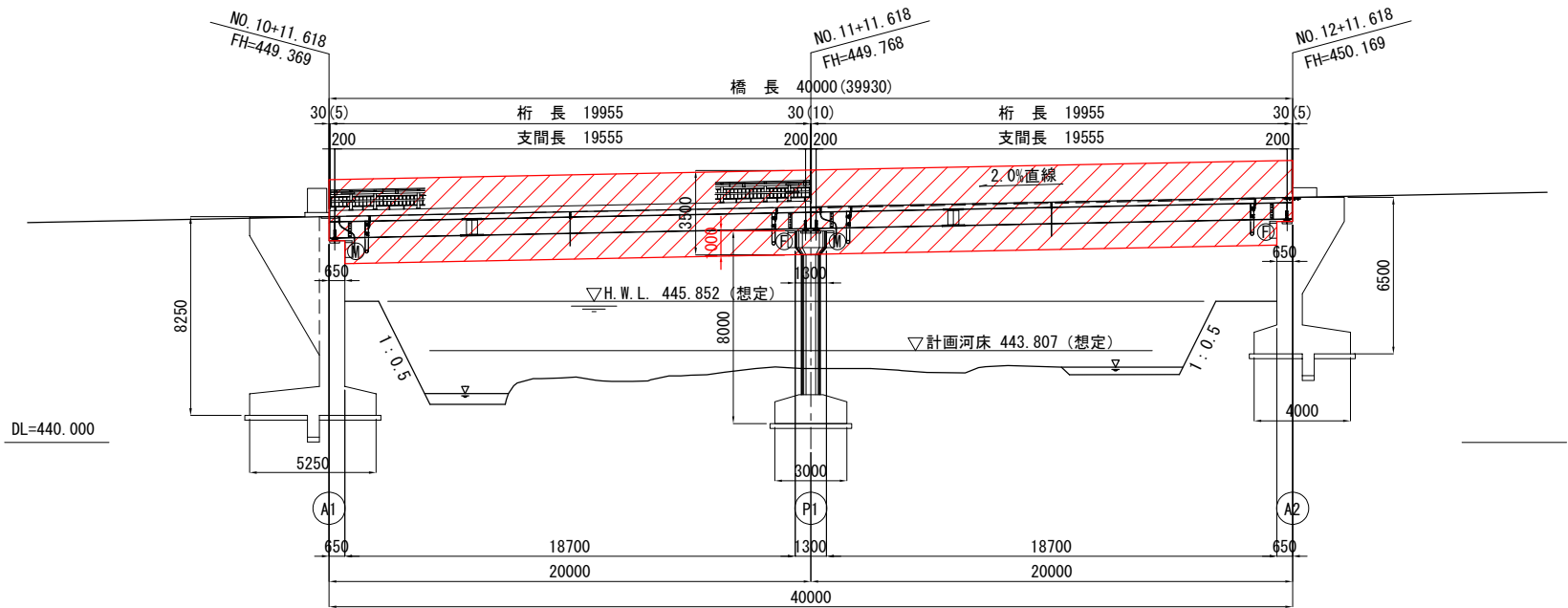
<注記>

1. 各寸法は現場再実測の上で決定すること。
2. 現場寸法を確認し、部材製作及び施工を行うこと。
3. 排水管支持金具は、溶融亜鉛メッキ仕上げ(HDZ777 旧規格:HDZ255)の鋼材関係はHDZ749 旧規格:HDZ35)とする。溶融亜鉛メッキ(厚膜表を参照のこと。
4. 排水管支持金具の主桁接合部には塗装塗替え工に準じ、主桁同様の塗装とする。

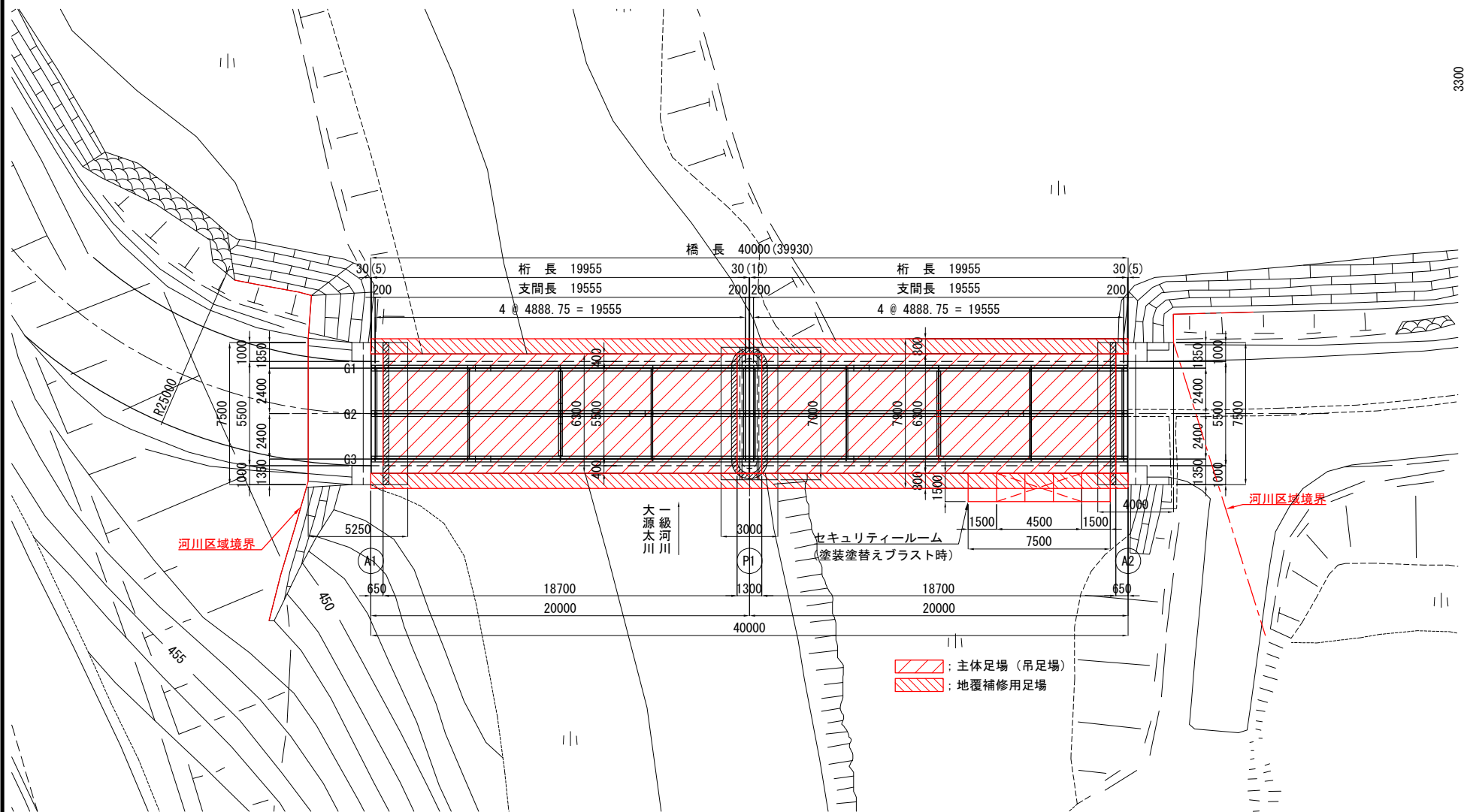
年度		工事番号		号
谷後線 南魚沼郡湯沢町大字土樽 地内				
工事				
谷後橋 排水装置補修図(2)				
縮 尺	図 示	図面全 33		葉の 27
測 量			令和	年 月
設 計	株式会社 構造技研新潟		令和	6年12月
湯 沢 町				

谷後橋 仮設足場図（参考図）

側面図 S=1:150

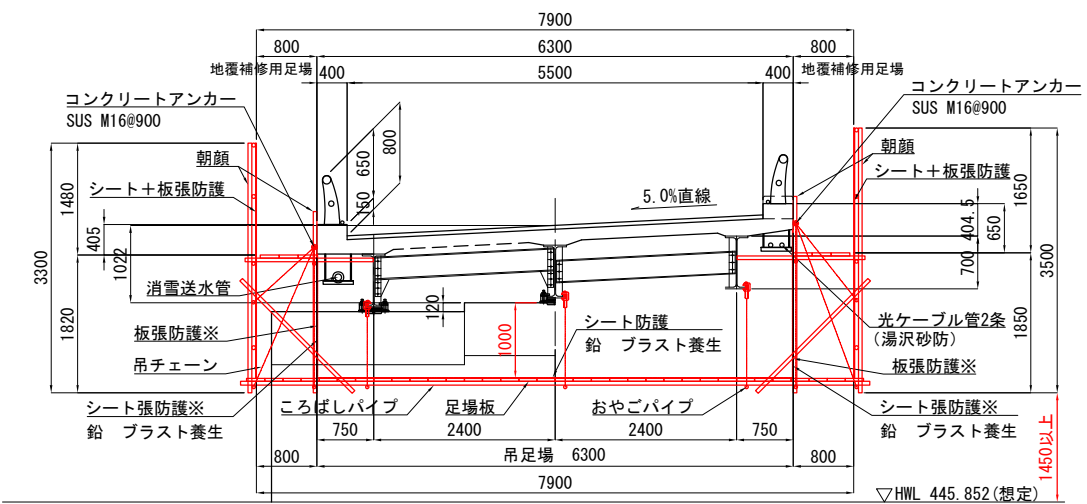


平面図 S=1:150

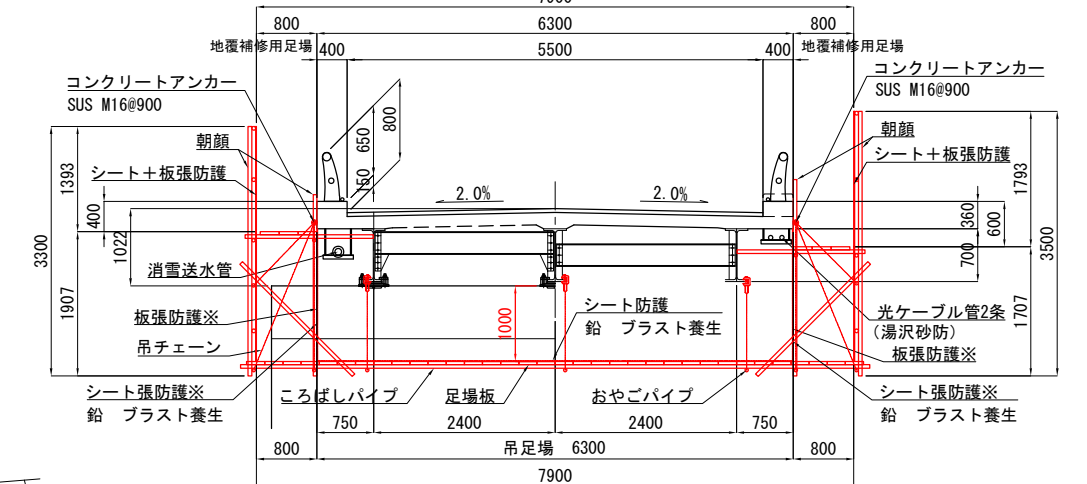


断面図 S=1:50

A1側端部

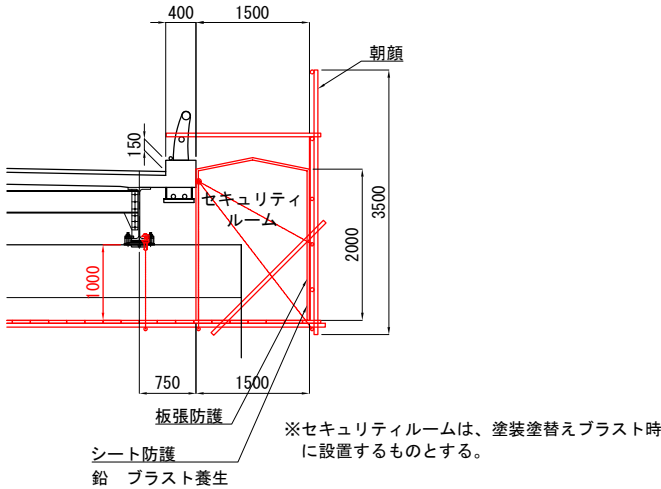


一般部



※吊足場側面の板張防護及びシート張防護は、塗装塗替え（Rc-I 塗装系）時に行うものとする。

セキュリティールーム計画図 S=1:50

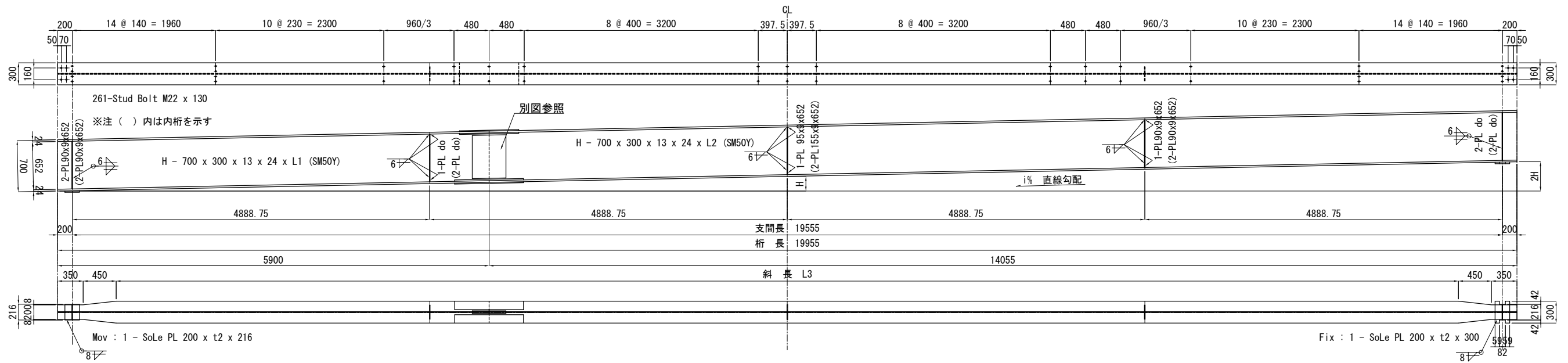


- <注記>
- 各寸法は現場再実測の上決定すること。
 - 本図はあくまで参考図であり、実施工においては現地状況、仮設備、環境保全対策等を十分検討のうえ施工すること。

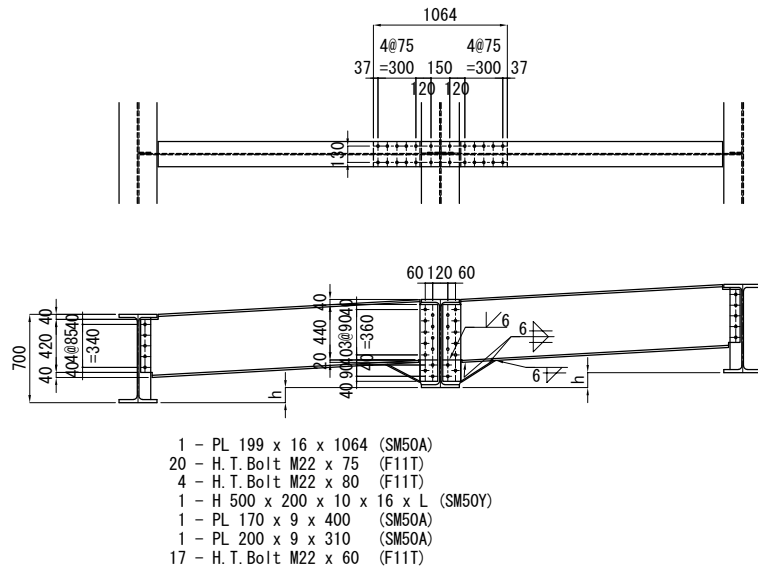
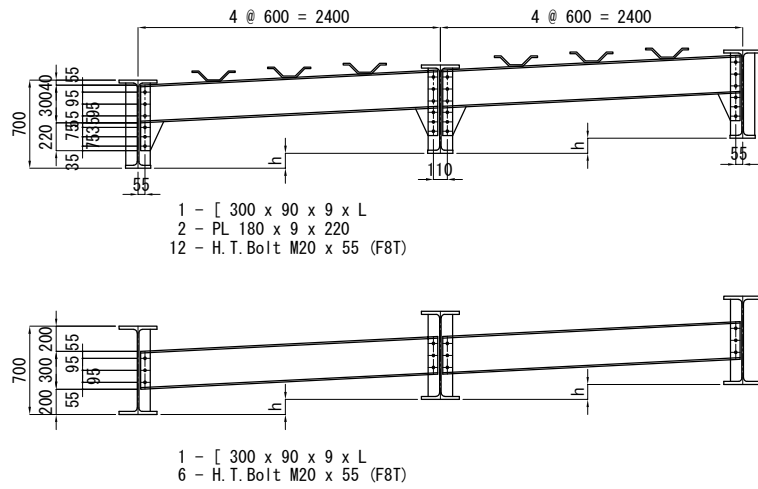
年度	工事番号	号
谷後線	南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
工事		
谷後橋 仮設足場図（参考図）		
縮尺	図示	図面全 33 葉の 28
測量		令和 年 月
設計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月
湯 沢 町		

谷後橋 主桁・横桁構造図

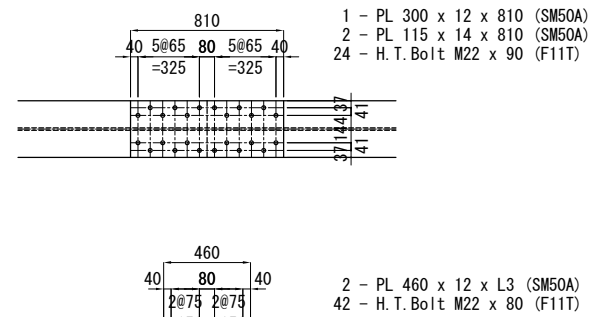
主 桁 S=1:30



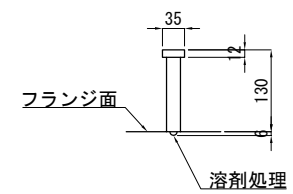
横 桁 S=1:30



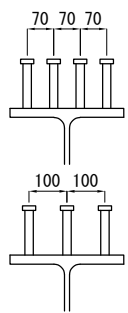
接手詳細図 S=1:2



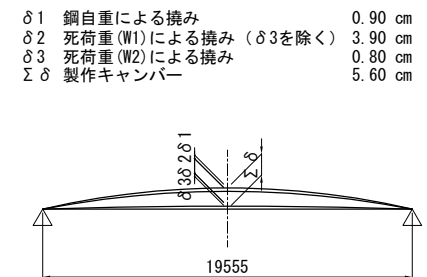
ジベル詳細図 S=1:6



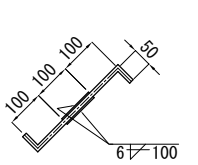
S=1:10



キャンバー図



スラブ止メ詳細図 S=1:10

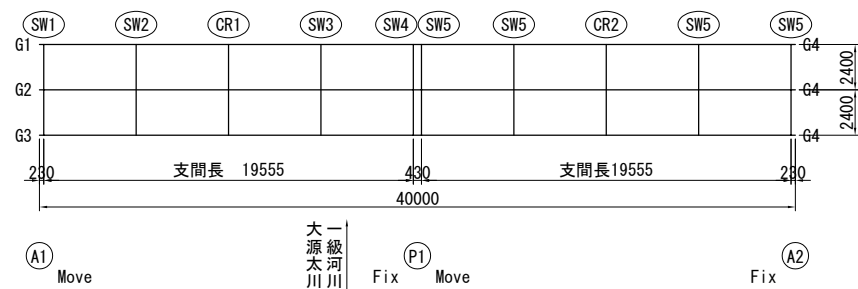


寸法図

	i (%)	2H (mm)	L1 (mm)	L2 (mm)	L3 (mm)	t1 (mm)	t2 (mm)
G1	2.575	514	5920	14078	18398	19.4	24.6
G2	1.975	394	5915	14072	18387	20.0	24.0
G3	1.375	274	5910	14066	18376	20.6	23.4
G4	2.000	399	5915	14072	18387	20.0	24.0

	SW1	SW2	CR1	SW3	SW4	SW5	CR2
h	119	89	60	31	2	0	0
L	2378	2373	2369	2364	2360	2360	2360

配置図 S=1:200



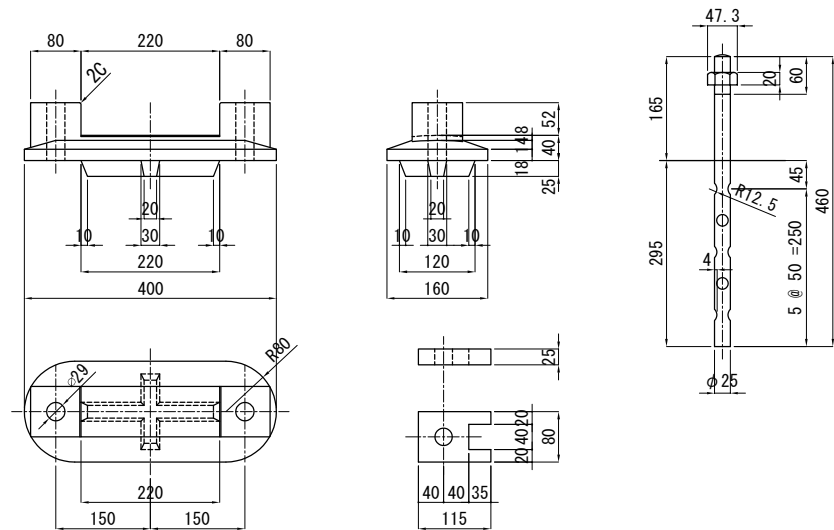
＜注記＞

1. 本図面は、建設時設計図面の主桁・横桁構造図を復元したものである。
2. 特記なき材質は全てSS41とする。
3. 便宜上、一部の部材番号を変更している。

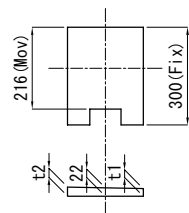
年度		工事番号		号
谷後線 南魚沼郡湯沢町大字土樽 地内				
工事				
谷後橋 主桁・横桁構造図				
縮 尺	図 示	図面全 33 葉の 29		
測 量			令和	年 月
設 計	株式会社 構造技研新潟		令和	6年12月
湯 沢 町				

谷後橋 支承詳細図

S-35脊 S=1:6



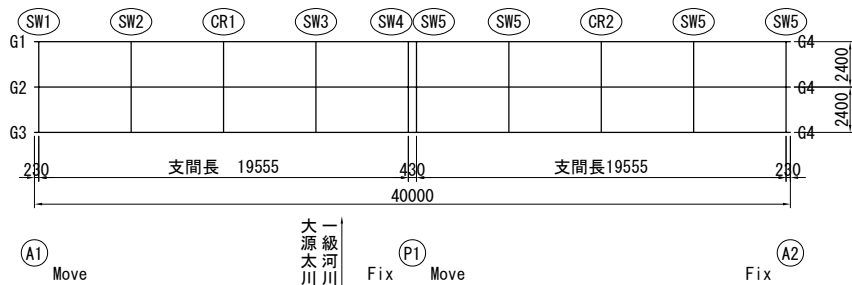
ソールプレート詳細図 S=1:10



寸法図

	i (%)	2H (mm)	L1 (mm)	L2 (mm)	t1 (mm)	t2 (mm)
G1	2.575	514	5920	14078	19.4	24.6
G2	1.975	394	5915	14072	20.0	24.0
G3	1.375	274	5910	14066	20.6	23.4
G4	2.000	399	5915	14072	20.0	24.0

配置図 S=1:200

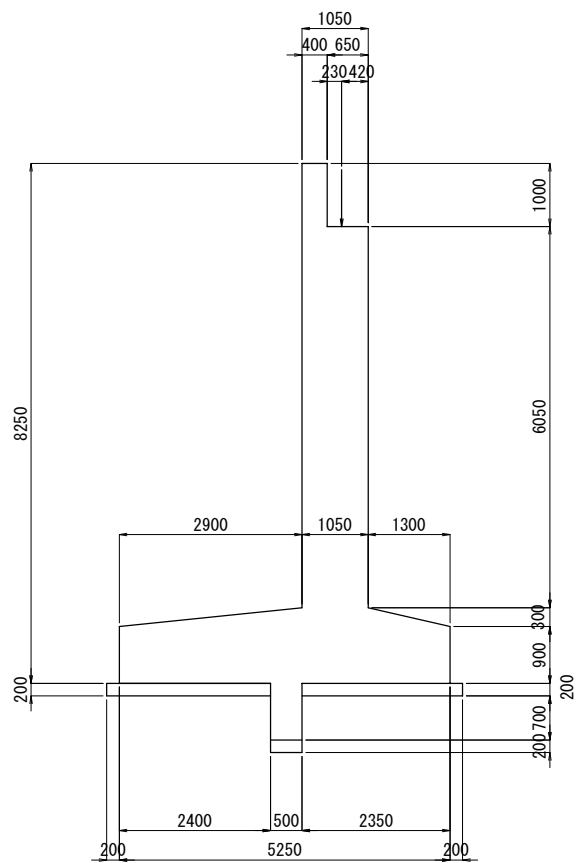


<注記>
1. 本図面は、建設時設計図面の主桁・横桁構造図を復元したものである。
2. 便宜上、一部の部材番号を変更している。

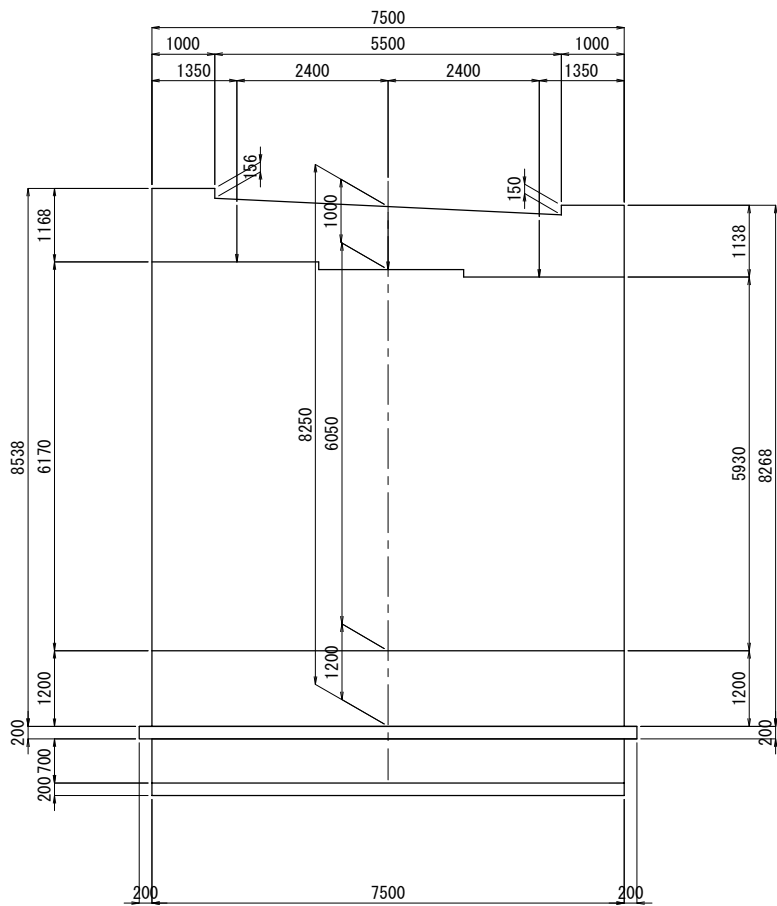
年度		工事番号	号
谷後線		南魚沼郡湯沢町大字土樽	地内
		工事	
		谷後橋 支承詳細図	
縮 尺	図示	図面全 33	葉の 30
測 量		令和	年 月
設 計	株式会社 構造技研新潟	令和 6年12月	
湯		沢	町

谷後橋 A1橋台構造一般図 S=1:60

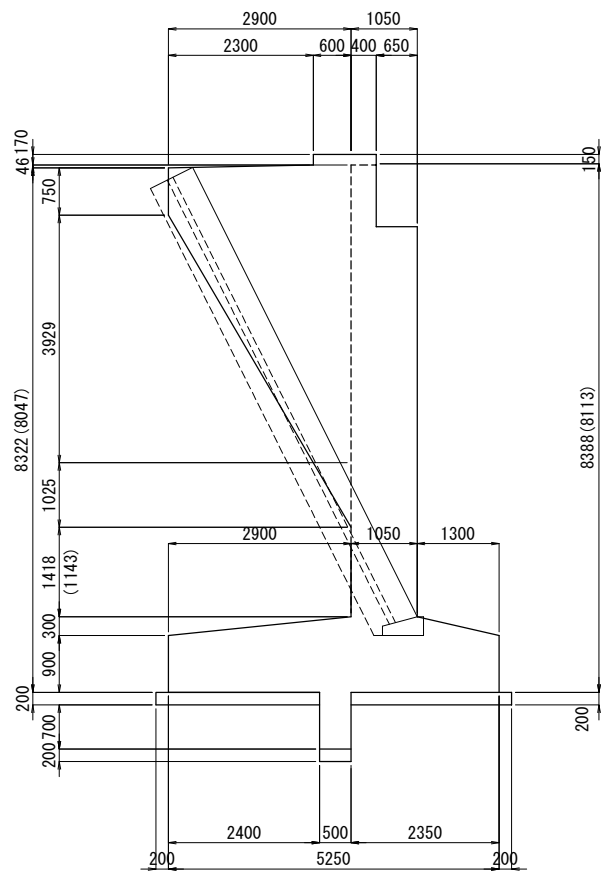
断面図



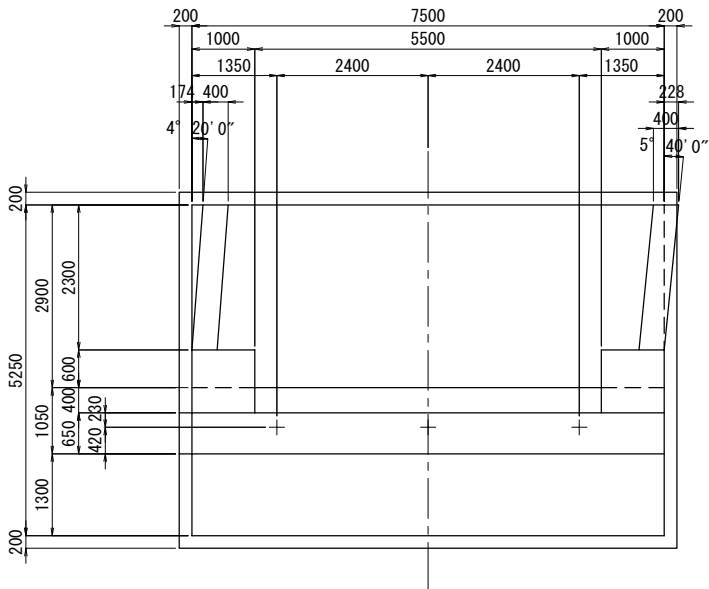
正面図



側面図



平面図

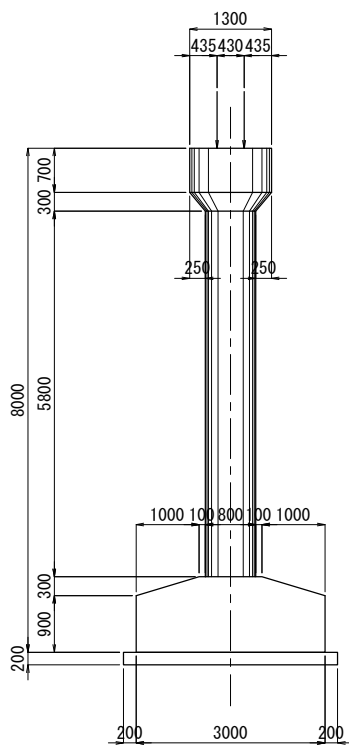


<注記>
1. 本図面は、既存資料（設計図面、工事図面等）を基に復元（CAD化）したものである。なお、不明な部分については、一部推定して作成している。

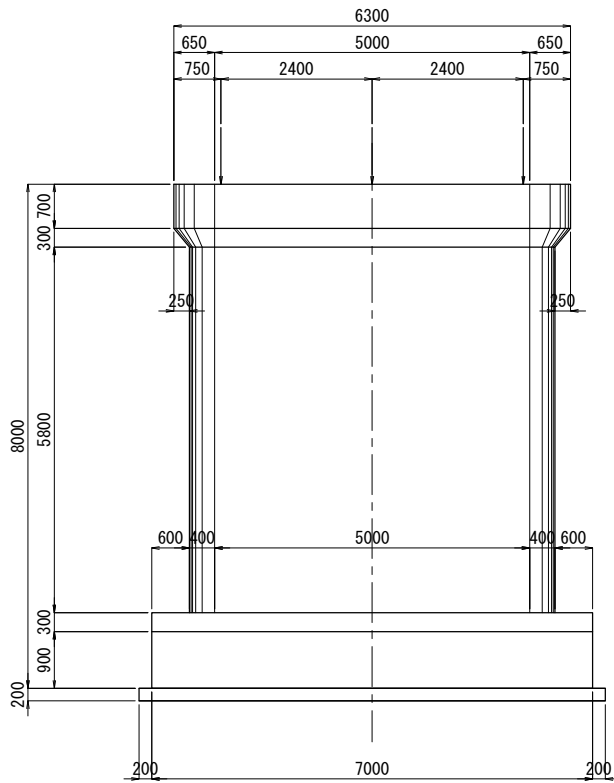
年度		工事番号		号
谷後線 南魚沼郡湯沢町大字土樽 地内				
工事				
谷後橋 A1橋台構造一般図				
縮 尺	図 示	図面全 33 葉の 31		
測 量			令和	年 月
設 計	株式会社 構造技研新潟		令和	6年12月
湯 沢 町				

谷後橋 P1橋脚構造一般図 S=1:60

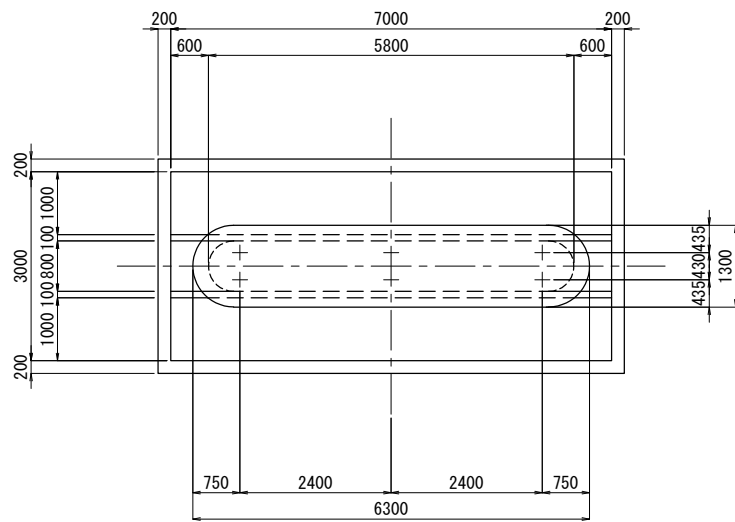
側面図



正面図



平面図

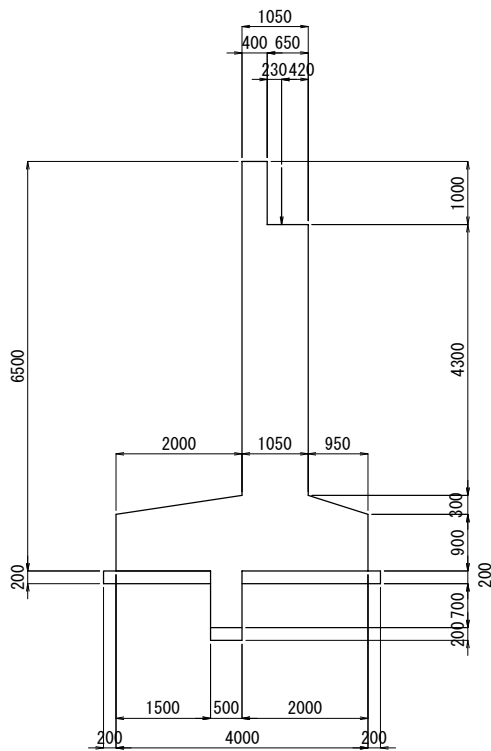


<注記>
1. 本図面は、既存資料（設計図面、工事図面等）を基に復元（CAD化）したものである。なお、不明な部分については、一部推定して作成している。

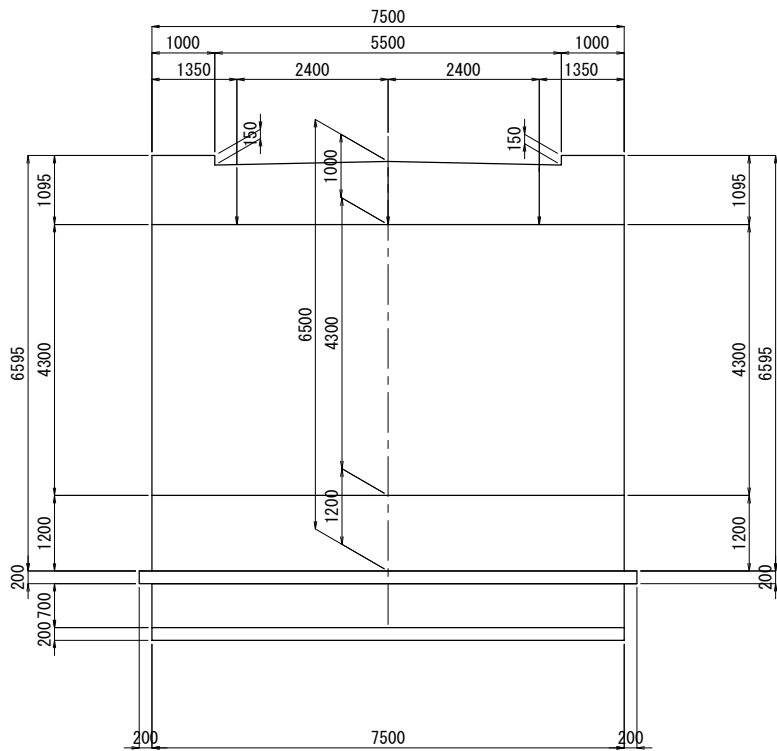
年度		工事番号	号
谷後線 南魚沼郡湯沢町大字土樽 地内			
工事			
谷後橋 P1橋脚構造一般図			
縮 尺	図 示	図面全 33	葉の 32
測 量			令和 年 月
設 計	株式会社 構造技研新潟		令和 6年12月
湯 沢 町			

谷後橋 A2橋台構造一般図 S=1:60

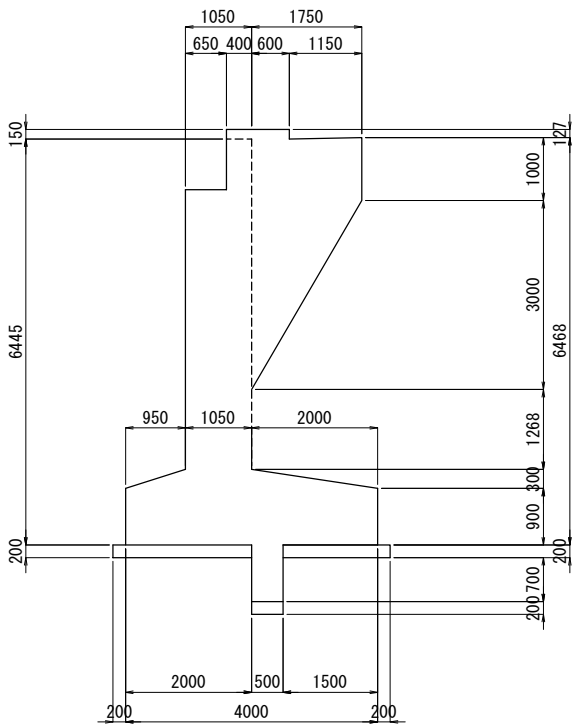
断面図



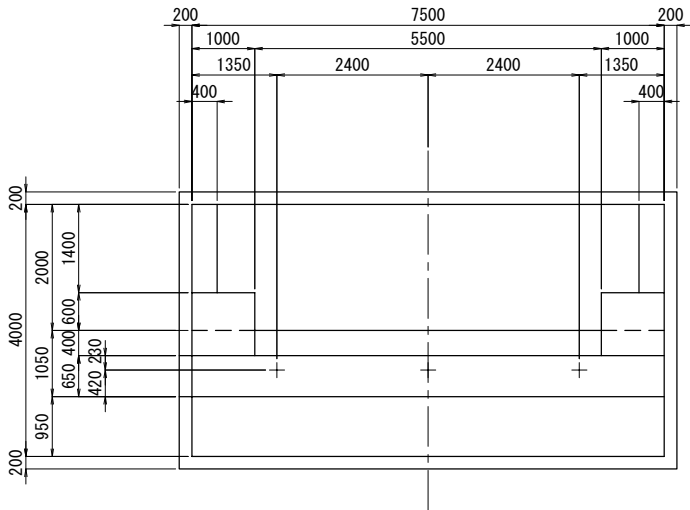
正面図



側面図



平面図



<注記>
1. 本図面は、既存資料（設計計算書等）を基に復元（CAD化）したものである。なお、A2橋台に関しては、建設時図面が無く、一般図やA1橋台を参考としている。また、不明な部分については、一部推定して作成している。

年度		工事番号		号
谷後線 南魚沼郡湯沢町大字土樽 地内				
工事				
谷後橋 A2橋台構造一般図				
縮 尺	図 示	図面全 33 葉の 33		
測 量			令和	年 月
設 計	株式会社 構造技研新潟		令和 6年12月	
湯 沢 町				